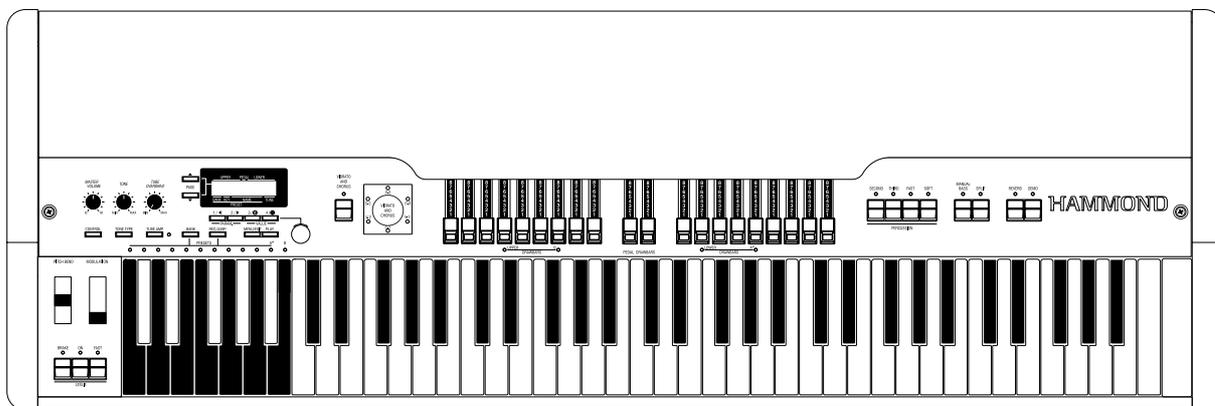


Model XK-3

お買いあげいただきまして誠にありがとうございます。
ございます。

本製品を末永く、そして安全にご使用いただくため、この取扱説明書をよくお読みください。

お読みになった取扱説明書は、大切に保管してください。



取扱説明書



<http://www.suzuki-music.co.jp/>

インターネットでスズキホームページをご覧頂けます。

安全上のご注意

ご使用になる前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
お読みになった後は、必ず保存してください。
ここに示した注意事項は、安全に関する重要な内容を記載していますので、下記の指示を必ず守ってください。
本書では、危険や損害の程度を次の区分で表示し、説明しています。

	警告	この表示内容を見逃した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が想定されます。
	注意	この表示内容を見逃した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的障害が発生する可能性が想定されます。



警告



電源は必ず交流 100V でご使用ください

交流 100V 以外の電圧でご使用になると、火災や感電の恐れがあります。



異常を感じたら電源を切ってください

万一異臭や発熱などの異常を感じたときは、電源を切り電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ販売店やスズキ各営業所にご連絡ください。
異常状態でのご使用は火災・感電の原因となります。



異物が入ったときは、電源プラグを抜いてください

製品に異物（硬貨や針金）や液体（水やジュースなど）を入れないようにしてください。
故障の原因となるだけでなく、感電の恐れがあり大変危険です。
万一、異物が内部に入ったときは直ちに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ販売店またはスズキ各営業所にご連絡ください。



改造・分解は危険です

改造や分解はしないでください。故障の原因となるだけでなく、感電の恐れがあり大変危険です。



濡れた手で触れないでください

濡れた手で電源プラグ・コード及び本体に触れないでください。故障の原因となるだけでなく、感電の恐れがあり大変危険です。



湿気が多い場所は避けてください

水分や湿気が多い場所では絶対に使用・保管しないでください。故障の原因となるだけでなく、感電の恐れがあり大変危険です。



ほこりの多い場所は避けてください

ほこりの多い場所での使用は避けてください。故障や発火の原因になることがあります。
また電源プラグにほこりが付いている場合、そのまま使用すると感電などの原因となりますので、ほこりを拭き取ってからご使用ください。



次のような場合はただちに電源を切って電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ販売店またはスズキ各営業所にご連絡ください。

- 電源コードやプラグが破損したとき
- 異物や液体が中に入ったとき
- 機器が雨その他で濡れたとき
- 機器に異常が発生したとき

注意



熱くなる場所を避けてください

自動車の中や暖房器具のすぐ近くなど、極端に熱くなるところでの使用、保管は避けてください。変形・故障の原因になることがあります。



放熱を妨げないでください

設置時は放熱をよくするために、背面と壁や他の機器との間に20cm以上の隙間をあけてください。放熱が不十分だと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。



衝撃を与えないでください

製品をぶつけたり、落としたりしないでください。製品に傷を付けるだけでなく故障の原因になります。



製品の上に乗ったり、重いものを乗せたりしないでください

製品が破損する原因にもなりますし、製品が転倒したりしてお客様がケガをする危険性があります。



不安定な場所に置かないでください

製品を不安定な場所に置かないでください。転倒・落下して、お客様がケガをする危険性があります。



移動の際には接続ケーブルをすべて外してください

移動させるときは電源プラグ、接続ケーブルはすべて外してください。コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。



使わないときは電源プラグを抜いてください

ご使用の後は電源スイッチを切ってください。長時間使用しないときや落雷の恐れがある場合は、製品保護のためコンセントから電源プラグを抜いてください。



コードは引っ張らないでください

電源コードの上に物を置いたり、引っ張ったりしないでください。また電源プラグをコンセントから抜くときは電源コードではなく、必ず電源プラグを持って引き抜いてください。電源コードが傷つき、感電などの原因になり大変危険です。



お手入れは柔らかい布で

お手入れは柔らかい布でから拭きしてください。アルコール・シンナー・ベンジン等は製品を傷めますので絶対に使用しないでください。



接続時は電源を切って

各機器との接続時は、接続するすべて機器の電源を切ってください。それぞれの機器の取扱説明書に従い、指定のコードを使用して接続してください。

電源を入れる前に音量（ボリューム）を最小にしてください。突然大きな音が出て聴覚障害を引き起こす恐れがあります。



大音量に注意

不快に感じるような大音量では、使用しないでください。この機器は大音量での使用により、聴覚障害を引き起こす恐れがあります。

この機器に表示されているマークには、次のような意味があります。



注意 : 感電の恐れあり キャビネットをあけるな
 ATTENTION : RISQUE DE CHOC ELECTRIQUE NE PAS OUVRIR
 WARNING : TO REDUCE THE RISK OF FIRE OR ELECTRIC SHOCK DO NOT EXPOSE THIS APPLIANCE TO RAIN OR MOISTURE

	<p>このマークは、機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。</p>
	<p>このマークは、注意喚起シンボルであり取扱説明書などに、一般的な注意、警告、危険の説明が記載されていることを表しています。</p>

使用上のご注意

使用環境のご注意

直射日光の当たるところ、暖房器具のすぐ近く、湿気やほこりの多いところでの使用は避けてください。この製品は、常温の屋内で使用するように設計されています。屋外で使用される場合は、1) 雨がかからない場所、2) 強風が吹かない場所、3) 極端な温度変化のない場所に設置してください。

据付場所のご注意

設置、据付の前に取扱説明書をよくお読みください。

平らで安定した場所への設置、据付をしてください。不安定な場所への設置、据付は絶対にしないでください。火災、地震の際にはオルガンに近づかないようにしてください。

使用される前のご注意

使用される前には必ず取扱説明書をお読みください。

電源コードは、プラグを定格電圧 100V 50/60Hz のコンセントにしっかりと差し込んで使用してください。

電源コードをコンセントに差し込む場合は、必ず本体の電源をオフにしてください。また濡れた手で電源コードを触りますと、感電する恐れがありたいへん危険です。

コードを抜くときは、コードを引っ張って抜かないで、必ず根本の部分を持って抜いてください。

長時間ご使用にならない場合には、電源コードをコンセントから抜いておいてください。

外部機器（例えばレスリースピーカー、MIDI 機器）を接続して使用する場合にも、必ず本体の電源をオフにしてください。接続するレスリースピーカー、MIDI 機器の電源もオフにしてください。

用途以外の使用禁止

本機の上に乗ったり、物を置いたりしないでください。

転倒や落下の恐れがありたいへん危険です。

使用方法

取扱説明書に記載されている以外の方法で使用しないでください。

本体、各種装備、または内部電子部品を改造しないでください。

もし改造された場合は非常に危険です。正常動作の保証は致しません。

保守

キャビネット、鍵盤等を汚れていない乾いた布などで拭き、本機を常に清潔にしてください。

アルコール、ベンジン、シンナー等は製品を傷める恐れがあります。

異常時の処置

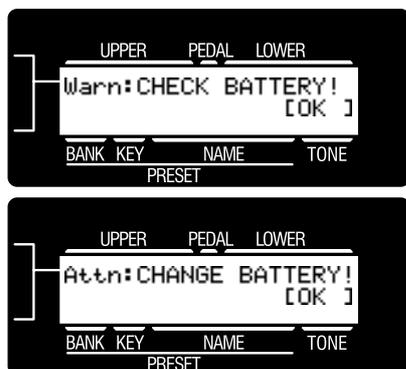
異音、異臭等が発生した場合には、本体の電源を切り、速やかに専門のサービス員に点検を依頼してください。絶対に内部の電子機器に触れないでください。感電する恐れがあります。

メモリーのバックアップについて

本機は、内蔵されている電池によりデータのバックアップを行っています。

電源を入れたときに次のようなディスプレイ表示が出たときは、電池の交換が必要です。

電池の電圧が低くなっています

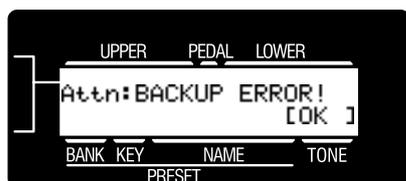


バックアップ用電池の電圧が下がっています。お早めに、購入店に電池の交換をご依頼ください。

※本機は、電源を入れたとき、メモリー・チェックを行います。もしメモリーのバックアップが正常に行われていないと、自動的にイニシャライズ（初期化）を行います。

※電池交換の目安は、製造年月日よりおよそ5年です。

バックアップ不能です



電池の電圧が低く、バックアップができません。購入店に電池の交換をご依頼ください。この表示が出た後、本機は自動的にイニシャライズ（初期化）を行います。

本機の故障、外的ノイズ、修理や電池交換などによるメモリー内容の消失により生じた損傷、逸失利益又は第三者からのいかなるご請求についても、当社では一切その責任を負えませんので、予めご了承ください。

お客様が作成された各パラメータは電池によってバックアップされています。大切なデータはCFカード等に保存することをお勧めします。

目次

安全上のご注意	2
使用上のご注意	4
メモリーのバックアップについて	5
本機の特長	9
各部の名称と働き	10
フロントパネル	10
エンドブロック	12
リアパネル	13
接続のしかた	15
基本的な接続	16
エフェクトループの使用	16
レスリースピーカーの接続	17
MIDI キーボードの接続	18
演奏してみよう	19
電源を入れる	20
電源の入れかた	20
バックアップ	20
工場出荷時の設定に戻す	20
デモ演奏を聴く	21
コンビネーションプリセットで演奏する	22
プリセットの呼び出しかた	22
1. バンクを選ぶ	22
2. キーを選ぶ	22
コントローラーを使って演奏する	23
ピッチバンドホイール	23
エクスプレッションペダル	23
フットスイッチ	23
自分で音づくりをしてみよう	24
プリセットキー[B]を選ぶ	24
左ドロージャーを引き出す	24
パーカッションを足す	24
エフェクトをかける	25
ビブラート/コーラス	25
オーバードライブ	25
レスリー	25
リバーブ	25
鍵盤の左右でパートを使い分ける(スプリット)	26
鍵盤演奏にベースを足す(マニュアルベース)	26
パートとは?	26
コンビネーションプリセットに記憶する	27

セッティングをつくる	29
音源の構成	30
本機のシステム構成	30
ドロージャー	32
白いドロージャー	33
黒いドロージャー	33
茶色のドロージャー	33
ドロージャー・レジストレーション・パターン	34
3組のドロージャーとパート	36
レジストレーションをドロージャーに合わせる	36
パーカッション	37
ご注意	37
パーカッションが鳴らない	37
ドロージャーキャンセル	37
ビブラート/コーラス	38
チューブアンプ	39
レスリー	40
イコライザー、リバーブ	41
イコライザー	41
リバーブ	41
コンビネーションプリセット	42
バンクとキー	42
名前を付ける	43
コンビネーションプリセットに記憶させる	44
コントロールパネルの使いかた	45
コントロールパネルでできること	46
プレイ画面	47
ディスプレイの見かた	47
メニュー画面	48
ディスプレイの見かた	48
この画面でのボタン操作	48
機能画面	49
ディスプレイの見かた	49
この画面でのボタン操作	49
操作例：パーカッション[FAST]時の減衰時間	50
機能画面へ簡単に行く(ショートカット)	52
操作例：パーカッション機能画面へ行く	52
良く行く画面を登録する	52
操作例：ドロージャー・ペダル画面を登録する	52

パラメータを設定する 53

DRAWBAR (ドローバー)	54
PRESET (プリセット)	56
リンクロー/ペダルの効果的な使用法	57
CONTROL (コントロール)	58
コントロールモードの効果的な使用法	62
TUNE (チューン)	63
Custom Tone-wheel (カスタムトーンホイール) ..	64
トーンホイールを記憶させる	66
PERCUSS (パーカッション)	67
LESLIE (レスリー)	68
キャビネットを記憶させる	70
OD/VIB (オーバードライブ/ビブラート)	71
EQUALIZ (イコライザー)	72
REVERB (リバース)	73
DEFAULT (デフォルト)	74
SYSTEM (システム)	75

MIDI 77

MIDI について	78
MIDI (ミディ) とは?	78
本機のMIDI 端子	78
本機のMIDI 端子でできること	78
本機のMIDI 構成	80
鍵盤を拡張する	81
演奏を記録/再生する	82
●シーケンサーやコンピューターへの記録	82
●シーケンサーやコンピューターからの再生	82
外部音源をコントロールする	83
ZONES (ゾーン)	84
MIDI (ミディ)	86

設定を保存する 89

設定を保存する	90
使用できるCF カード	90
CF カードスロット	90
保存される内容と容量	90
CF カードを初期化する	91
SETUP (セットアップ) を操作する	92
画面の見かた	92
セットアップを保存する	92
セットアップ名を変更する	93
セットアップを読み込む	94
セットアップを削除する	94

トラブルシューティング 95

故障とお考えになる前に	96
-------------------	----

APPENDIX 97

Custom Tone-wheel Templates	98
MIDI Templates	99
Part and MIDI Messages	101
MIDI Information	102
Drawbar Data List	103
System Exclusive Message	104
Global Parameters	105
Tone-wheel Parameters	105
Preset Parameters	106
Leslie Parameters	108
System Parameters	108
Combi. and Bank/Program Messages	109
Specifications	110
サービスについて	111

本書で使用している記号

MEMO:

……本文の補足説明です。

tips

……用語や応用の説明です。

トーンホイールの音づくりを再現

仮想トーンホイール方式を採用し、B-3に代表されるトーンホイールオルガンの音づくりを再現（手鍵盤）。全鍵盤発音を利用したプレイや、ホイール1枚毎のチューニングなどそのままのフィールが楽しめます。

ビンテージモデルそのままの操作性

ビンテージモデルB-3/C-3と同様の操作子を装備しました。リバースキーによるプリセット、ロータリーつまみによるビブラートモードや、ウォーターフォール（手前が平面）鍵盤を搭載しています。また、レスリースイッチ（別売）の取付も可能です。

真空管プリアンプ搭載

真空管を使用したプリアンプ回路を搭載し、独特のウォームなサウンドからクランチ、ハードなオーバードライブまで様々なサウンドが得られます。またオーバードライブはデュアルバンド構成で、ハードに歪みながらも和音の濁りを少なくすることが出来ます。

デジタルレスリー/ビブラート

スキャナー・ビブラートやレスリー・スピーカーをシミュレートしたDSPエフェクトを搭載しました。単なる音程変化に留まらないビブラートやコーラス、2つのローターの回転感がリアルなレスリーによって、音づくりの幅が広がります。

11ピンレスリー端子搭載

レスリースピーカーをダイレクトに接続できる、11ピンのレスリー端子を搭載しました。

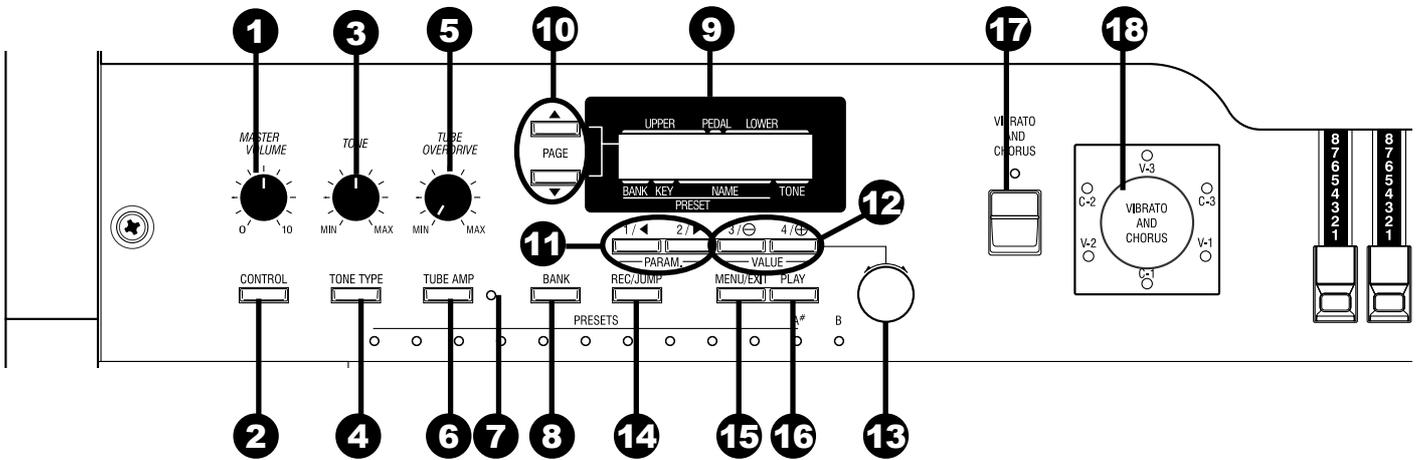
MIDI機能でシステムアップ

様々なMIDI機器とのシステムアップが可能です。MIDIキーボードを接続し鍵盤数の拡張（下鍵盤、足鍵盤）や、3ゾーンを使用した外部音源のコントロール（本機がマスターキーボードに）、また鍵盤数を拡張した状態での外部シーケンサへの演奏記録も考慮されています。

CFカード対応

様々なパラメータをファイル単位で保存できる、コンパクトフラッシュカードに対応しました。

フロントパネル

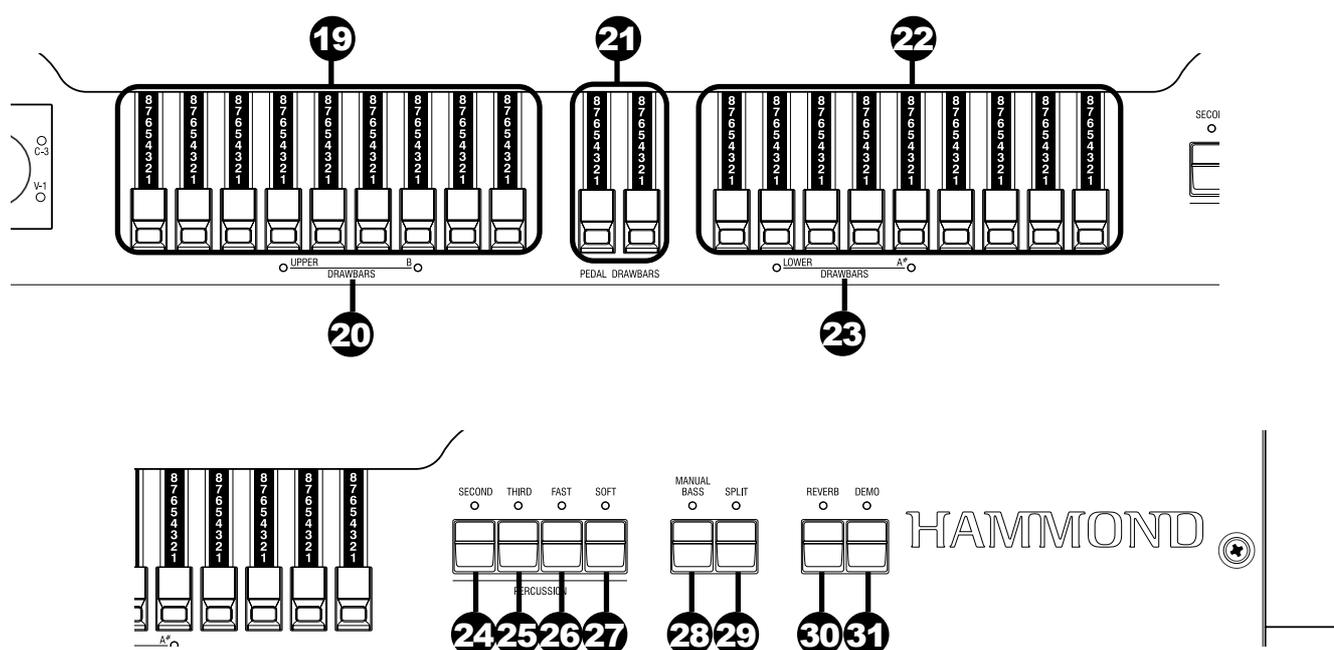


上面左側

1. MASTER VOLUME (マスターボリューム) つまみ
全体の音量を調節します。
2. CONTROL (コントロール) ボタン
各種コントローラの設定を行います。
3. TONE (トーン) つまみ
音質調整を行います。
4. TONE TYPE (トーンタイプ) ボタン
TONEつまみ(3)の機能割り当てを行います。
5. TUBE OVERDRIVE (チューブオーバードライブ) つまみ
チューブアンプ(6)の歪み量を調整します。
6. TUBE AMP (チューブアンプ) ボタン
手鍵盤の音色をチューブアンプ回路に通すかどうかを設定します。
7. TUBE AMP (チューブアンプ) ランプ
チューブアンプの状態を表示します。
8. BANK (バンク) ボタン
プリセットキー(37)と併用してバンクの切替を行います。

コントロールパネル

9. ディスプレイ
各種情報が表示されます。
10. PAGE (ページ) ボタン
項目を選択するのに使用します。
11. PARAM (パラメータ) ボタン
項目を選択するのに使用します。
12. VALUE (バリュー) ボタン
値を増減するのに使用します。
13. VALUE (バリュー) つまみ
値を増減するのに使用します。
14. REC/JUMP (レコード/ジャンプ) ボタン
プリセットを記録します。また、値や項目を大きく移動する場合にも使用します。
15. MENU/EXIT (メニュー/イグジット) ボタン
メニュー画面を呼び出します。また、各機能画面から戻る場合にも使用します。
16. PLAY (プレイ) ボタン
基本画面であるプレイ画面に飛びます。



ビブラート/コーラス

17. VIBRATO/CHORUS (ビブラート/コーラス) ボタン

手鍵盤にかかるビブラート/コーラス効果のオンオフを行います。

18. VIBRATO/CHORUS MODE (ビブラート/コーラスモード)

つまみ

ビブラート効果の深さと、コーラス効果との切替を行います。

ドローバー

19. 左ドローバー

UPPER (アパー) パート又はBキーのハーモニクスを調節します。

20. 左ドローバーランプ

左ドローバーの機能を表示します。

21. ペダルドローバー

PEDAL (ペダル) パートのハーモニクスを調節します。

22. 右ドローバー

LOWER (ロワー) パート又はA#キーのハーモニクスを調節します。

23. 右ドローバーランプ

右ドローバーの機能を表示します。

パーカッション

24. SECOND (セカンド) ボタン

UPPER (アパー) パートに、4'のパーカッション (減衰音) を加えます。

25. THIRD (サード) ボタン

UPPER (アパー) パートに、2 2/3'のパーカッション (減衰音) を加えます。

26. FAST (ファースト) ボタン

パーカッションの減衰時間を切り替えます。

27. SOFT (ソフト) ボタン

パーカッションの音量を切り替えます。

上面右側

28. MANUAL BASS (マニュアルベース) ボタン

手鍵盤 (38) で弾いた最低音で、PEDAL パートを発音させます。

29. SPLIT (スプリット) ボタン

手鍵盤 (38) を UPPER と LOWER 2つのパート用に分割します。

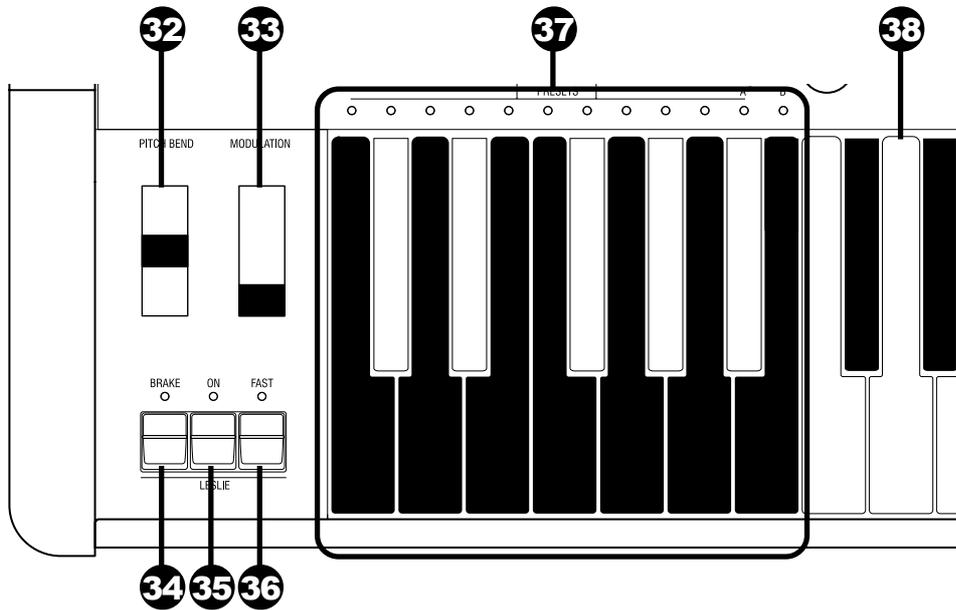
30. REVERB (リバーブ) ボタン

リバーブ効果のオンオフを行います。

31. DEMO (デモ) ボタン

内蔵のデモ演奏を再生します。

エンドブロック



ホイール

32. PITCH BEND (ピッチベンド) ホイール

鍵盤を弾きながら操作して、音程を変化させるのに使用します。

奥に動かすと音程が上がり、手前に動かすと下がります。

33. MODULATION (モジュレーション) ホイール

本機では主に、MIDI 機器にモジュレーション情報を送信するのに使用します。

レスリー

34. LESLIE BRAKE (レスリーブレイク) ボタン

LESLIE ON (35) がオフの時に、停止したローターから音を出す (ブレイク) か、レスリー効果を使わない (スルー) かを選びます。

ランプ点灯時がブレイクです。

35. LESLIE ON (レスリーオン) ボタン

オンにするとローターを回転させ、またローターから音を出します。

ランプ点灯時がオンです。

36. LESLIE FAST (レスリーファースト) ボタン

ローターの回転数を低速 (スロー)、高速 (ファースト) に切り替えます。

ランプ点灯時がファーストです。

鍵盤

37. プリセットキー

コンビネーションプリセットの選択に使用します。

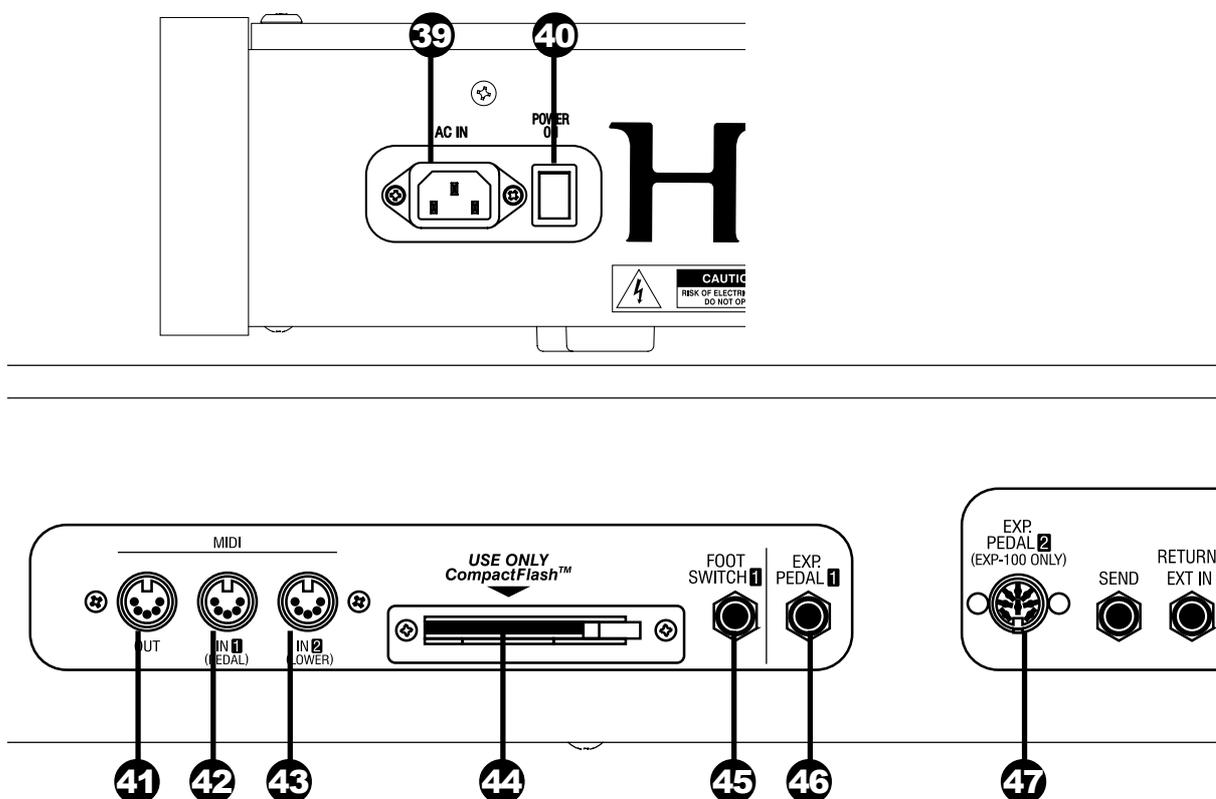
また、BANK (8) を押しながら押すと、バンクの選択を行います。

選択されたバンク/プリセットはプリセットキー上のランプに表示されます。

38. 手鍵盤

ウォーターフォール形、61 ノート、ペロシティ付きの鍵盤です。

リアパネル



背面左側

- 39. AC インレット**
付属の電源コードを接続します。
- 40. 電源スイッチ**
本機の電源をオン/オフします。

MIDI 端子

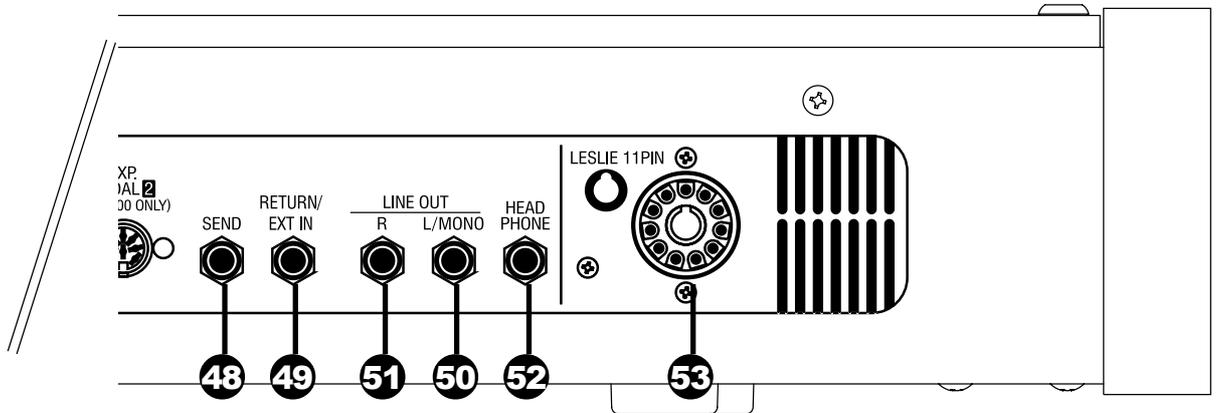
- 41. MIDI OUT**
本機の演奏情報を出力します。
- 42. MIDI IN 1(PEDAL)**
主にペダル鍵盤用のMIDI入力端子です。
工場出荷時には、この端子はMIDIチャンネルに従った受信を行います。設定により、チャンネルに関わらずPEDALパートとして動作することもできます。
- 43. MIDI IN 2(LOWER)**
主にローワー鍵盤用のMIDI入力端子です。
工場出荷時には、この端子はMIDIチャンネルに従った受信を行います。設定により、チャンネルに関わらずLOWERパートとして動作することもできます。

ストレージ

- 44. CF カードスロット**
コンパクトフラッシュカードの挿入口です。
本機の設定を保存するのに使用します。
コンパクトフラッシュカードは、当社推奨品をご使用ください。

コントローラ端子

- 45. FOOT SWITCH1 (フットスイッチ1) 端子**
フットスイッチ (別売FS-9Hなど) やレスリースイッチ (別売CU-1) の接続端子です。
演奏中にレスリー効果の回転数の切り替えや、コンビネーションプリセットの切り替えなどを行うことができます。
- 46. EXP. PEDAL1 (エクスプレッションペダル1) 端子**
エクスプレッションペダル (別売V-20Rなど) の接続端子です。
演奏中に音量をコントロールすることができます。
- 47. EXP. PEDAL2 (エクスプレッションペダル2) 端子**
エクスプレッションペダル (別売EXP-100F、EXP-100AN専用) の接続端子です。



エフェクトループ

48. SEND (センド) 端子

外部エフェクターへの出力端子です。

内蔵のチューブアンプ経過後の信号が出力されます。

この端子にプラグが差し込まれると、本機内部の接続は切られ、RETURN 端子から入力された以外の信号は音声出力端子から出力されなくなります。

(定格出力レベル 1.23V +4dBm、出力インピーダンス 600Ω)

49. RETURN/EXT IN (リターン/エクスターナル・イン) 端子

外部エフェクターからの入力端子です。

この端子は外部音源の入力端子としても使用することができます。

(定格入力レベル 1.23V +4dBm、入力インピーダンス 10kΩ)

MEMO: 接続される機器によって、RETURN 端子に関する設定が必要になる場合があります (P.75)。

音声出力端子

50. LINE OUT L/MONO (ラインアウトL/モノ) 端子

51. LINE OUT R (ラインアウトR) 端子

音声出力端子です。

内蔵のレスリーエフェクトを経過した信号が出力されます。

接続されるミキサーやモニタースピーカーがステレオの場合はL/Rそれぞれを、モノラルの場合はL/MONO 端子のみを使用して接続して下さい。

レスリースピーカー (53) が接続されている場合、内蔵のレスリーエフェクトはL側のみかかります。

52. HEADPHONE (ヘッドホン) 端子

ステレオヘッドホンを接続します。

この端子の使用中でも、LINE OUT (50,51) 及び LESLIE 11PIN (53) からは音声が出力されます。

レスリースピーカー (53) が接続されている場合、内蔵のレスリーエフェクトはL側のみかかります。

53. LESLIE 11PIN (レスリー 11 ピン) 端子

レスリースピーカーを接続します。

詳しい接続方法は「レスリースピーカーの接続」をご覧ください。

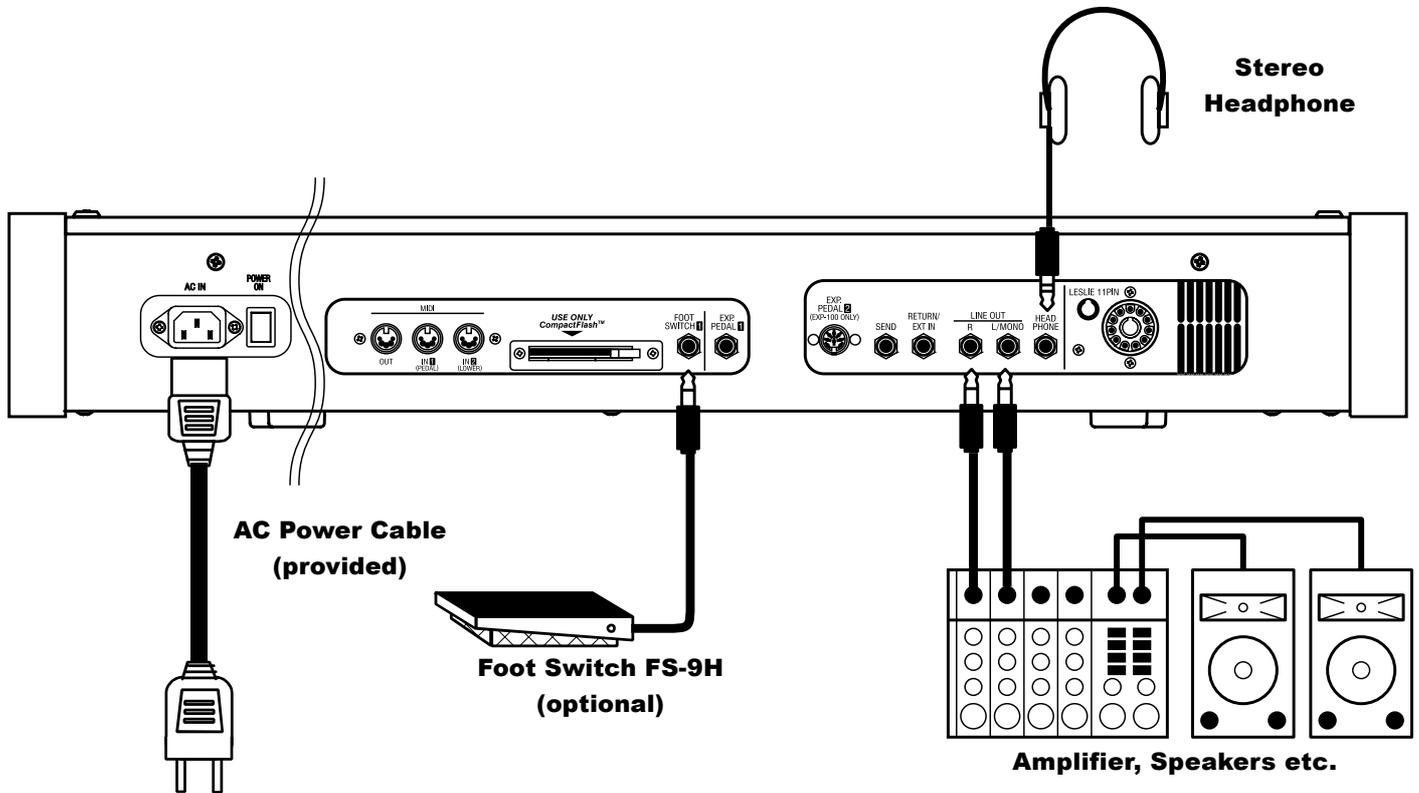


基本的な接続

図を参考に接続して下さい。

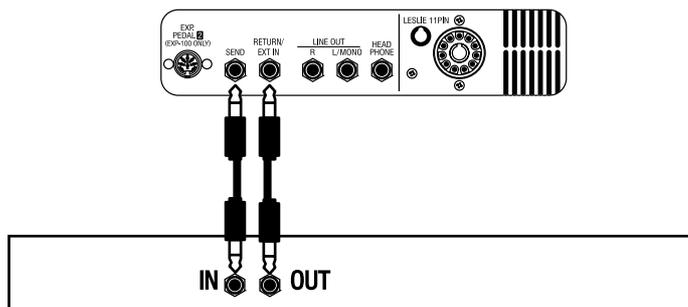
本機にはアンプやスピーカーは内蔵されていません。音を出すためにはアンプとスピーカー（またはパワードスピーカー）を用意してください。また、HEADPHONE 端子にステレオヘッドホンを接続すると、本体だけで演奏を楽しむことができます。

接続は、必ず本機および周辺機器の電源を切った状態で行って下さい。



エフェクトループの使用

レスリースピーカーを接続した状態や、内蔵レスリーエフェクトの前段で外部エフェクターを接続したい場合にエフェクトループを使用します。



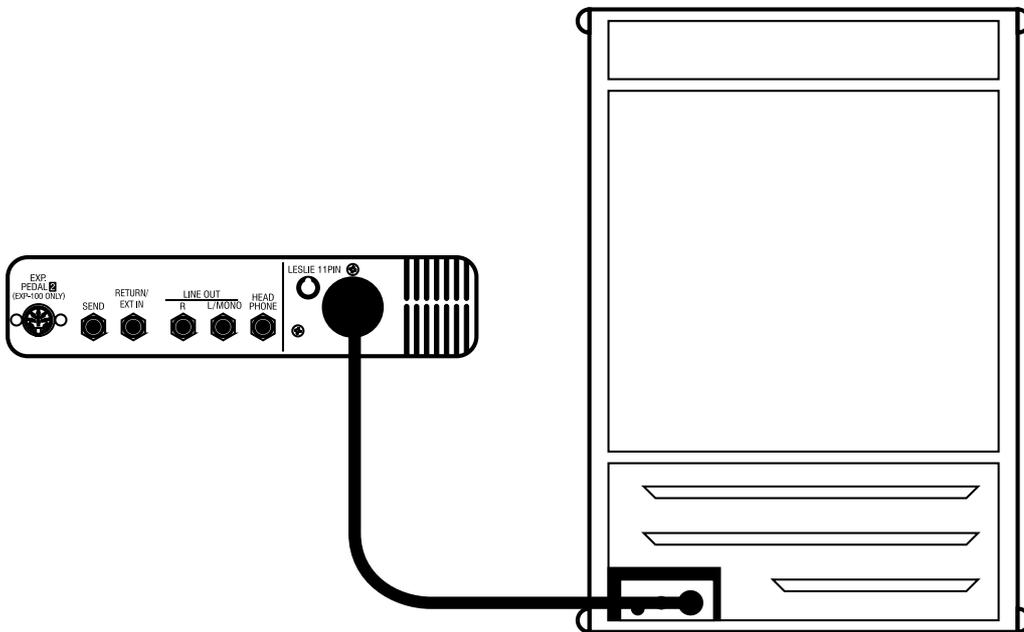
エフェクターは入出力のゲインがほぼ同じで、定格レベルが+4dBm 対応のものをご使用ください。

MEMO: エフェクトループは内蔵チューブアンプと内蔵エフェクト（レスリー、リバースなど）の間に挿入されます。

MEMO: 接続される機器によって、RETURN 端子に関する設定が必要になる場合があります (P. 75)。

本機は 11 ピンレスリーコネクタを装備しており、レスリースピーカーを直接接続することができます。

レスリースピーカーとの接続は必ず電源を切った状態で行ってください。



レスリースピーカーと本機の LESLIE 11PIN 端子を、専用の 11 ピンレスリーケーブル(別売 LC-11-7M 又はレスリースピーカー付属品)で接続します。

接続したレスリースピーカーにあわせて、“EXT.LESLIE CH”(エクスターナルレスリーチャンネル)の設定を行ってください(P. 69)。

参考：代表的なレスリースピーカーのチャンネル

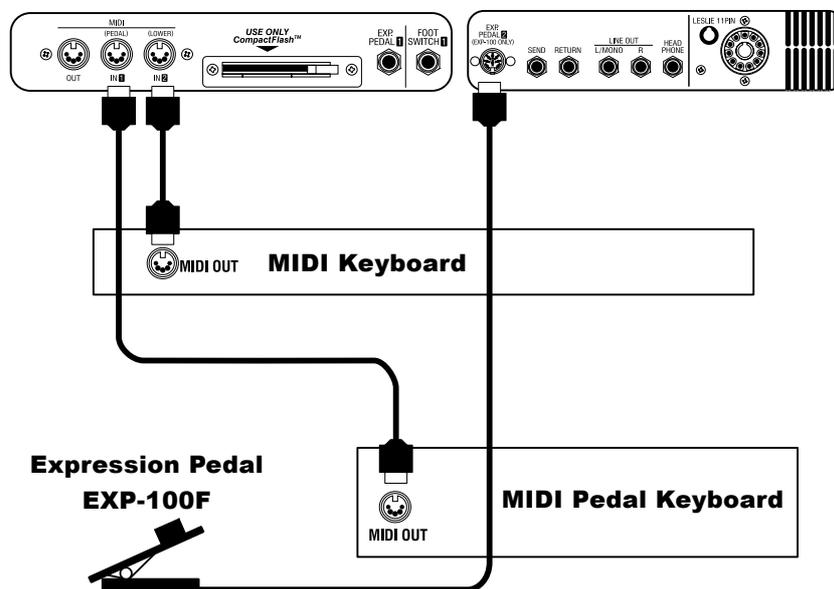
122XB, 771……1CH

2101/2102, 812/814……3CH

レスリースピーカーの取扱説明書も併せてお読みください。

MIDI キーボードの接続

本機は外部に MIDI キーボードを接続することによって 3 段鍵盤にシステムアップすることができます。



1. 図のように接続します。
2. 本機の MIDI テンプレート "Seq. Record" を呼び出します (P. 86)。
3. エクスプレッションペダルを使用する場合は、接続したエクスプレッションペダルに合わせて、"EXPRESSION SOURCE" を設定します (P. 60)

PEDAL 端子に接続した MIDI キーボードは PEDAL パート、LOWER 端子に接続した MIDI キーボードは LOWER パートとしてそれぞれ動作します。
接続した MIDI キーボードの取扱説明書も併せてお読みください。

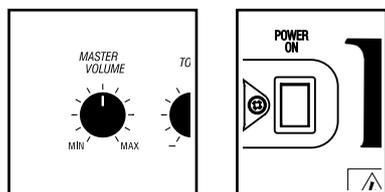


演奏してみよう

電源を入れる

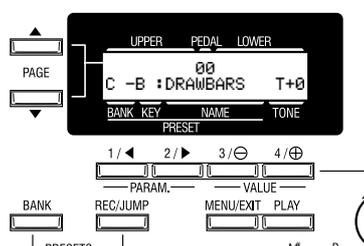
電源の入れかた

接続が完了したら、以下の手順で電源を入れてください。手順を間違えると、誤動作をしたりスピーカー等の破損を生じることがあります。



操作手順

1. 電源を入れる前に本機の[MASTER VOLUME]つまみが最小になっていることを確認してください。
2. 本機のリア・パネル（本体背面）の[POWER]スイッチをON（オン）にしてください。ディスプレイにはタイトルに続きプレイ画面（図）が表示されます。
回路保護のため、電源を入れた直後はしばらく動作しません。
[TUBE AMP]ボタンがオンになっている場合は、真空管が暖まるまで（約10～20秒）音は出ません。
3. 接続しているアンプ類の電源を入れてください。
4. 鍵盤を押しながら、[MASTER VOLUME]つまみを回して音量を調節してください。
5. アンプ類の音量を調節して下さい。



電源を切る際には上記手順とは逆に（先にアンプ類の電源を切る）行って下さい。

バックアップ

本機は、電源を切る直前の状態を記憶しています。そのため、電源投入時は電源を切る直前の状態になります。これをバックアップと呼びます。ただし、工場出荷時はプリセットキー[B]を押したのと同じ状態になります。

工場出荷時のプリセットキー[B]は音が出ません。左ドロバーを操作するか、プリセットキーの[C #]～[A]いずれかを押ししてください。

工場出荷時の設定に戻す

本機すべての設定を工場出荷時の状態に戻すには、以下の手順で行ってください。

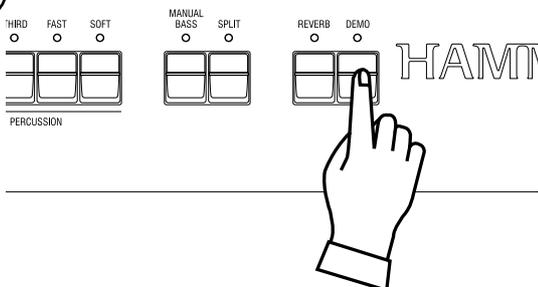
操作手順

1. 本機の電源を切ります。
2. [REC/JUMP]ボタンを押しながら電源を入れます。
3. ディスプレイに”Loading Default...”が表示されるまで[REC/JUMP]ボタンは押しっぱなしにしてください。
4. プレイ画面が表示されたら操作完了です。

本機の特長やサウンドを紹介するデモ演奏が内蔵されています。

操作手順

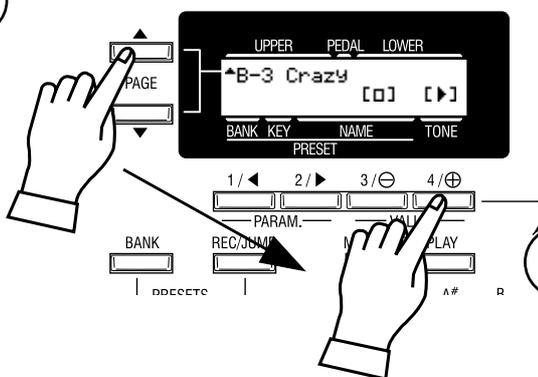
1



[DEMO]ボタンを押します。
ディスプレイは左下の図のようになります。

MEMO: ディスプレイが変化しない場合は、[MENU]ボタンを押してメニューを表示させ、[PAGE]ボタンでページEへ行き、[3]DEMOを押します。

2

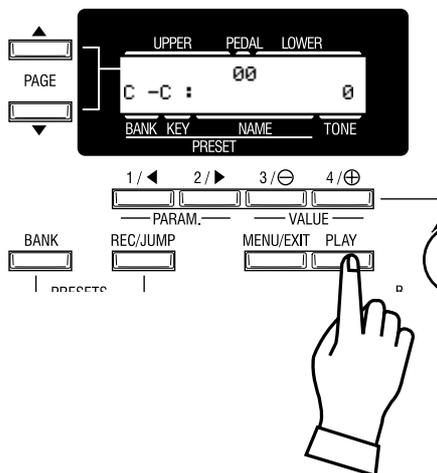


[PAGE]ボタンで聴きたい曲を選びます。
[4]”▶”ボタンを押すと演奏が始まります。

MEMO: 曲が終わると、自動的に次の曲の演奏が始まります。
演奏中に選曲をする場合は、[3]”□”ボタンを押してください（演奏が一旦停止します）。

MEMO: デモ演奏中は、以下のつまみやボタンを除き操作ができません。[MASTER VOLUME], [LESLIE BRAKE], [LESLIE ON], [LESLIE FAST], [VIBRATO & CHORUS], [REVERB]

3



デモ演奏を終えるには[DEMO]ボタン、[MENU/EXIT]ボタン、[PLAY]ボタンいずれかを押します。

MEMO: デモ演奏を行っても、それまで行われた設定は破壊されません。

コンビネーションプリセットで演奏する

本機は様々なセッティングを本体左側のプリセットキーに記録することができます。これをコンビネーションプリセットと呼びます。

コンビネーションプリセットは「バンク」と「キー」という2次元になっていて、ディスプレイではそれぞれ「C - D」のように表示します。

すぐに演奏できるように、工場出荷時にはバンクCからバンクBまでに予めプリセットデータが記録されています。

Combination Presets

		Key											
		C	C#	D	D#	E	F	F#	G	G#	A	A#	B
Bank	C												
	C#												
	D												
	D#												
	E												
	F												
	F#												
	G												
	G#												
	A												
	A#												
	B												

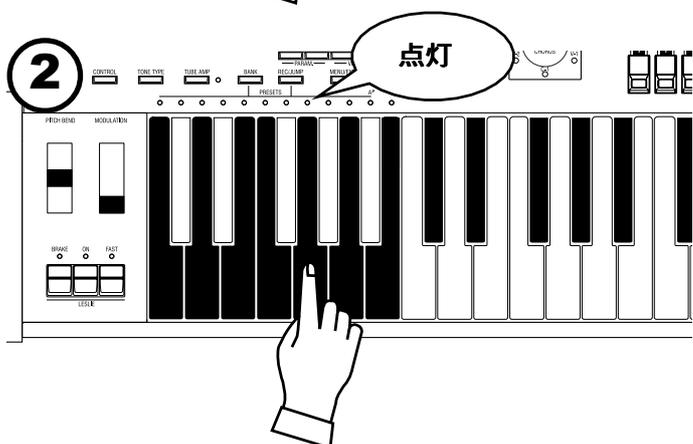
左の表はコンビネーションプリセットの概略です。「バンク」を行で、「キー」を列で表しています。演奏時にはこのうちの1つを選んで使用します。工場出荷時の状態では「C-B」が選ばれています。

下の例ではここを呼び出します。

MEMO: 工場出荷時には各バンクのキー[C]は無音です。これを「キャンセル」と呼びます。

プリセットの呼び出しかた

例：F-Gを選ぶ



1. バンクを選ぶ

[BANK]ボタンを押しながらプリセットキー[F]を押します。

MEMO: [BANK]ボタンを押している間、プリセットキー上のランプはバンクを表示しています。

2. キーを選ぶ

プリセットキー[G]を押します。

この時点でプリセットが確定し、セッティングが変更されます。

MEMO: [BANK]ボタンが押されていない間、プリセットキー上のランプはプリセットを表示しています。

ディスプレイの左下には「F-G」が表示されます。

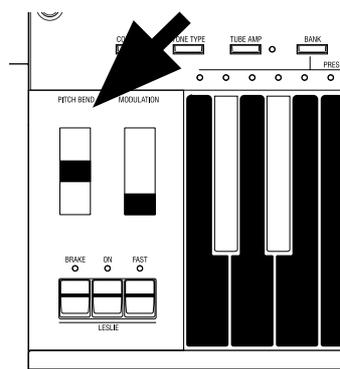
色々なコンビネーションプリセットを呼び出して演奏してみましょう。

コンビネーションプリセットを呼び出すと、ドローバーだけではなくレスリーやリバースといったエフェクトも変化します。但し工場出荷時のバンクBは、ドローバーしか変化しません。これはB-3/C-3と同じ動作です。

MEMO: 呼び出すパラメータの種類を設定することができません(P.56)。

鍵盤を弾きながらコントローラーを動かすことで、より表情豊かな演奏が行えます。このページでは、電子楽器で一般的なコントローラーについて説明します（ハモンドオルガン特有のコントローラーは、次ページで説明します）。

ピッチベンドホイール

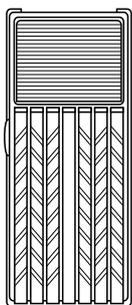


鍵盤を弾きながら操作して、音程を変化させるのに使用します。奥に動かすと音程が上がり、手前に動かすと下がります。また手を離すと中央に戻ります。

MEMO: ホイール変化の値は変更することができます(P. 58)。

右側の「モジュレーションホイール」は普段は使用しません。主に外部のMIDI機器にモジュレーション情報を送信するのに使用します。

エクスプレッションペダル



図はV-20R（別売）です。

ピアノとは違い、一般的にオルガンはベロシティ（鍵盤を弾く強さ）では音に強弱が付きません。

別売のエクスプレッションペダルを接続されている場合は、踏み込む量によって音量を変え、演奏に抑揚を付けることができます。

爪先側いっぱい踏み込むと音量が最大になり、かかと側いっぱい戻すと音量は最小になります。

MEMO: ご使用になるエクスプレッションペダルのモデルに合わせて、本機の設定を行ってください。(P. 60)。

フットスイッチ



図はFS-9H（別売）です。

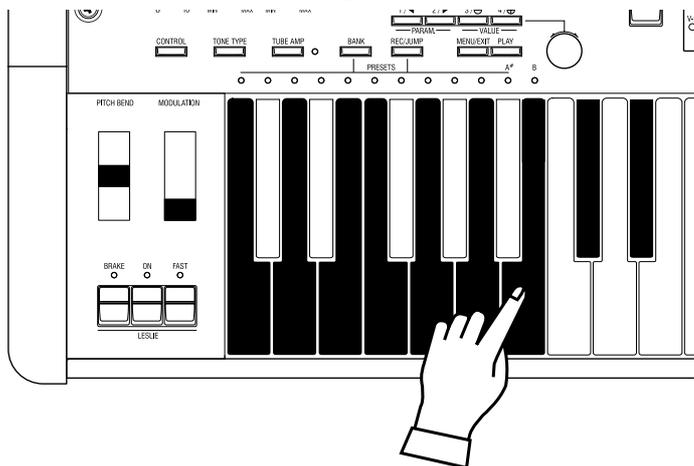
手で各スイッチを押す代わりに、足で踏んで色々な切替操作を行います。工場出荷時には「レスリーファースト」が割り当てられています。

MEMO: フットスイッチの割り当ては変更することができます(P. 61)。

自分で音づくりをしてみよう

ハモンドオルガンの特徴であるドロワーやパーカッション音色、またビブラートやレスリーといったエフェクトを使った音づくりのしかたを説明します。説明は、工場出荷時の状態を想定しています。

プリセットキー[B]を選ぶ



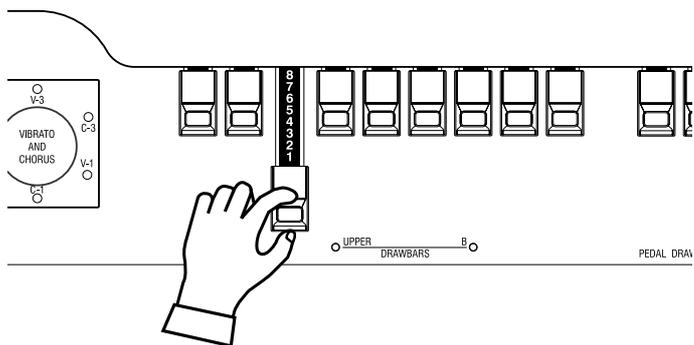
まずプリセットキー[B]を選びます。

プリセットキー[B]は「アジャスト・プリセット」とも呼ばれる特別なプリセットで、このプリセットを選んだときに行ったセッティングが常に記憶され続けているほか、パネル上のドロワーレジストレーション（ドロワーの引き出し具合）と内部のレジストレーションが常に一致しています。

新規にレジストレーションを作る場合や、パネル上のつまみやボタン類を操作しながら演奏するスタイルの場合はこれを選ぶと良いでしょう。

MEMO: プリセットの内容を初期化することができます(P. 74)。

左ドロワーを引き出す



左ドロワーを引き出し、好みの状態にします。鍵盤を弾きながら行うと確認が容易です。

ドロワーは本機の基本的な音色を作ります。それぞれのバーの引き出し具合によって音色が変わります。

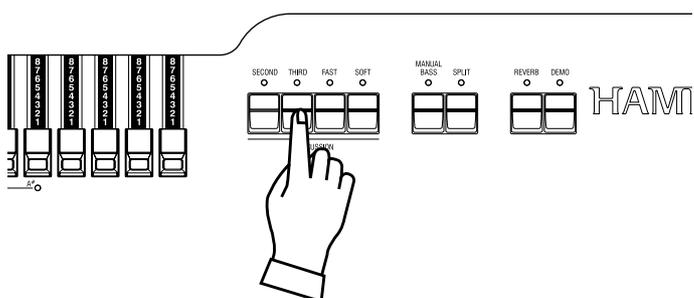
それぞれ、いっぱいに出すと最大音量、完全に押し込むと無音になり、基本的に右のバーほど音程が高くなります。

良く使われるレジストレーションとしては、左3本のみをいっぱいに出したり、一番左と白いバーのみをいっぱいに出したりしたもの、そして全てを引き出したものなどです。

MEMO: ドロワーのキャラクターを変更することができます(P. 54)。

MEMO: 現在のレジストレーションはディスプレイのプレイ画面(P. 47)に表示されます。

パーカッションを足す



ここで言うパーカッションとは打楽器ではなく、音に歯切れ良さを加えるための減衰音のことです。必要に応じてドロワーの音にミックスして使用します。

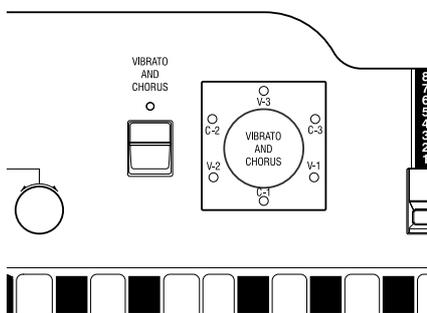
[SECOND]、[THIRD]ボタンをオンにすると、それぞれ鍵盤のノートに対してオクターブ上の「ド」（2倍音）、「ソ」（3倍音）の減衰音が加わります。

[FAST]ボタンをオンにすると減衰が速くなり、[SOFT]ボタンをオンにするとパーカッションの音量が下がります。

MEMO: パーカッションの音量などは細かい設定が行えます(P. 67)。

エフェクトをかける

ビブラート/コーラス



ドローバーのピッチを一定のピッチで僅かに変化させ、音色に暖かみを加えます。

VIBRATO/CHORUS (ビブラート/コーラス) ボタン

ビブラート効果のオンオフを行います。ランプ点灯中がオンです。

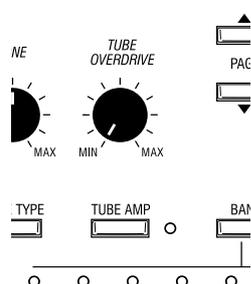
VIBRATO/CHORUS MODE (ビブラート/コーラスモード) つまみ

ビブラート効果の深さと、コーラス効果との切替を行います。

数字が多くなるほどかかりが深くなります。またVはピッチ変化によるビブラート音のみ、Cはビブラート音と原音とがミックスされ(コーラス効果)、音に厚みが増えます。

MEMO: ビブラート/コーラスの速さを設定することができます (P. 71)。

オーバードライブ



アンプに対して入力オーバーさせるように、音を歪ませます。

TUBE AMP (チューブアンプ) ボタン

オーバードライブ効果を得るには、ボタンを押してランプを点灯させます。

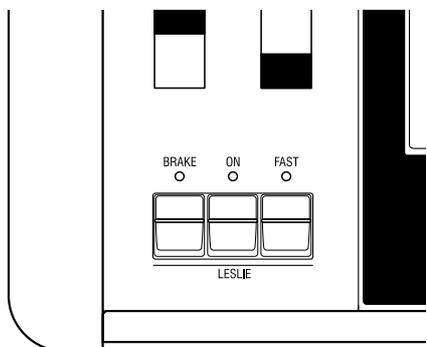
TUBE OVERDRIVE (チューブオーバードライブ) つまみ

歪み量を調整します。

MEMO: TUBE AMP ボタンのランプは、歪み量によって色が変化します。歪ませずにチューブアンプを経由している場合は緑、歪み量が増えるに従って赤に変化します。

MEMO: オーバードライブは歪みかたを細かく設定できます (P. 71)。

レスリー



回転するローターによって立体的でダイナミックな音の臨場感を作るエフェクトです。

LESLIE ON (レスリーオン) ボタン

レスリー効果を得るときは、ONスイッチを押してランプを点灯させます。

LESLIE FAST (レスリーファースト) ボタン

ローターのスピードを2段階に切り替えます。ランプ点灯時がファースト、消灯時がスロースピードです。良く使用される例としては、普段スローで演奏し盛り上がる部分のみファーストにする方法です。

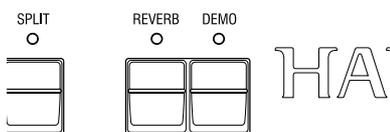
LESLIE BRAKE (レスリーブレイク) ボタン

LESLIE ON ボタンがオフ時の動作を設定します。ランプ点灯時はブレイク(徐々に回転数を落とし止まる)、ランプ消灯時はスルー(レスリー効果がバイパスされる)です。

MEMO: 外部にレスリースピーカーを接続した場合も、これらのボタンでコントロールを行います。

MEMO: 内蔵レスリーエフェクトは回転数など細かい設定が行えます (P. 68)。

リバーブ



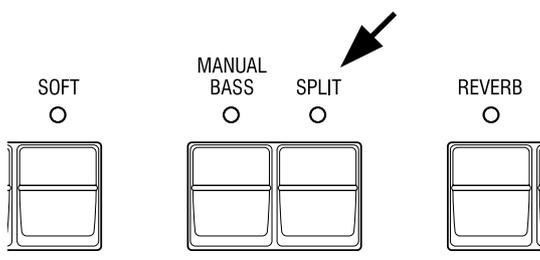
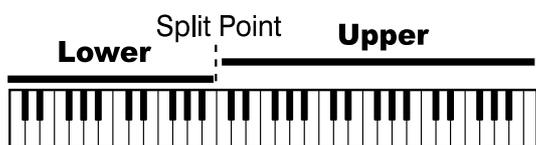
コンサートホールのような残響効果をつけます。

REVERB (リバーブ) ボタン

リバーブ効果を得るには、ボタンを押してランプを点灯させます。

MEMO: リバーブは時間など細かい設定が行えます (P. 73)。

鍵盤の左右でパートを使い分ける（スプリット）



本機の鍵盤は1段だけですが、これをある位置で分割し、あたかも鍵盤が2段あるかのように別のセッティングにすることが出来ます。これを「スプリット」と呼びます。

SPLIT（スプリット）ボタン

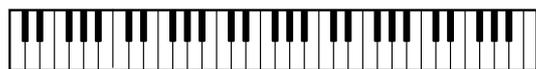
スプリット機能を使うには、ボタンを押してランプを点灯させます。工場出荷時には、中央シールドを境に分割されます。

MEMO: スプリットポイント（分割位置）やオクターブを変更することができます（P. 84）。

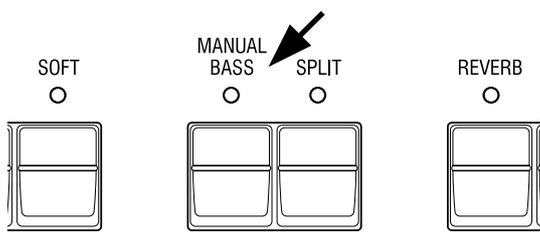
MEMO: MIDI IN 端子の用途が” LOWER/PEDAL” の場合、スプリット機能は働きません（P. 86）。

スプリットされた右側のパートをUPPER（アパー）と呼び、左ドロバーとパーカッションで音づくりを行います。左側のパートはLOWER（ロワー）と呼び、右ドロバーで音づくりを行います。LOWERにはパーカッションは機能しません。

鍵盤演奏にベースを足す（マニュアルベース）



Manual Bass



鍵盤演奏の最低音を使用してベースを演奏することができます。これを「マニュアルベース」と呼びます。

MANUAL BASS（マニュアルベース）ボタン

マニュアルベース機能を使うには、ボタンを押してランプを点灯させます。

UPPER（及びスプリットされていればLOWERも）と同時に、弾かれている最低音でベースが発音します。

メロディ演奏の邪魔にならないよう、工場出荷時は中央シールドしか機能しないようになっています。

MEMO: マニュアルベースの発音域（上限のみ）や、UPPER, LOWER パートの発音域を変更できます（P. 84）。

MEMO: MIDI IN 端子の用途が” LOWER/PEDAL” の場合、マニュアルベース機能はMIDI IN(LOWER)端子に接続されたキーボードに対して働きます。

マニュアルベースで得られるパートはPEDAL（ペダル）パートと呼び、ペダルドロバーで音づくりを行います。これは3段鍵盤仕様のオルガンがペダル鍵盤でベースを演奏することに由来します。

MEMO: 和音演奏を可能にするか（POLY）、最低音のみを発音させるか（MONO）を選択できます（P. 55）。

マニュアルベースとスプリットは併用できます。うまく使えば、ベース+コード+メロディを一人で演奏することも可能です。

パートとは？

「パート」はバンドやオーケストラで言えば一人の演奏者に相当します。

3段鍵盤仕様のオルガンがそれぞれの鍵盤で別々の音色で演奏することができるように、本機も3つのパート、UPPER, LOWER, PEDAL を持っていて、それぞれ別々の音色で演奏することができます。

本機の鍵盤は1段だけですが、鍵盤を分割したりMIDI キーボードを使って鍵盤を拡張したりすることで同時に複数のパートが使用可能です。

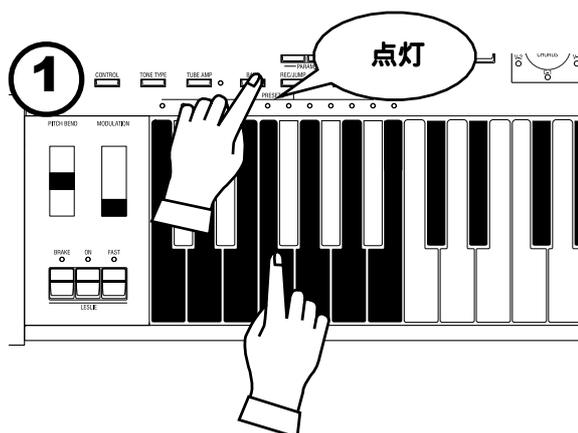
MEMO: 複数の音色が使用できる機能を「マルチティンバー」と呼びます。

コンビネーションプリセットに記憶する

これまで行ったセッティングは、コンビネーションプリセットに記憶することができます。

工場出荷時に入っていたプリセットデータも、自由に書き換えることができます。

例：F - Dに記憶する



1. [BANK]ボタンを押しながら、プリセットキー[F]を押します。

[BANK]ボタンを押している間は、プリセットキー上のランプはバンクを表示しています。

MEMO: 手を離すと、ランプは消灯します。これはまだプリセットが確定していないからです。



2. [REC/JUMP]ボタンを押しながら、プリセットキー[D]を押します。

プリセットが確定し、ディスプレイに一定時間、次のように表示されます。

Recording Preset...

記憶が完了すると、プリセットキー[D]上のランプが一定時間点滅→点灯に変わり（自動的に記憶させたプリセットが選ばれます）、ディスプレイは直前の画面に戻ります。

※プリセットキー[B]には、この操作で記憶させることはできません。

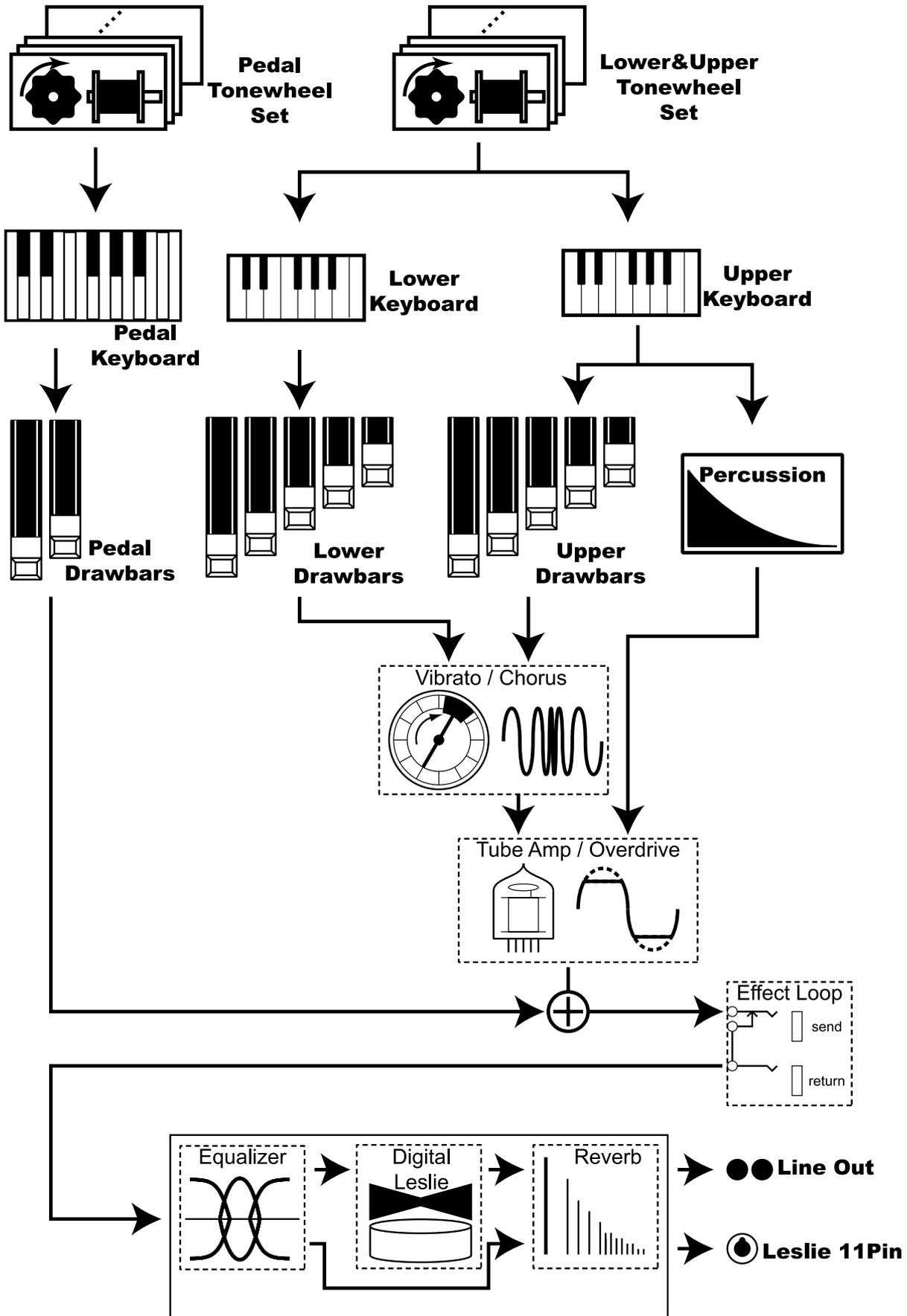
MEMO: 記憶させたプリセットデータは、電源を切っても消えることはありません。



セッティングをつくる

音源の構成

本機のシステム構成



本機をより使いこなした演奏をするために、この章ではいろいろな音づくりの機能についてもう少し詳しい説明を行います。

前ページの図を見て下さい。これは本機のシステム構成を表しています。

トーンホイール

ハモンドオルガンの音色の「源」は、トーンホイールで作られます。これはエレキギターで言えば弦とピックアップに該当します。電源が入っている間、96枚のトーンホイールがそれぞれ別のピッチで発振し続けているのです。

鍵盤

96枚のトーンホイールで作られた音声信号は各鍵盤で「スイッチ」されます。それぞれのキーにその音程と倍音に該当する信号（例えば手鍵盤では9個）が分配され、それを鍵盤を押すことでつなげたり切ったりします。

ドローバー

次にドローバーで基本的な音色を作ります。各バーでそれぞれの倍音（例えば手鍵盤では9個）の量を調節します。

パーカッション

いっぽう、パーカッションはUPPERパートの鍵盤演奏に同期して減衰音を作ります。

ビブラート/コーラス

ビブラートは音程に揺らぎを与えます。また、ビブラートのかかった音と原音をミックスすることで、コーラス効果を得ることもできます。

MEMO: 本機ではB-3/C-3のスクァー回路をシミュレートしており、単なるピッチの変化に留まらない効果を出しています。

チューブアンプ

チューブ（真空管）アンプは音に独特な「チューブ感」を与えます。ドライブ量を変えることでクリップさせないクリーンから、ハードに歪ませたオーバードライブまで様々なチューブサウンドが得られます。

MEMO: 本機には実際の真空管を使用した回路が搭載されています。

なお、PEDALパートはベースラインをはっきりさせるため、ビブラート/コーラスとチューブアンプは通らないようになっています。

エフェクトループ

背面のエフェクトループ（センド/リターン）はオーバードライブ経過後に位置していて、必要であればお手持ちのエフェクターを接続して使用することが出来ます。

イコライザー、レスリー、リバーブ

最後に、音質調整を行うイコライザー、回転スピーカー効果を与えるレスリー、残響を与えるリバーブといった空間系エフェクトを通して、出力端子から音声が出力されます（レスリー 11ピン端子には内蔵のレスリーエフェクトはかかりません）。

MEMO: 本機の内蔵レスリーエフェクトは2つのローター回転を滑らかに再現するようになっています。

tips トーンホイールセット

トーンホイールセットは手鍵盤とペダルパートとで分かれています。これはペダルパートにディケイ（鍵盤を押しているあいだ、徐々に音が消えていく）やサステイン（鍵盤を離した後、徐々に音が消えていく）効果をかけるためです。

tips 倍音

倍音とは、ある音程（例えば中央ド）に対する比率の異なった音程（例えばオクターブ上のド）です。倍音が多いほど明るく、分厚い音に感じます。

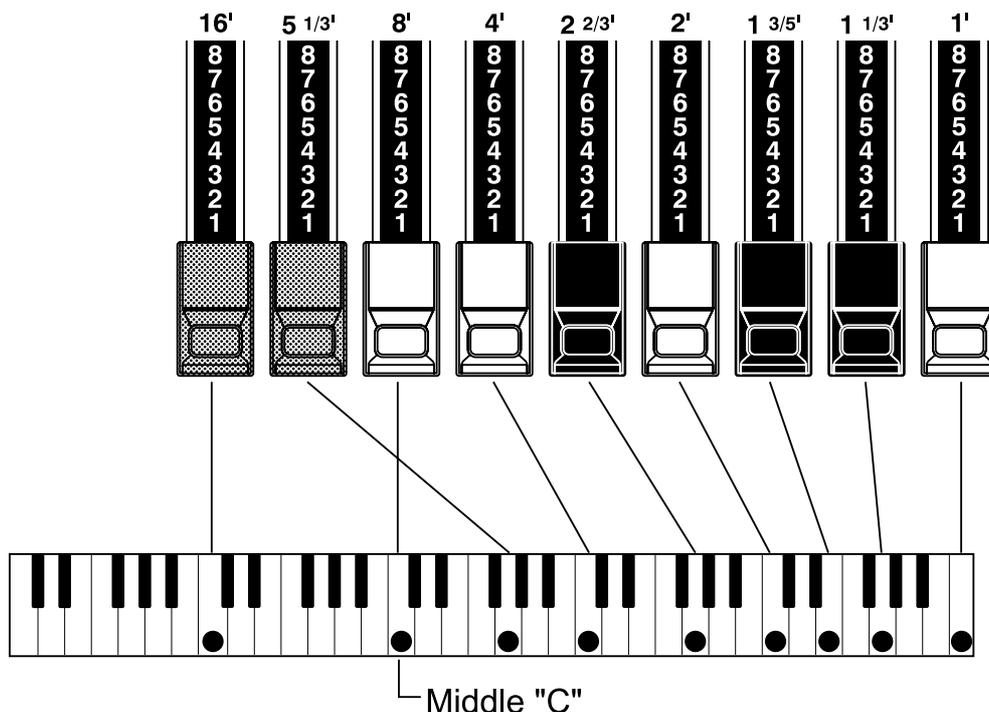
それぞれの詳細は次ページから

次のページから、ここで紹介したそれぞれの機能の詳細を説明します。

ドローバー

本機の9本（PEDALは2本）のドローバーは、基本的な音色をつくるためのつまみです。ドローバーには、1～8の数字が付いています。数字が見えなくなるまでドローバーを押し込むと、そのドローバーの音は鳴らなくなります。また、ドローバーをいっぱいに引き出すと、そのドローバーの音量は最大になります。

プリセットキーがBの場合を除き、実際のドローバーレジストレーション（各ドローバーの引き出し具合）は、ディスプレイに表示された値です。それに対して操作したドローバーのみ更新されます。



中央のC（ド）を押さえたとき、各ドローバーの音程は上図のようになります。また、ドローバーに記されているフィート（'）という表示は、もともとパイプオルガンのパイプの長さから転用された言葉です。

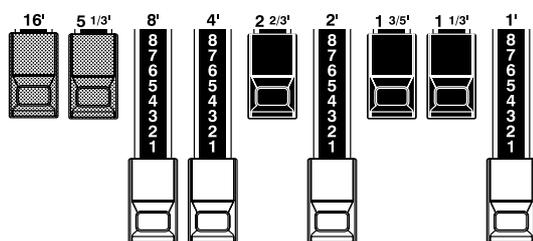
各ドローバーには1～8の数字が記されていますが、これは音色を作るうえでのボリュームであると同時に、簡単にセットするための目印です。

例えば、クラリネットを吹くと、管の内部で空気が振動し、基音（8'）と第3倍音（2 2/3'）と第5倍音（1 3/5'）が同時に発生します。この場合、3本のドローバーを引き出すとクラリネットの音が出ます。また、3本のドローバーのうち、右側を多めに、左側を少なめに引き出すと、高い音の成分が多くなり、硬い音色になります。逆に、左側のドローバーを多めに引き出すと、メロウな音色になります。

このように、ドローバーを使い、同じ音色でも曲の流れや好みに応じて微妙に音の変化を作ることができます。

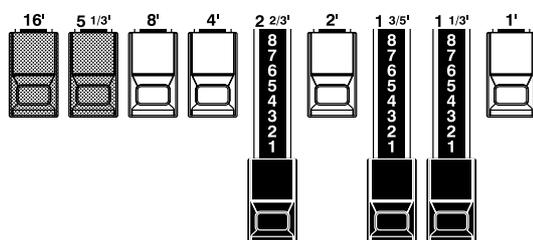
MEMO: ドローバーのキャラクターを変更することができます(P. 54)。

白いドローパー



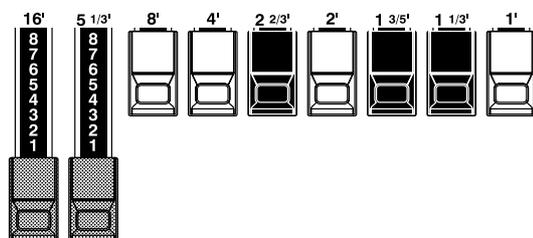
各ドローパーの中で、白の左端(8')のドローパーが基音(基準になる音程)を作ります。その他の白いドローパーは右へ行くほどオクターブずつ高くなります。

黒いドローパー



黒いドローパーの音は、基音に対して5度、3度関係の音程になっていますが、豊かな音色を組み立てるうえで重要な役割を果たします。甘く柔らかな響きを持つホルン、艶のある弦楽器など、全て異なる倍音の成分を含んでいるのです。

茶色のドローパー



左端の2本の茶色いドローパーは、音色に深みと豊かさを加える役割をします。左の16'は8'の1オクターブ下の音、5 1/3'は16'を基音とする第3倍音です。

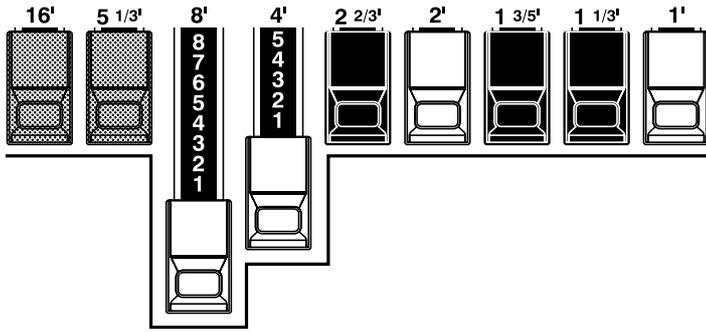
通常は8'を基音として音色の組み合わせをしますが、音色に深みを加えたり、また、鍵盤上の音域を1オクターブ広げたいときには、16'を基準に音づくりをします。

ドローバー・レジストレーション・パターン

ドローバー・レジストレーションは、正確には数字で合わせますが、通常の演奏ではむしろ9本のドローバーの組み合わせを形で覚えることが合理的です。

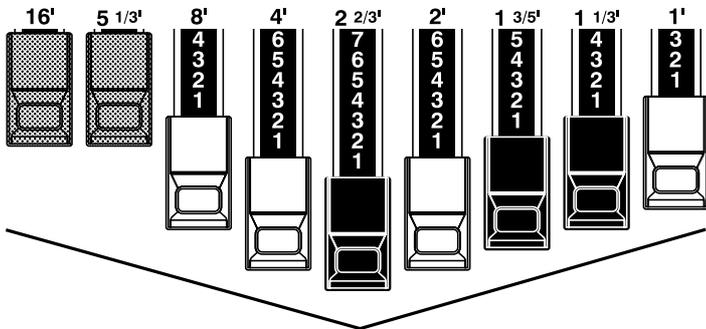
ドローバーのレジストレーションは、大別して次の4つのパターンに分類できます。

Flute family (2 step pattern)



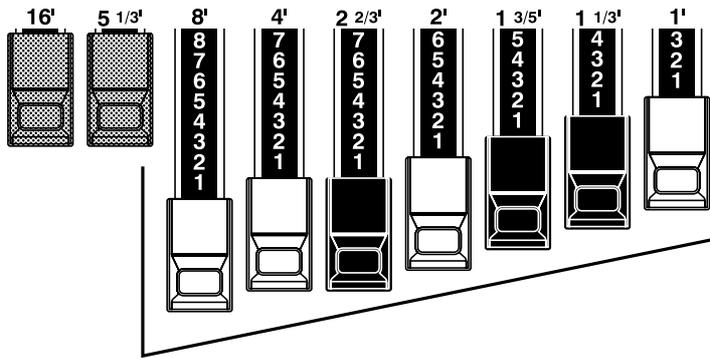
Accompaniment Flute 8' I	00 8460 000
Accompaniment Flute 8' II	00 3220 000
Accompaniment Flute 8' III	00 8600 000
Chorus of Flutes 16'	80 8605 002
Orchestral Flute 8'	00 3831 000
Piccolo 2'	00 0006 003
Stopped Flute 8'	00 5020 000
Tibia 8'	00 7030 000
Tibia 4'	00 0700 030
Tibia (Theater) 16'	80 8605 004
Wooden Open Flute 8'	00 8840 000

Reed family (triangle pattern)



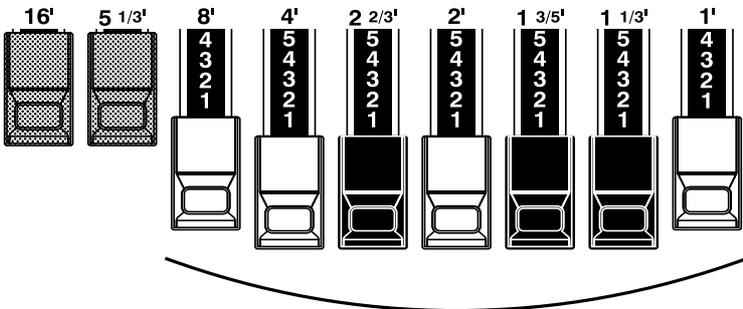
Bassoon 16'	44 7000 000
Clarinet 8'	00 6070 540
English Horn 8'	00 3682 210
Flugel Horn 8'	00 5777 530
French Horn	00 7654 321
Kinura 8'	00 0172 786
Oboe 8'	00 4764 210
Trombone 8'	01 8777 530
Trumpet 8'	00 6788 650
Tuba Sonora 8'	02 7788 640
Vox Humana 8'	00 4720 123

Diapason family (check mark pattern)



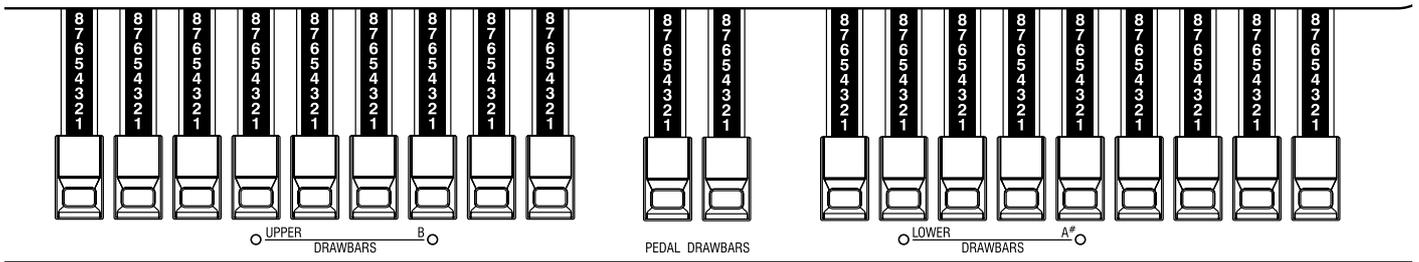
Accomp. Diapason 8'	00 8874 210
Chorus Diapason 8'	00 8686 310
Diapason 8'	00 7785 321
Echo Diapason 8'	00 4434 210
Harmonic Diapason 16'	85 8524 100
Harmonic Diapason 8'	00 8877 760
Harmonic Diapason 4'	00 0606 045
Horn Diapason 8'	00 8887 480
Open Diapason 8'	01 8866 430
Solo Diapason	01 8855 331
Wood Diapason 8'	00 7754 321

String family (bow pattern)



Cello 8'	00 3564 534
Dulciana 8'	00 7770 000
Gamba 8' I	00 3484 443
Gemshorn 8'	00 4741 321
Orchestral String 8'	00 1464 321
Salicional 8'	00 2453 321
Solo Viola 8'	00 2474 341
Solo Violin 8'	00 3654 324
Viola da Gamba 8'	00 2465 432
Violina 4'	00 0103 064
Violone 16	26 3431 000

3組のドロワーとパート



本機にはUPPER（アパー）、LOWER（ロワー）、PEDAL（ペダル）の3つのパートがあり、それぞれに各ドロワーが対応しています。

本機の鍵盤は通常、UPPERに割り当てられています。LOWER、PEDALパートを鳴らしたい場合はスプリット機能やマニュアルベース機能を使うか、MIDI キーボードを接続してそれぞれのパートを割り当ててください。

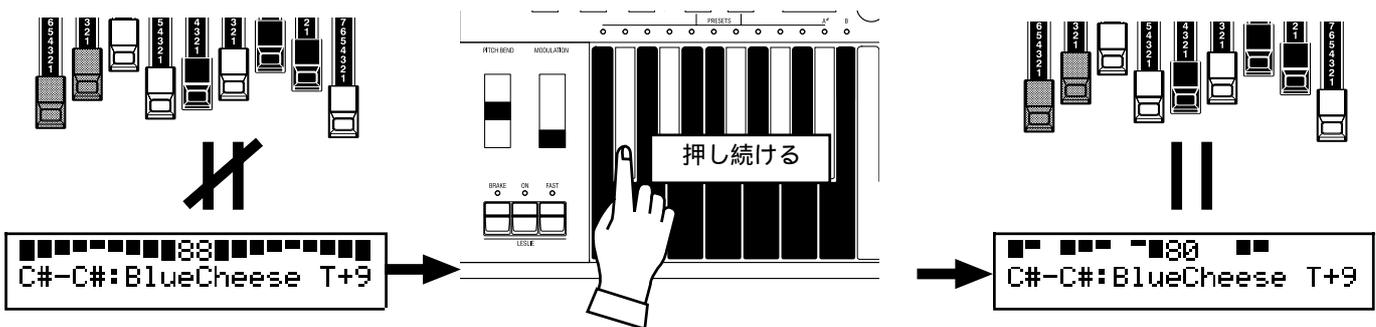
9本のドロワー2組の手前にはそれぞれ“UPPER/B”、“LOWER/A#”と記されたランプが付いています。これはドロワーセットの割り当てを表示しており、工場出荷時にはそれぞれUPPERとLOWERパートに割り当てられています。

A#とBは、B-3/C-3の上鍵盤だけを取り出したような動作をさせる場合に使用します。この場合、両ドロワーセットはプリセットキーA#とBに対応し、UPPERパートのみを調整します。LOWERパートの調整はできません。この機能についての詳しい説明はCONTROL（コントロール）をお読みください(P. 58)。

レジストレーションをドロワーに合わせる

コンビネーションプリセットを呼び出すと、ドロワーレジストレーションは物理的なドロワーのそれではなく、記憶されていたものに置き換えられます。この状態でなにかドロワーを動かすと、動かしたフィートのみがレジストレーションに反映されます。

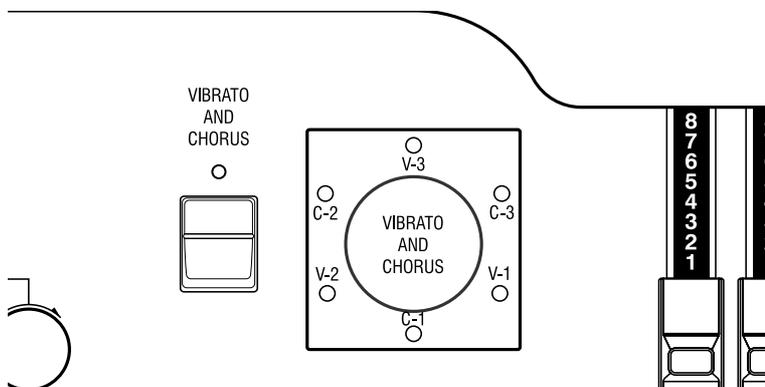
コンビネーションプリセットの内容を使いつつ、レジストレーションのみをドロワーに合わせるには、プリセットキーをしばらく押し続けてください。コンビネーションプリセットが呼び出された後、物理的なドロワーのレジストレーションが反映されます。



ビブラート / コーラス

ビブラートはドローバーのピッチを一定の速さで僅かに変化させ、音色に暖かみを加えます。

また、ビブラートをかけた音を原音とミックスすることで、音に厚みを加えることができます（コーラス効果）。



[VIBRATO/CHORUS](ビブラート/コーラス) ボタン

ビブラート/コーラス効果のオンオフを行います。
UPPER 及び LOWER パートに対してかかります。
効果を得るには、ボタンを押してランプを点灯させます。

[VIBRATO/CHORUS MODE](ビブラート/コーラスモード) つまみ

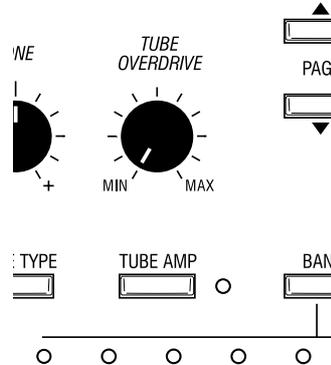
ビブラート効果の深さと、コーラス効果との切替を行います。

- V-1: 比較的浅いビブラート
- V-2: 標準的な深さのビブラート
- V-3: 最も深いビブラート
- C-1: 比較的浅いコーラス
- C-2: 標準的な深さのコーラス
- C-3: 最も深いコーラス

MEMO: 電源が入っているあいだ、ビブラート/コーラスモードはどれか1つが必ず選択されています。

MEMO: ビブラート効果の速さを変更することができます(P. 71)。

チューブ（真空管）アンプは音に独特な「チューブ感」を与えます。
 ドライブ量を変えることで、クリップさせないクリーンから、ハードに歪ませたオーバードライブまで様々なチューブサウンドが得られます。



[TUBE AMP](チューブアンプ) ボタン

チューブアンプ回路を通すかどうかを選びます。
 効果を得るには、ボタンを押してランプを点灯させます。
MEMO: 真空管は背面の放熱孔から見るができます。

[TUBE OVERDRIVE](チューブオーバードライブ) つまみ

チューブアンプ回路の歪み量を調整します。
 左に回しきった状態ではクリップしませんが、チューブアンプ回路を経過しているため[TUBE AMP]ボタンをオフにしている場合とは音質が若干異なります。
 右に回すほど歪み量が多くなり、[TUBE AMP]ボタンのランプの色が歪み量によって緑から赤に変化します。

MEMO: 歪みかたを細かく設定できます(P. 71)。

tips チューブアンプ回路

現代の電気製品の内部では特性の良い半導体が使われ、多くの点で劣る真空管はほとんど使用されていません。しかし、分野によっては真空管の特性でのみ得られるサウンドに人気があり、特にエフェクターでは未だに真空管を模したサウンドが探求され続けています。

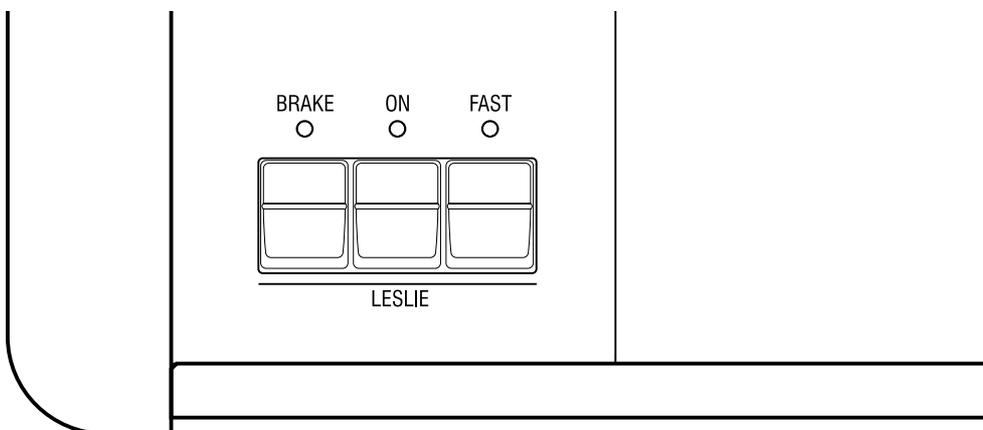
本機では実際の真空管を使用した回路を搭載しています。

tips クリップ

例えばあなたがレストランで食事をしたとします。注文して出された料理が多すぎて（オーバードライブ）、あなたは食べきれず、料理は余ってしまいました。あなたのお腹はいっぱいです（クリップ）。

レスリー

レスリー効果は回転するスピーカーを模したサウンドが得られるエフェクトです。また実際のレスリースピーカーを接続した場合は、そのコントロールを行います。



[ON](オン) ボタン

ボタンを押してオンにするとランプが点灯し、ローターが回転します。また、音声はロータリーチャンネルから出力されます。

[FAST](ファースト) ボタン

ローターのスピードを2段階に切り替えます。ボタンを押す毎に切り替わり、ランプ点灯時がファースト、消灯時がスローです。

[BRAKE](ブレイク) ボタン

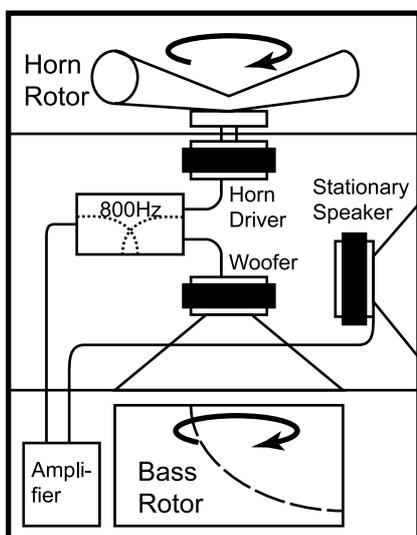
[ON]ボタンがオフ時の動作を設定します。ランプ点灯時はブレイク（徐々に回転数を落とし止まる）、ランプ消灯時はスルー（レスリー効果がバイパスされ、音声はステーションナリーチャンネルから出力される）です。

MEMO: 外部のレスリースピーカーのコントロールを行った場合、接続したレスリースピーカーによっては、ブレイクおよびスルーが行えないものがあります。また、ご使用になるレスリースピーカーのモデルによって、レスリーチャンネルの切替が必要です。(P.69 #18)

MEMO: レスリー効果は回転数など、細かい設定が行えます(P. 68)。

tips 各ボタンと状態一覧

Button			State	
BRAKE	ON	FAST	CH=1	CH=2or3 & Internal Leslie Effect
On	On	On	Fast	
Off	On	On	Fast	
On	On	Off	Slow	
Off	On	Off	Slow	
On	Off	On	Brake	
On	Off	Off	Brake	
Off	Off	On	Fast	Through
Off	Off	Off	Slow	Through



tips レスリー効果とは？

一般的にレスリースピーカーにはアンプと2つのローター、高音担当の「ホーンローター」と低音担当の「バスローター」が内蔵されています。

各ローターにはスピーカーと速度可変のモーターが付いていて、ドブラー効果による独特の揺らぎを伴ったサウンドが得られるようになっています。

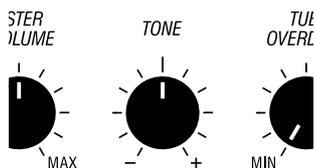
また、機種によってはローターだけではなく、一般の固定スピーカーも備え、切り替えて使用できるものも存在します。ローターに音声を送る回線を「ロータリーチャンネル」、固定スピーカーに音声を送る回線を「ステーションナリーチャンネル」と呼びます。

内蔵のレスリーエフェクトはこれらをシミュレートしており、ステレオ接続で最良の効果が得られるように作られています。

イコライザーとリバーブは、音色の最終的な仕上げを行うエフェクトです。
イコライザーは音質を整え、リバーブはホールで演奏しているような残響を
付け加えます。

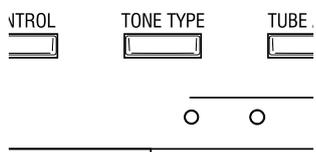
パネル上ではそれらの機能の一部がコントロールできます。

イコライザー



[TONE](トーン) つまみ

イコライザーのうち、任意の1パラメータを割り当てて調整します。
工場出荷時にはTREBLE (トレブル) が割り当てられており、右へ回すと高音
が強調、左へ回すと低減されます。



[TONE TYPE](トーンタイプ) ボタン

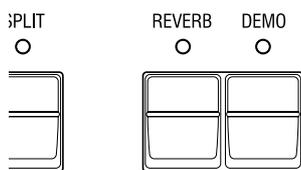
[TONE]つまみへの割り当てを設定します。
押す度にTREBLE (トレブル)、MIDDLE (ミドル)、BASS (バス) の順で割り
当てが変わり、プレイ画面にはその状態が頭文字で表示されます。

MEMO: イコライザーの詳細は「EQUALIZER (イコライザー)」(P. 72)をご覧ください。



図はTreble (トレブル)
が+9であることを表して
います。

リバーブ



[REVERB](リバーブ) ボタン

リバーブ効果をオンオフします。
リバーブ効果を得るには、ボタンを押してランプを点灯させます。

MEMO: リバーブは時間や深さなどを変更できます(P. 73)。

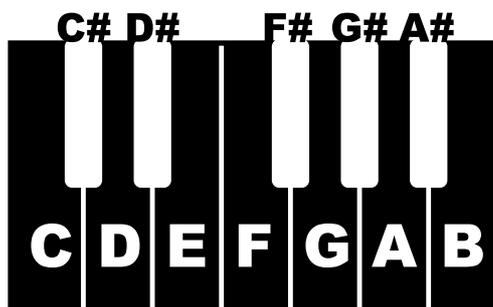
コンビネーションプリセット

これまで行ったセッティングは、コンビネーションプリセットに記憶させることができます。

バンクとキー

Combination Presets

		Key											
		C	C#	D	D#	E	F	F#	G	G#	A	A#	B
Bank	C												
	C#												
	D												
	D#												
	E												
	F												
	F#												
	G												
	G#												
	A												
	A#												
B													



コンビネーションプリセットの内部は、「バンク」と「キー」という2次元の表のようになっています。

そのアクセスにはプリセットキーを使い、「バンク」を選ぶ場合は[BANK]ボタンを押しながら、「キー」を選ぶ場合には単にプリセットキーを押します。

また、記憶や呼び出しは「キー」が指定されたときに確定されます。バンクを指定しただけではその切替は行われません。

ひとつひとつのキーとその名前は、下図を参照してください。

一番右のキー[B]は「アジャストプリセット」とも呼ばれる特殊なプリセットで、ここは常にパネル上のドローバーレジストレーションと内部のレジストレーションが一致しています。

MEMO: B-3/C-3 ではプリセットキーの[C]から[A]まではセッティングが固定されており、パネル上のドローバーレジストレーションに切り替えるために[A#]と[B]キーを使用しました。本機では[C]から[A]キーの使用中でも、ドローバーを動かすことでそのセッティングを変更することができます。

tips コンビネーションプリセット

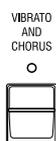
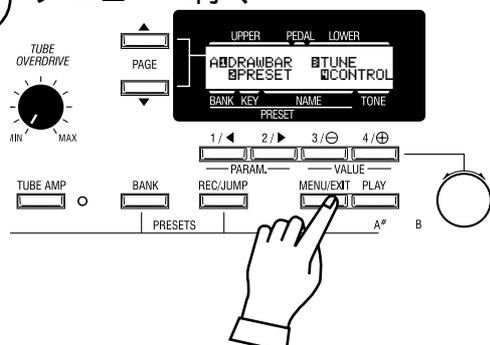
B-3/C-3 では、各プリセットキーで呼び出されるパラメータはそれぞれのパートのドローバーレジストレーションのみでした。

本機では、1つのプリセットキーに全パートのドローバーレジストレーションのほか、さまざまなパラメータをまとめて記憶させることができるため、「コンビネーションプリセット」と呼んでいます。

MEMO: プリセットキーで呼び出すパラメータを、バンク毎に制限することができます(P. 56)。

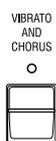
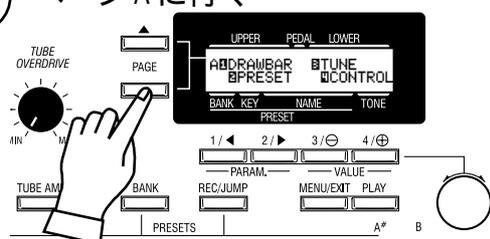
名前を付ける

① メニューへ行く



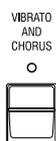
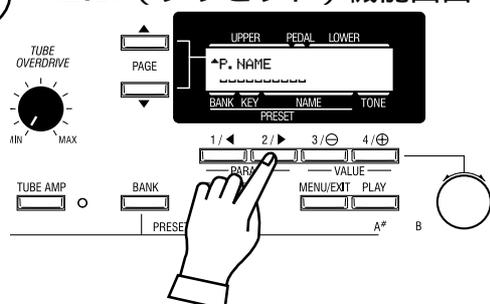
[MENU/EXIT]ボタンを押します。
メニュー画面が表示されます。

② ページAに行く



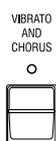
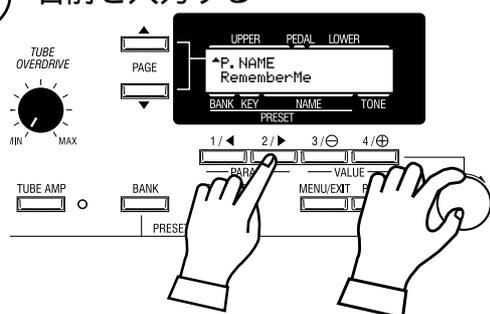
表示されたページがAではない場合は、[PAGE]ボタンを使って、ページAに行きます。

③ PRESET (プリセット) 機能画面へ行く



[2]PRESET ボタンを押し、PRESET (プリセット) 機能画面へ行きます。

④ 名前を入力する



名前の入力 は 10 文字 まで です。
[PARAM]ボタン：カーソルを移動します。
[VALUE]ボタン：文字を選びます。
使用できる文字は記号、数字、アルファベット大文字、小文字です。
各文字種の先頭に飛ぶには、[REC/JUMP]ボタンを押しながら[VALUE]ボタンを押します。
また、[VALUE]つまみでも文字を選ぶことができます。
ここで付けた名前はまだテンポラリ（一時的な場所）にあり、次のページにある記憶操作を行わないと消えてしまいます。

コンビネーションプリセットに記憶させる

例：F - Dに記憶する

① バンクを選ぶ



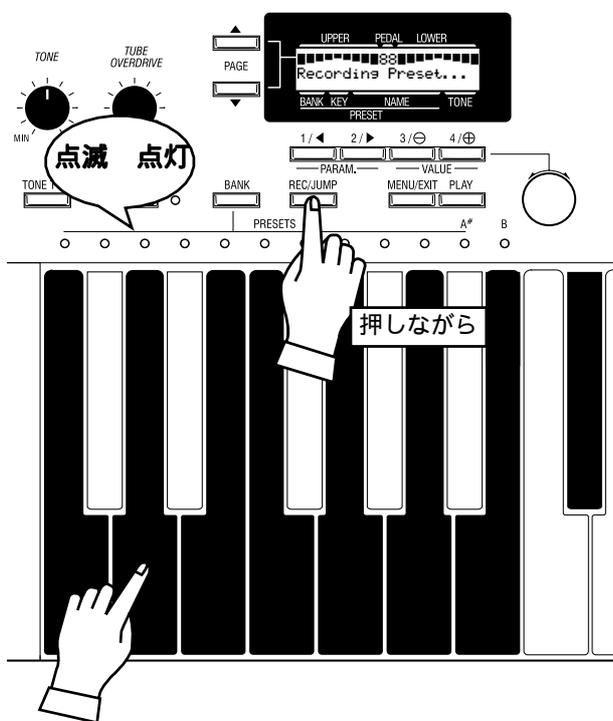
[BANK]ボタンを押しながら、プリセットキー[F]を押します。

[BANK]ボタンを押している間は、プリセットキー上のランプはバンクを表示しています。

MEMO: 手を離すと、ランプは消灯します。これはまだプリセットが確定していません。

バンクを変更しない場合は、この操作は必要ありません。

② キーを選ぶ



[REC/JUMP]ボタンを押しながら、プリセットキー[D]を押します。

プリセットが確定し、ディスプレイに一定時間、次のように表示されます。

Recording Preset...

記憶が完了すると、プリセットキー[D]上のランプが一定時間点滅→点灯に変わり（自動的に記憶させたプリセットが選ばれます）、ディスプレイは直前の画面に戻ります。

※プリセットキー[B]には、この操作で記憶させることはできません。

MEMO: 記憶させたプリセットデータは、電源を切っても消えることはありません。



コントロールパネルの
使いかた

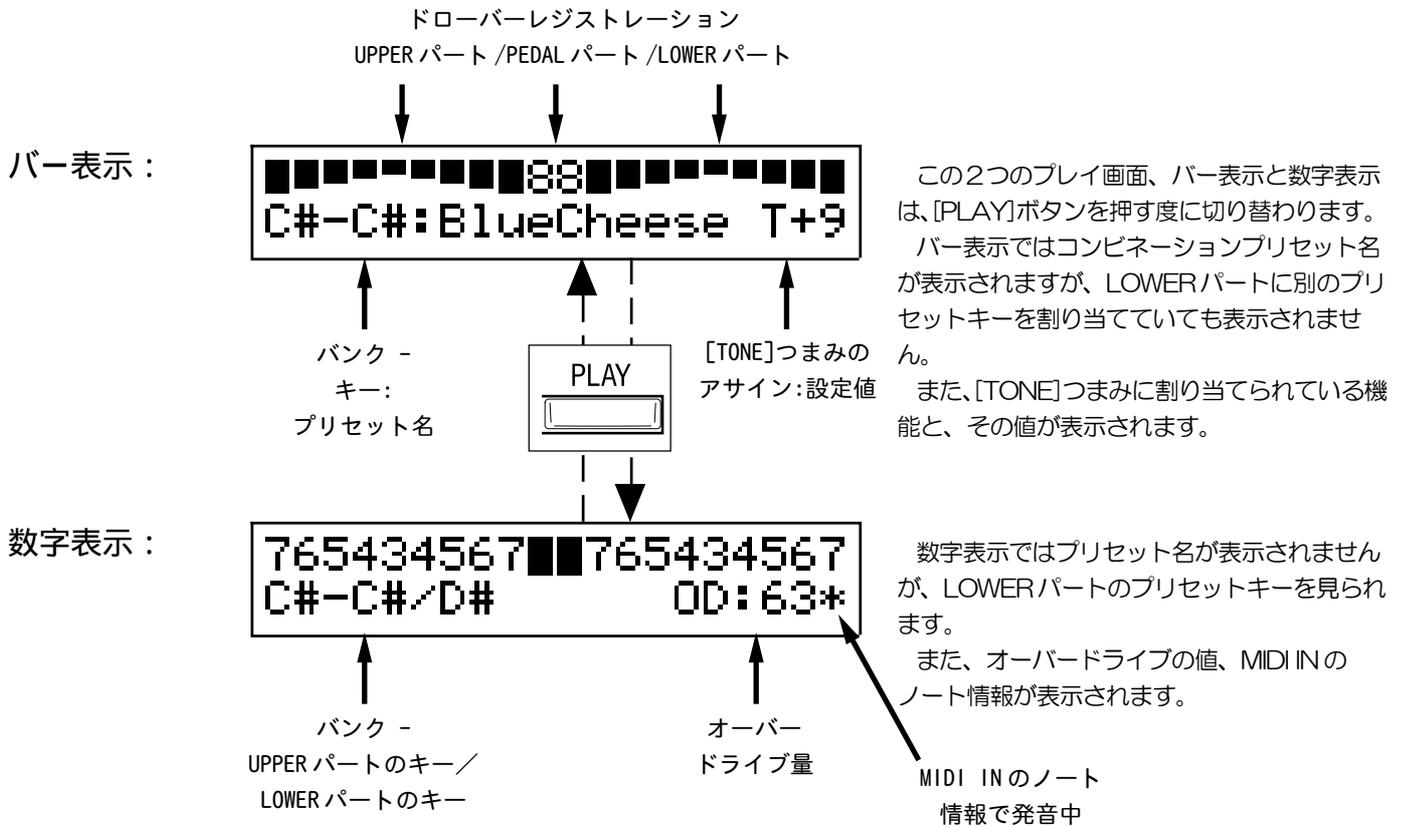
プレイ画面は、全ての操作の基本となる画面で、普段の演奏に必要な情報が表示されます。

プレイ画面は2種類あり、主な違いはドローバーレジストレーションのバー表示と数字表示です。

この画面に来るには:

1. 電源投入直後、演奏可能な状態になるとプレイ画面が表示されます。
2. 他の画面が表示されているときは、[PLAY]ボタンを押します。

ディスプレイの見かた



メニュー画面

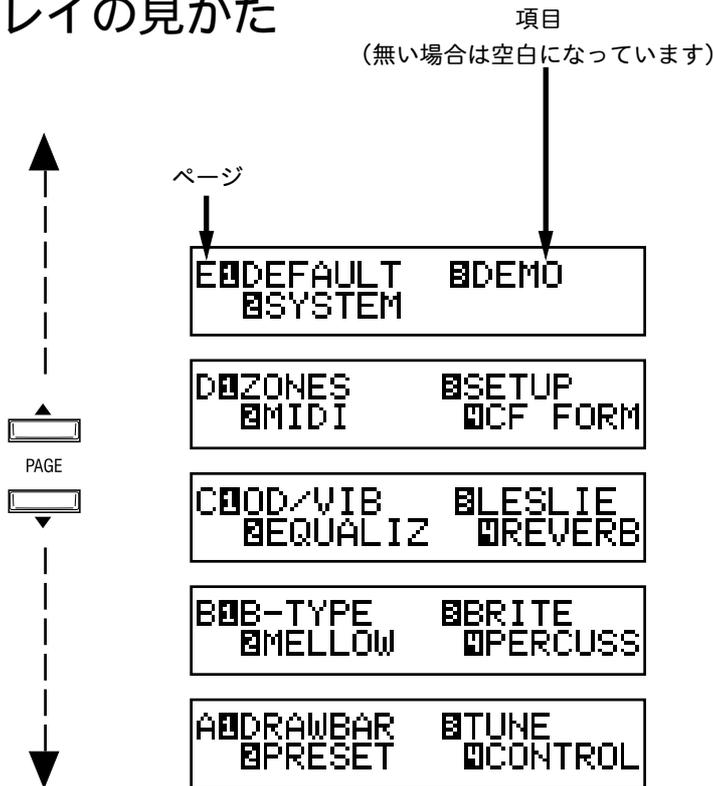
メニュー画面は、それぞれの機能画面へ行くための扉の役割をする画面です。

この画面に来るには：

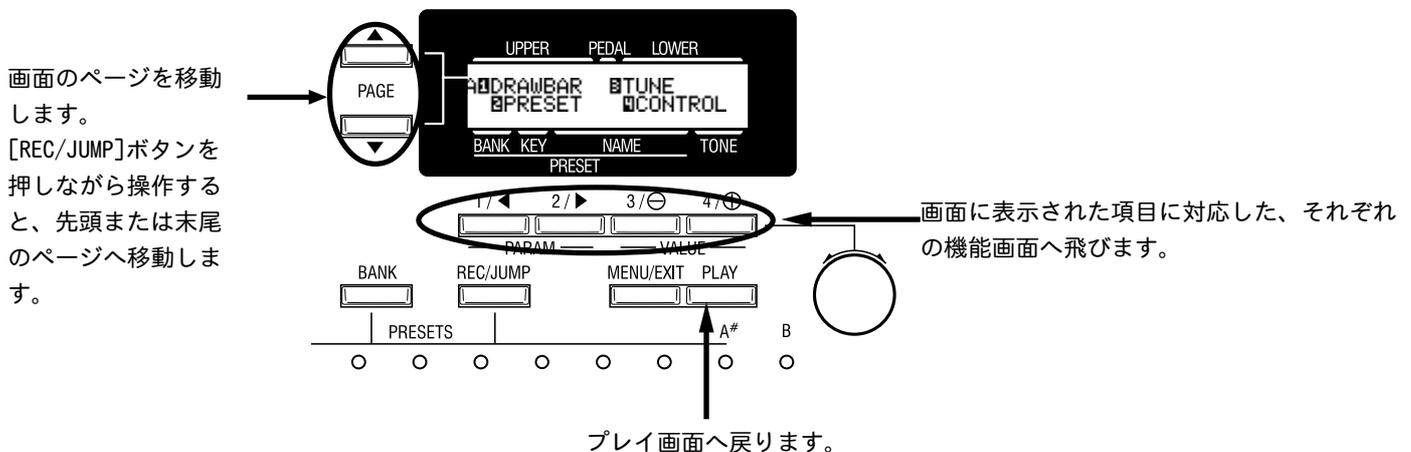
[MENU]ボタンを押します。

機能画面はたくさんあるため1つの画面には収まりません。そのためメニュー画面には複数のページが存在します。ページを移動して行きたい項目を探し、次に数字ボタンを押すとそれぞれの機能画面が現れます。

ディスプレイの見かた



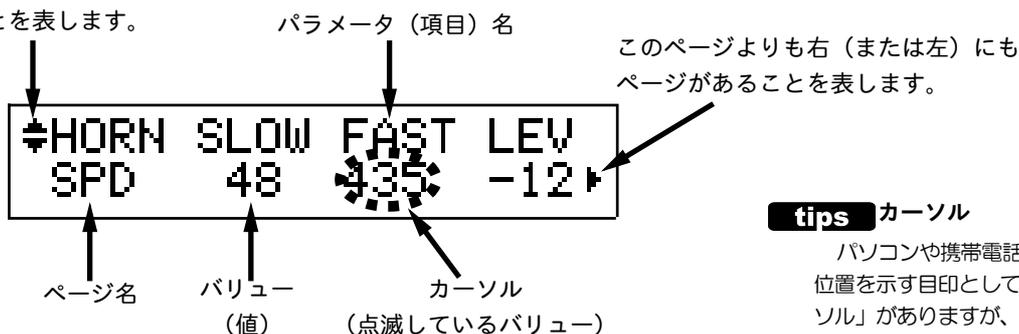
この画面でのボタン操作



機能画面は各設定や調整を行うための画面です。
 たくさんの画面がありますが、基本的な操作は共通しています。

ディスプレイの見かた

このページよりも上（または下）にも
 ページがあることを表します。

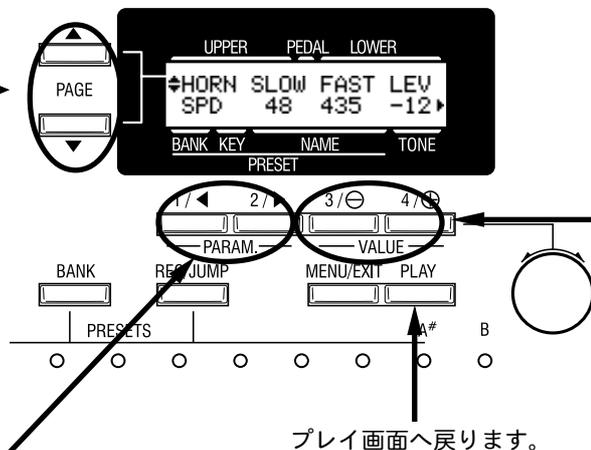


tips カーソル

パソコンや携帯電話には文字を入力する位置を示す目印として四角形やI形の「カーソル」がありますが、本機のカーソルはその文字が点滅する方法で表示されます。

この画面でのボタン操作

画面のページを移動
 します。
 [REC/JUMP]ボタンを
 押しながら操作する
 と、先頭または末尾
 のページへ移動しま
 す。

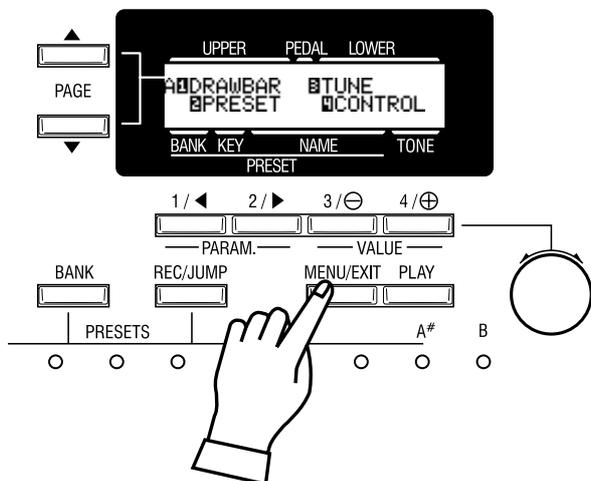


カーソルを左右に移動し、変更するパラメータを
 選択します。
 カーソルが画面の端に行き、更に左右に画面があ
 る場合はそのページへ移動します。
 [REC/JUMP]ボタンを押しながら押すと、カーソル
 位置に関わらず左右のページへ移動します。

カーソルがあるパラメータの値を加減しま
 す。
 押し続けると連続して値が増加（または減
 少）します。
 [REC/JUMP]ボタンを押しながら押すと、粗
 いステップで増加（または減少）します。
 また、値の変更は右下の[VALUE]つまみで
 も可能です。

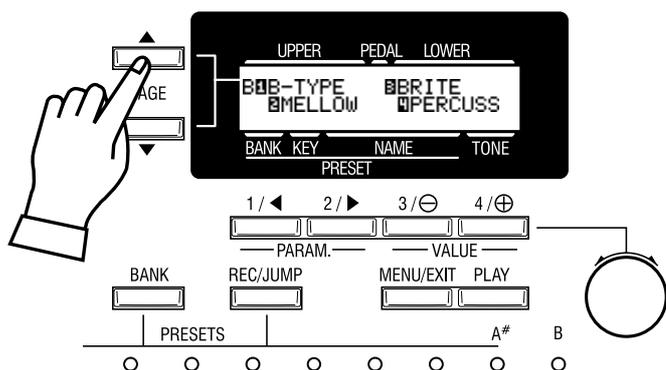
操作例：パーカッション[FAST]時の減衰時間をもっと速くする

1. メニュー画面へ行く



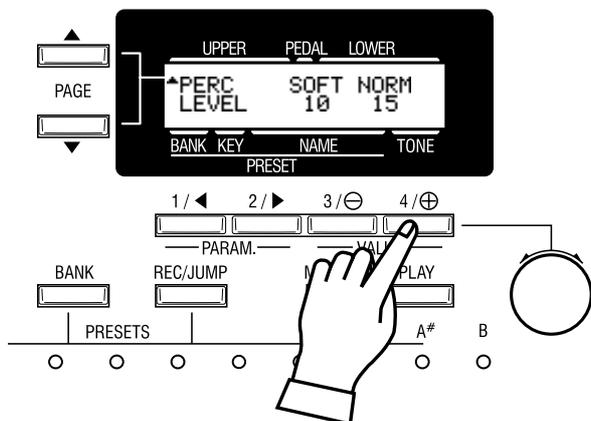
[MENU]ボタンを押します。
メニュー画面が表示されます。

2. メニューのページを選ぶ



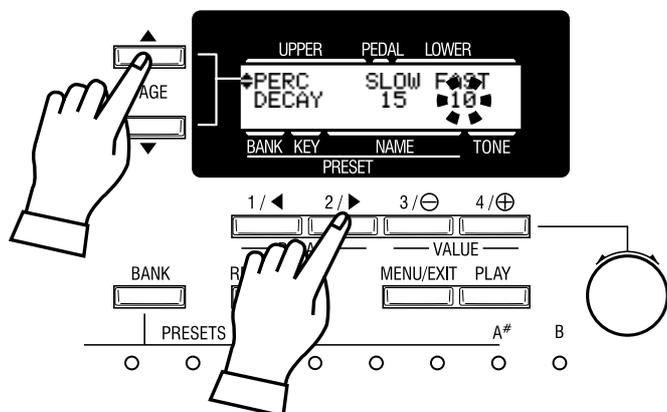
[PAGE]ボタンを使ってPERCUS（パーカッション）のあるページを探します。
“PERCUS”はページBにありますので、ページを“B”にします。

3. 数字ボタンを押す



“PERCUS”は4番にありますので、[4]ボタンを押します。
パーカッション機能画面（の先頭ページ）にきました。

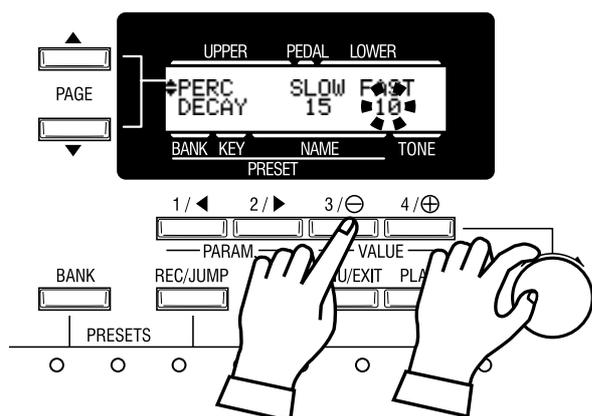
4. 変更したいパラメータにカーソルを移動する



減衰時間は“DECAY”ページにあります。[PAGE]ボタンを使って“DECAY”ページに移動します。

“FAST”は右端にありますので、カーソル（点滅しているバリュー）を[PARAM]ボタンを使って右端の“FAST”の下に移動します。

5. バリューを変更する



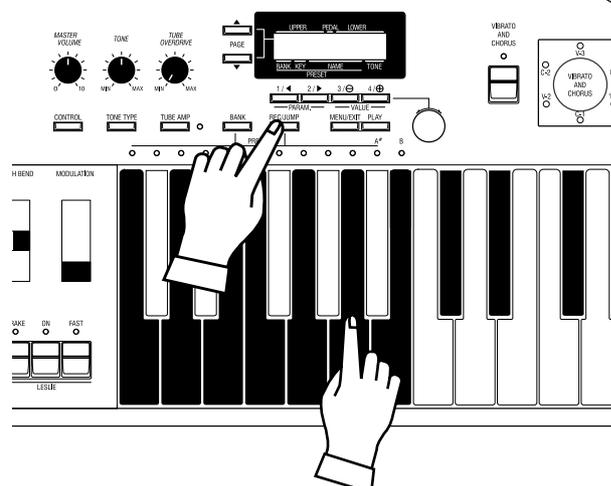
[VALUE]ボタンか、右下の[VALUE]つまみを使って、数値を小さくします。

MEMO: 他の項目も変更したい場合は、1から5の操作を繰り返します。

6. 必要であればコンビネーションプリセットに記憶させる。

このパラメータ“DECAY FAST”はプリセットパラメータなので、他の（または現在の）コンビネーションプリセットを呼び出すとその設定値に戻されてしまいます。

変更した値をこれからも使い続ける場合は、コンビネーションプリセットに記憶しておく必要があります。



tips プリセットパラメータ

各コンビネーションプリセットごとに記憶されるパラメータです。

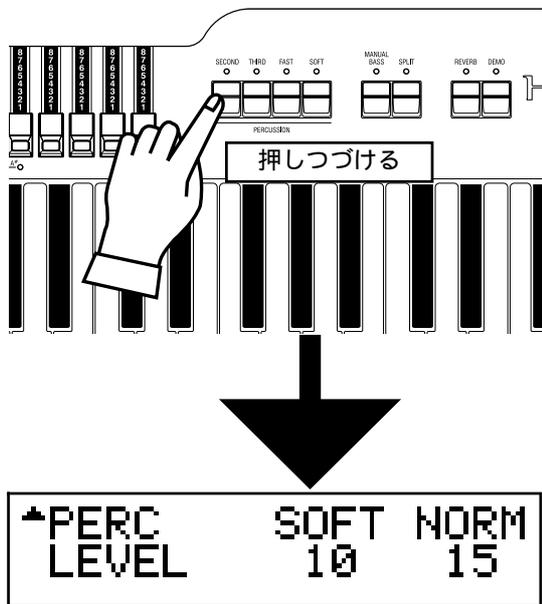
パネル上のボタン/つまみの状態や、この例の“DECAY FAST”を始めとする多くのパラメータが含まれます。

反対に、全体で共通の（コンビネーションプリセットに入らない）パラメータをグローバルパラメータと呼びます。

機能画面へ簡単に行く（ショートカット）

各機能画面に簡単に行けるよう、パネル上の各ボタンには「ショートカット」が関連付けられています。ボタンを押し続けるだけで必要な画面へ行けるので、変更したいパラメータのあるページを探す手間が省けます。

操作例：パーカッション機能画面へ行く



例えば、パーカッションの設定を行いたい場合はパーカッションのボタンいずれか[SECOND]、[THIRD]、[FAST]、[SOFT]をしばらく押し続けると、パーカッション機能画面へ行くことができます。これを「ショートカット」と呼びます。

どのボタンがどの画面へショートカットしているかは、次章の「パラメータを設定する」で説明しています。

MEMO: ショートカットのためにボタンを押し続ける時間を変更することができます(P. 61)。

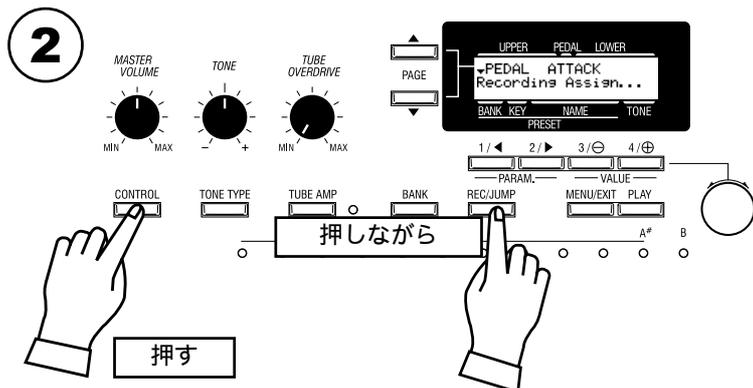
良く行く画面を登録する

任意の画面を登録し、[CONTROL]ボタンを押すだけでその画面へ行くことができます。

操作例：ドローバー・ペダル画面を登録する



登録したい画面をメニュー等を使用して表示させます。ここでは例として、ドローバー・ペダル画面を表示させます。



[REC/JUMP]ボタンを押しながら、[CONTROL]ボタンを押します。

次回からこの画面（この例ではドローバー・ペダル画面）へは、[CONTROL]ボタンを押すだけで来られます。



パラメータを設定する

DRAWBAR (ドローバー)

この画面では、各パートのドローバー音色関連のパラメータを設定します。

この画面に来るには:

[MENU/EXIT]ボタンを押してメニューを表示させ、[PAGE]ボタンでページAを選び、
[1]DRAWBARを選びます。

9 ▼PEDAL ATTACK Muted 10 NORM CLK ▲L&U CLK-AT RL LPF B-Type 2 10 3 5 4 20	13 14 ▼PEDAL DCY SUST VEL Muted 11 C 12 OF 3 OF ▲L&U AT-ENU-RL B-Type 5 0 6 10	▼PEDAL MODE Muted 15 POLY ▲L&U LO-FOLD-HI B-Type 7 2C 8 4G
---	--	---

1

●手鍵盤パート(UPPER/LOWER)の設定

1. トーンホイール

手鍵盤パートのトーンホイールセット(波形)を選択します。

- B-type: B-3/C-3 伝統のトーンホイールサウンド
- Mellow: 透明感のある正弦波
- Brite: X-5に代表されるアナログ発振のサウンド

2. クリック - アタックレベル

アタック(鍵盤を押した)時のキークリック音量を設定します。
値が大きくなるほど音量が上がり、0ではキークリックは発音しません。

3. クリック - リリースレベル

リリース(鍵盤を離れた)時のキークリック音量を設定します。
値が大きくなるほど音量が上がり、0ではキークリックは発音しません。

4. クリック - LPF

キークリックの音色を設定します。
設定範囲は0~127で、値が大きくなるほど音色が明るくなります。

5. エンベロープ - アタックレイト

アタック(鍵盤を押した)時にドローバーの音量が立ち上がる速さを設定します。
値が大きくなるほど立ち上がりが遅くなり、0では鍵盤を押すと同時に最大音量になります。

6. エンベロープ - リリースレイト

リリース(鍵盤を離れた)時にドローバーの音量が消える速さを設定します。
値が大きくなるほど立ち下がりが遅くなり、0では鍵盤を離すと同時に消音されます。

7. フォールドバック - ロー

16フィートのドローバーがどのキーから左でフォールドバック(オクターブを折り返す)するかを設定します。
表示は本体の鍵盤に於いてプリセットキーを除く一番左のキーを"1C"として行われます。設定範囲は1C~2Cです。

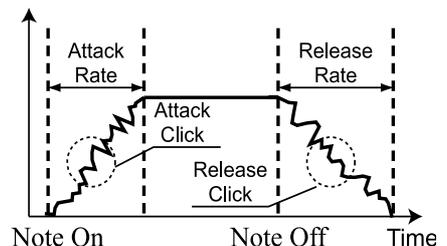
tips トーンホイールセット

各トーンホイールセットは、更に細かい調整が行えます(P.64)。

tips キークリック

B-3/C-3では音声をメカニカル(機械式)接点方式の鍵盤で直接オンオフしており、鍵盤を押したり離したりする際にノイズが発生していました。これをシミュレートする機能です。

Loudness

**tips** フォールドバック

B-3/C-3ではトーンホイールの枚数制限上、ある音程より上(又は下)の音程については、それよりもオクターブを折り返したホイールのサウンドを代理で発音させるしくみになっていました。これをシミュレートする機能です。

8. フォールドバック - ハイ

1フィートのドローバーがどのキーから右でフォールドバック（オクターブを折り返す）するかを設定します。設定範囲は4G～5Cです。

MEMO: フォールドバックは1フィートだけではなく1 1/3、1 3/5、2、2 2/3フィートのドローバーでも行われます。

●ペダルパート(PEDAL)の設定

9. トーンホイール

ペダルパートのトーンホイールセット（波形）を選択します。

Normal: B-3/C-3 伝統のトーンホイールサウンド

Muted: X-5に代表されるアナログ発振のサウンド

Synth: フィルタースイープ付きの鋸歯状波

MEMO: このページには[MANUAL BASS]ボタンを押し続けることでも来られます。

10. アタック

アタック（鍵盤を押した）/リリース（鍵盤を離れた）時の立ち上がりとキークリック音量を設定します。

MAX CLK: すぐに立ち上がり、キークリック音量は大です。

NORM CLK: すぐに立ち上がり、キークリック音量は通常です。

SOFT CLK: すぐに立ち上がり、キークリック音量は小です。

NO CLK: 若干遅めに立ち上がり、キークリックはありません。

SLOW ATK: 遅めに立ち上がり、キークリックはありません。

11. ディケイレイト

鍵盤を押し続けている間、その音が持続するか減衰するか、また減衰する時間を設定します。

設定範囲は1～5、Cで、値が増えるほど減衰時間が長くなり、Cでは減衰しません。

12. サステイン - オン

サステイン機能を使用するかどうかを設定します。

ONで有効になります。

13. サステイン - レングス

12. サステイン - オンが「オン」になっている場合の、リリースレイト（鍵盤を離れた後の減衰時間）を設定します。

1が最も短く、5が最長です。

14. ベロシティ

ベロシティに対する反応を設定します。

設定範囲はOF, 1～4で、OFでは鍵盤を強く強さに関係なく一定音量で発音し、1～4は値が増えていくに従って、軽く鍵盤を押しても強く発音するようになります。

ベロシティが1～4の場合は、OFよりも鍵盤を若干深く押した点で発音します。

15. キーモード

ペダルパートの発音方法を設定します。

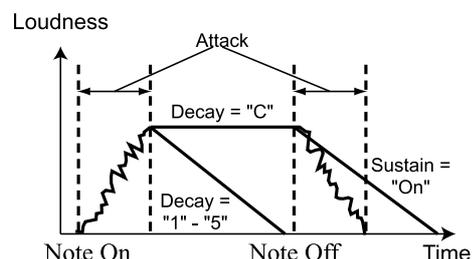
POLY: 和音（3音まで）が演奏可能です。

MONO: 和音で演奏すると、最低音のみ発音します。

MEMO: サステイン機能を使用している場合、あるノートを離鍵した後の減衰音はPOLYモードでも新しいノートを押すと消音されます。

MEMO: MIDI INが“IN1/IN2”の場合、MIDI IN端子から受信したPEDALパートのノートはこのバリューに関わらず常にPOLYとして動作します(P.86 #2)。

MEMO: これらの画面のパラメータは、全てプリセットパラメータです。各コンビネーションプリセットに記憶されます。



tips サステイン

ここでのサステインはシンセサイザーのそれとは異なり、鍵盤を離れた後にゆっくりと音量が減衰していく機能を言います。

tips ベロシティ

ベロシティとは鍵盤を強く強さのことで

す。ピアノは鍵盤を強く弾くと、ハンマーが弦を強く叩くため大きな音がします。

一方オルガンの鍵盤は一般的には弁を開くためのスイッチであるため、鍵盤を強く強さによっては音に変化がありません。

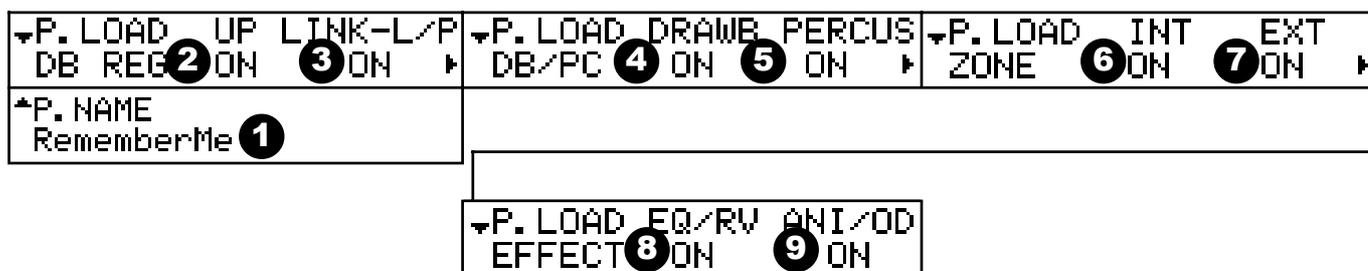
この機能はディケイレイトが“C”以外、つまり減衰音のときに使用すると効果的です。

PRESET (プリセット)

この画面ではコンビネーションプリセットの命名と、呼び出しかたの設定を行います。

この画面に来るには：

[MENU/EXIT]ボタンを押し、メニューを表示させ、[PAGE]ボタンでページAを選び、
[2]PRESET ボタンを押します。



●プリセット名

1. プリセット名(P)

現在のコンビネーションプリセットに10文字以内で名前を付けます。

[PARAM]ボタンでカーソルを移動し、[VALUE]ボタンまたは[VALUE]つまみで文字を選びます。

この変更は他のプリセットパラメータ同様、記憶操作を行わないと消えてしまいます。

MEMO: このパラメータ(P)はプリセットパラメータです。各コンビネーションプリセットに記憶されます。

●プリセットロード

本体鍵盤のプリセットキーを押した場合の動作を設定します。

2. プリセットロード - アパー(B)

UPPER部分のドローバーレジストレーションを呼び出すかどうかを設定します。

3. プリセットロード - リンクロー/ペダル(G)

LOWER及びPEDAL部分のドローバーレジストレーションを呼び出すかどうかを設定します。

4. プリセットロード - ドローバー(B)

トーンホイールセットなど、各部分のドローバーに関するパラメータを呼び出すかどうかを設定します。

5. プリセットロード - パーカッション(B)

[B]キー以外でもパーカッションを鳴らすかどうか、またパーカッションに関するパラメータを呼び出すかどうかを設定します。

6. プリセットロード - インターナルゾーン(B)

スプリットやマニュアルベースなど、インターナルゾーンに関するパラメータを呼び出すかどうかを設定します。

7. プリセットロード - エクスターナルゾーン(B)

外部MIDI機器をコントロールする、エクスターナルゾーンに関するパラメータを呼び出すかどうかを設定します。

8. プリセットロード - EQ/RV(B)

イコライザーとリバープに関するパラメータを呼び出すかどうかを設定します。

9. プリセットロード - ANI/OD(B)

ビブラート、オーバードライブ、レスリーに関するパラメータを呼び出すかどうかを設定します。

MEMO: リンクロー/ペダルを除くプリセットロードの各パラメータ(B)はバンクパラメータで、現在選択されているバンクに対してのみ設定されます。リンクロー/ペダルはグローバルパラメータで、各バンクについて共通です。

リンクローワー／ペダルの効果的な使用法

これは LOWER 及び PEDAL パートのプリセットを本体では操作せず、接続した MIDI キーボードからのみ切り替え／記憶できるようにする機能です。

B-3/C-3 のプリセットキーは各鍵盤で独立しており、ばらばらに切替操作を行うようになっていました。これをシミュレートするための機能です。

リンクローワーがオンの場合

本機のプリセットキーでコンビネーションプリセットを呼び出すと、UPPER/LOWER/PEDAL 全パートの内容が切り替わります。

その後、LOWER パートを別のプリセットキーにしたい場合は、MIDI IN (LOWER) に接続した MIDI キーボード（以下 LOWER キーボード）でそのキーに相当するプログラムチェンジを送信します。

MEMO: プログラムチェンジとキーとの関連は巻末 Appendix をご参照ください。

コンビネーションプリセットへの記憶は、本機のプリセットキーでは UPPER/LOWER/PEDAL 全パートに対して、LOWER キーボードでは LOWER パートに対してのみ行われます。

LOWER パートのプリセットへの記憶をするには、本機の [REC/JUMP] ボタンを押しながら LOWER キーボードからプログラムチェンジを送信します。

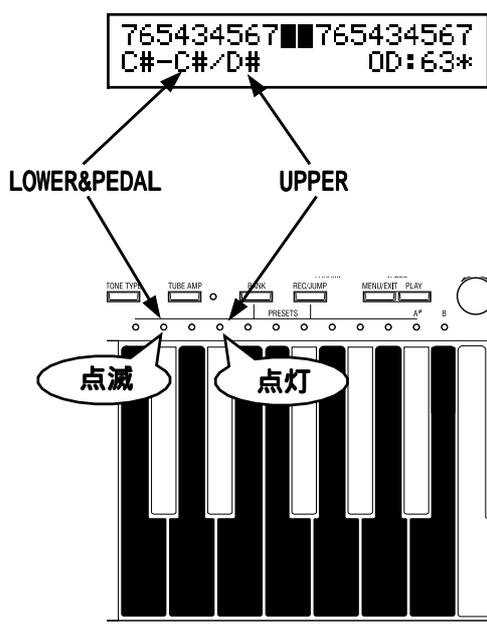
リンクローワーがオフの場合

本機のプリセットキーでコンビネーションプリセットを呼び出すと、UPPER パートのみ内容が切り替わります。

LOWER パートのプリセットを呼び出すには、LOWER キーボードでそのキーに相当するプログラムチェンジを送信します。

コンビネーションプリセットへの記憶は、本機のプリセットキーでは UPPER パートに対してのみ、LOWER キーボードでは LOWER パートに対してのみ行われます。

UPPER パートと LOWER、PEDAL パートとで異なるプリセットキーが選ばれている場合、以下のような表示が行われます。



この画面では、各種コントローラに関する設定を行います。

本機に搭載されているつまみやスイッチには、その役割を変えられるものがいくつかあります。また、リアパネルにはフットスイッチとエクスプレッションペダルの接続端子が2つあり、そのどちらを使用

するかを選択する必要があります。これらの設定を行います。

この画面に来るには：

[MENU/EXIT]ボタンを押しメニューを表示させ、[PAGE]ボタンでページAを選び、[4]CONTROLボタンを押します。または、[CONTROL]ボタンを押します（初期設定）。

↓DISP SH. CUT TIMEOUT 21 1 sec 22 NO		
↕DEMO ASSIGN 20 DEMO PLAY		
↕FOOT 1 (PHONE) DEV SW 16 PEDAL ▶	↕FOOT 1 (PHONE) TIP SW 17 LESLIE S/F ALT ▶	↕FOOT 1 (PHONE) RING SW 18 SLIE S/F ALT ▶
↕EXP- SOURCE MON RESS 10 ED1 (NORM) 11 127	↕EXP. LEV LF-LIM-HF MIN 12 35 13 25 14 30 ▶	↕EXP. GAIN MON CALIB 15 100% 11 127
↕MOD LES. FAST 9 OF		
↕BEND -L&U+ -PED+ RAN 2 12 3 2 4 12 5 2 ▶		
↕BEND MODE TIME AMP OPT 6 BEND 7 3.5 8 OF		
↕DRAW- CTRL. MODE BAR 1 UPPER/LOWER		

1. ドローバー - コントロールモード(G)

プリセットキーの[A#]または[B]が押されたときに、左右のドローバーがどのように機能するかを設定します。

UPPER/LOWER:

左ドローバーはUPPER、右ドローバーはLOWER部分をそれぞれコントロールします。

A#/B:

[A#]がオンの間、右ドローバーがUPPER部分をコントロールし、左ドローバーは動作しません。また、[B]がオン間、右ドローバーは動作せず、左ドローバーがUPPER部分をコントロールします。[A#]または[B]がオンの間、LOWER部分のドローバーレジストレーションは操作できません。

2. ベンド - L&U ダウン(P)

3. ベンド - L&U アップ(P)

4. ベンド - PEDAL ダウン(P)

5. ベンド - PEDAL アップ(P)

ピッチベンドホイールの変化幅を半音単位で設定します。

LOWERとUPPERの両部分はトーンホイールを共用しているため、同時に変化します。

設定範囲は、0～24（ダウン）、0～12（アップ）です。

FOOT 2 (EXP-100) MODE
SW 19 ESLIE S/F ALT

6. ベンド - モード(P)

ピッチベンドホイールの機能を選択します。

BEND:

ピッチベンドホイールを動かすと、それに合わせてピッチが上下します。

MOTOR:

トーンホイールを回すモーターをコントロールします。ニュートラル位置でモーターオン、手前に動かすとモーターは徐々に停止し、奥へ動かすとモーターは徐々に加速します。

7. ベンド - タイム(P)

モード(6)がMOTORのときに、モーターが停止/加速する時間を設定します。設定範囲は、0.1秒～5.0秒です。

8. ベンド - アンプ(P)

ピッチベンドホイールを手前に動かしたときに、アンプの動作を停止させるかどうかを切り替えます。

ONにすると、ピッチが下がると共に音が徐々に消えていきます。

9. モジュレーション - レスリー(P)

モジュレーションホイールをレスリーファースト機能に割り当てます。

ON: モジュレーションホイールを奥へ動かすとファースト、手前に動かすとスロースピードになります。

OF: 機能しません。

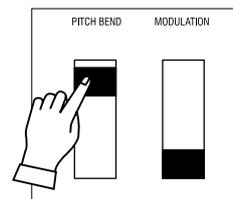
MEMO: パラメータ名の後に(P)の表記があるパラメータはプリセットパラメータで、各コンビネーションプリセットに記憶されます。(G)はグローバルパラメータで、設定した時点で記憶され、各コンビネーションプリセットで共通です。

tips モーター

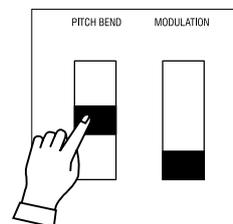
B-3/C-3には本来ピッチベンド機能は付いていません。しかし演奏中に電源スイッチを切り、強制的にピッチベンドダウンを行う奏法がプレイヤー達によって開発されました。

B-3/C-3は電源スイッチが切られると、トーンホイールを回転させるモーターが徐々に回転数を落とし、ついには停止してしまいます。また、トーンホイールからの音声信号を増幅する真空管アンプも徐々にその機能を停止します。これをシミュレートする機能です。

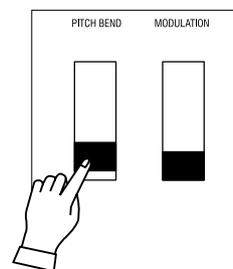
tips ピッチベンドモードと動作



BEND: ピッチが操作と同時に上がります。
MOTOR: ピッチが規定値まで徐々に上がります。



BEND: すぐに通常のピッチになります。
MOTOR: 徐々に通常のピッチになります。



BEND: ピッチが操作と同時に下がります。
MOTOR: ピッチが規定値まで徐々に下がります。

10. エクスプレッション - ソース(G)

何を使用してエクスプレッションを操作するかを設定します。

PED1 (NORM):

V-20R 等を使用します。

PED1 (REV):

KORG 社製 XVP-10 等を使用します。

EXP-100:

EXP-100F 等を使用します。

MIDI IN:

キーボードチャンネル UPPER で受信したエクスプレッション情報を使用します。

11. エクスプレッション - モニター

現在のエクスプレッション値を表示します。

音が出ない、エクスプレッションペダルを動かしても変化が無いといった場合に、正常にエクスプレッション値が変化しているかどうかを確認し、トラブルの原因を判定することができます。また、小音量からフェードインしていく演奏をする場合の目安にもなります。

12. エクスプレッション - ミニマムレベル(G)

エクスプレッションを最小にした場合の音量を設定します。

設定範囲は OFF、-60dB ~ -0dB で、OFF にすると完全に音は消え、0dB では音量が減りません。

13. エクスプレッション - リミット LF(G)

14. エクスプレッション - リミット HF(G)

エクスプレッションを最小にした場合、それぞれ低音、高音をどれだけ残すかを設定します。

設定範囲は OFF、-60dB ~ -0dB で、OFF にするとこの機能は働かず、それ以外の値ではエクスプレッションが最小にされても、設定された各音量をキープします。

15. エクスプレッション - ゲイン(S)

接続したエクスプレッションペダルのゲイン（変化幅）を設定します。

本機と接続したエクスプレッションペダルそれぞれのばらつきにより、エクスプレッションペダルをいっぱい踏み込んでも、最大値である 127 までエクスプレッション値が変化しないことがあります。このような場合には、このパラメータで最大の変化幅が得られるよう調整します。

MEMO: このパラメータはシステムパラメータです。設定した時点で記憶され、各コンビネーションプリセットで共通です。また、セットアップには保存されません。

16. フットスイッチ - 1 デバイス(G)

フットスイッチ 1 端子に接続する機器を設定します。

PEDAL: フットスイッチを使用します。

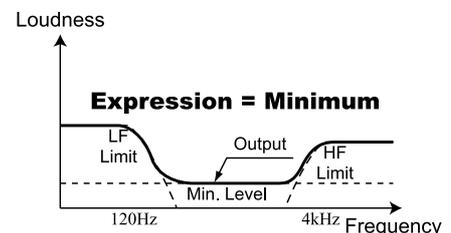
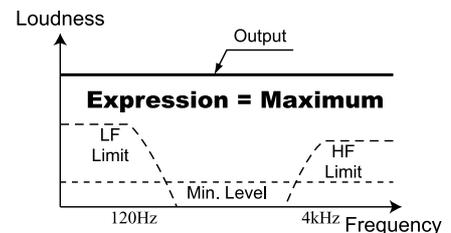
CU-1: レスリースイッチ CU-1（別売）を使用します。

tips エクスプレッションリミット

人間の耳は音量が下がると共に、低音と高音が聞こえづらくなる特性を持っています。

エクスプレッションを使って音を弱くした際に、低音と高音の音量をある程度維持することで、この特性を補正します。

家庭用のオーディオ装置にも同様の機能が付いたものがあり、これは「ラウドネス」機能と呼ばれています。



17. フットスイッチ - 1 チップ(G)

フットスイッチ1端子の機能を設定します。

ステレオ端子を備えたフットスイッチを使用している場合は、チップ側の機能を設定します。

OFF: 機能しません。

LESLIE S/F ALT:

LESLIE S/F MOM:

レスリー効果のスロー、ファーストを切り替えます。

ALTではフットスイッチを一回踏むたびに切り替わり、MOMではフットスイッチを踏んでいる間、レスリー効果がファーストになり、離すとスローになります。

DAMPER UPPER:

DAMPER LOWER:

DAMPER PEDAL:

フットスイッチを踏んでいる間、それぞれ UPPER, LOWER, PEDAL パートのノートを保持します。

PRESET FWD:

PRESET REV:

コンビネーションプリセットを1つ右 (FWD)、左 (REV) へ切り替えます。

SPRING:

スプリングリバーブの衝撃音を発生します。

DELAY TIME:

フットスイッチを踏む間隔で、リバーブエフェクト(P. 73)のディレイタイムを設定します。

18. フットスイッチ - 1 リング(G)

ステレオ端子を備えたフットスイッチを使用している場合に、リング側の機能を設定します。

19. フットスイッチ - 2 モード(G)

エクスプレッションペダルEXP-100F (別売) に付属しているフットスイッチの機能を設定します。

20. デモ(G)

[DEMO]ボタンの機能を設定します。

DEMO PLAY: デモ演奏を再生します。

PEDAL SUS: PEDAL部分のサステイン機能をオン/オフします。

EX. ZONE: エクスターナルゾーンへの送信をオン/オフします。

LOWER OCT: LOWER部分のオクターブを0/+1どちらかに切り替えます。

LES. BRAKE: [LESLIE BRAKE]ボタンと同じ働きをします。

LES. ON: [LESLIE ON]ボタンと同じ働きをします。

LES. FAST: [LESLIE FAST]ボタンと同じ働きをします。

VIB.ON: [VIBRATO/CHORUS]ボタンと同じ働きをします。

21. ディスプレイ - ショートカット(G)

ショートカット機能の待ち時間を設定します。

各ボタンを押し続けたときに、それに関連する画面へ飛び時間を選びます。

設定範囲は0s~2s, NOで、NOではショートカットは機能しません。

22. ディスプレイ - タイムアウト(G)

ショートカット操作によって表示された画面から、元の画面へ戻るまでの時間を選びます。

設定範囲は4s~16s, NOで、NOでは元の画面へは戻りません。

MEMO: パラメータ名の後に(P)の表記があるパラメータはプリセットパラメータで、各コンビネーションプリセットに記憶されます。(G)はグローバルパラメータで、設定した時点で記憶され、各コンビネーションプリセットで共通です。

tips DAMPER

ダンパーはピアノのダンパーペダルが語源です。

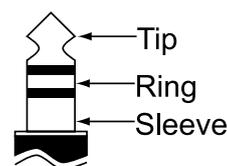
ピアノは普通、鍵盤から手を離すと音が止まります。これはダンパーという機構があるためです。ダンパーペダルを踏んでいる間はこの機構が働かず、離鍵しても音が鳴り続けます。

tips スプリングリバーブ

スプリングリバーブとは、スプリングの弾性を利用して残響を得るリバーブエフェクトです。これは振動に弱く、強い衝撃を与えると「ガーン」という音がしました。しかしプログレッシブブロックなどのジャンルではそれが効果音として利用されるようになりました。このサウンドをシミュレートしています。

tips チップとリング

ステレオヘッドホンのプラグを見ると、プラグの金属部分が3つの領域に分かれているのが分かります。先端を「チップ」、次の領域を「リング」、そしてコードの引き出し側を「スリーブ」と呼びます。一般のフットスイッチにはチップとスリーブしかありませんが、一本のプラグで2つのスイッチを装備しているフットスイッチや、L/R変換ケーブルを使用して2つのフットスイッチを接続することができます。



コントロールモードの効果的な使用法

ドロワー - コントロールモードは、通常「UPPER/LOWER」側しておきます。

「UPPER A#/B」は、演奏中に即興的に作ったドロワーレジストレーションに素早く切り替えたい場合に使用します。

これはハウスDJがクロスフェーダーを使用して、ある曲を再生中に、次の曲を準備するのに似ています。

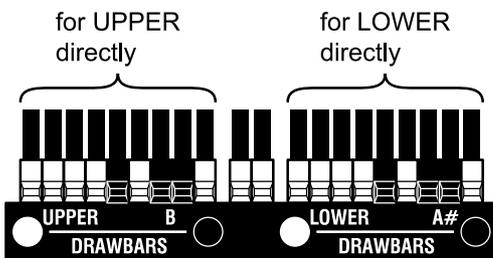
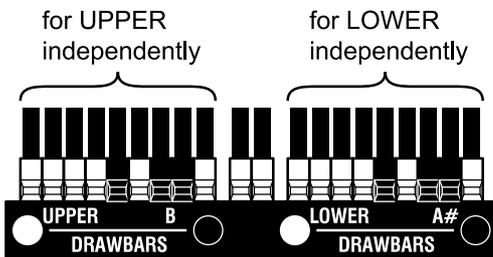
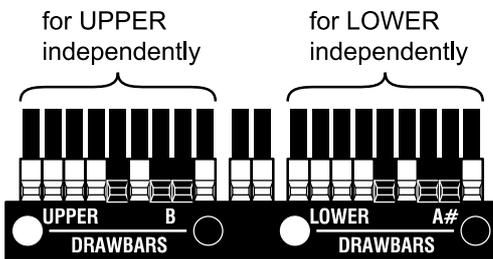
[B]キーで演奏中に、[A#]用のドロワーで次のレジストレーションを準備します（記憶操作は必要ありません）。次に[A#]キーを押すことで、それにスイッチされます。その逆も同じです。

この場合、プリセットキーで[A#]または[B]を選択した場合、左右のドロワーはUPPERパート専用になります。

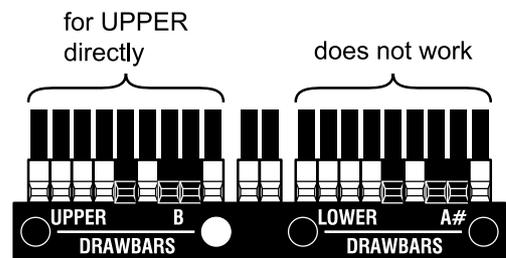
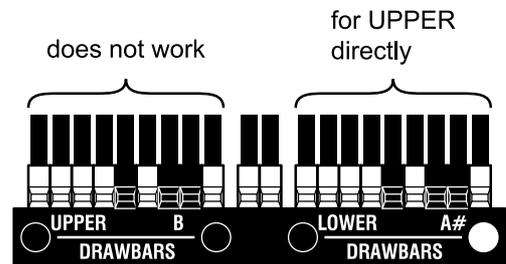
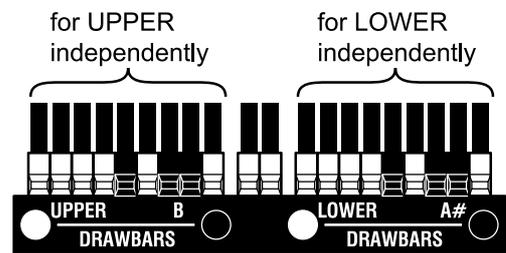
[B]のレジストレーションは左ドロワー、[A#]のレジストレーションは右ドロワーで操作します（ドロワーとキーの順序が異なることに注意してください）。

また、LOWERパートのレジストレーションは、それまで選ばれていたコンビネーションプリセットの内容が引き継がれます。

Control Mode: UPPER/LOWER



Control Mode: UPPER A# / B



この画面では調律と移調を行います。主に他の楽器との音程を合わせるために使用します。

この画面に来るには：

[MENU/EXIT]ボタンを押してメニューを表示させ、[PAGE]ボタンでページAを選び、[3]TUNEボタンを押します。



1. トランスポーズ

本機全体の移調を半音単位で行います。

設定範囲は -6 ~ +6 です。

トランスポーズは以下の時点でかかります。

- i. 本体の鍵盤と内蔵音源間
- ii. MIDI INと内蔵音源間
- iii. エクスターナルゾーンに対しては、RPNのマスターコースチューンが送信されません。
- iv. MIDIペダルボードXPK-100を接続した場合、そのトランスポーズ操作によってもこのパラメータは変更されます。

2. マスターチューン

本機全体の音程を変更します。

設定範囲は A=430 ~ 450Hz までです。

MEMO: これらの画面のパラメータはグローバルパラメータです。値を設定した時点で記憶されます。また、各コンビネーションプリセットで共通です。

tips

トランスポーズとトーンホイール

トランスポーズを0以外の値にすると、鍵盤とトーンホイールの関係がずれます。従って、その状態でトーンホイールの調整を鍵盤とドロバーを使用して行おうとしても、希望のホイールを選択することはできません。

この画面では、手鍵盤の各トーンホイールセット 1枚ずつの調整を行います。

トーンホイールセットは音程別に 96 枚のトーンホイールで構成されていて、1枚のホイールが複数のノートやドロバーのフィートに対応しています。

その関係は複雑で、例えば、8 の中央ドと 4 のオクターブ下のドは同じホイールを使用します。

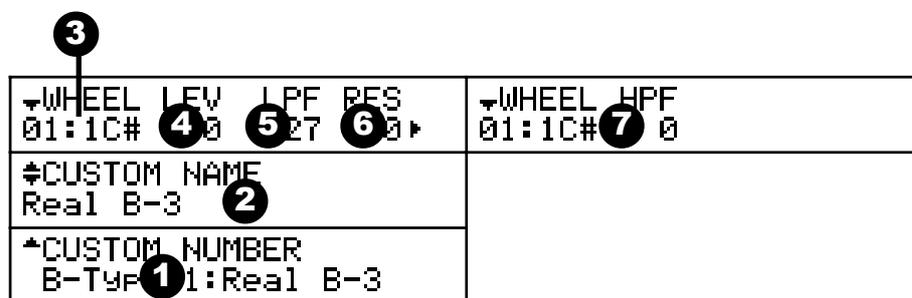
本機では 1 つのトーンホイールセットにつき 5 種類のセッティングを保存できます。これを「カスタ

ムトーンホイール」と呼びます。また、カスタマイズを行う雛形として、典型的なセッティング 3 種類が工場出荷時に記憶されています。

この画面に来るには：

[MENU/EXIT] ボタンを押してメニューを表示させ、[PAGE] ボタンでページ B を選び、調整したいトーンホイールセットによって [1] B-Type, [2] Mellow, [3] Brite ボタンのいずれかを押します。

また、テンポラリ（現在の設定）はここで選択したトーンホイールセットに自動的に切り替わります。



1. カスタム番号

使用または編集する「カスタム番号」を選択します。トーンホイールパラメータが変更されると、左に「*」が表示されます。

MEMO: このパラメータはグローバルパラメータです。各コンビネーションプリセットの同じトーンホイールセット（この例では” B-Type”）に対して共通です。

2. カスタム名

カスタムトーンホイールに 10 文字までの名前を付けます。

[PARAM] ボタンでカーソルを移動し、[VALUE] ボタン又は [VALUE] つまみで文字を選択します。

[REC/JUMP] ボタンを押しながら [VALUE] ボタンを押すことで、各文字種の先頭（スペース、Q、A、a）に飛びます。

ここで設定した名前は以下のトーンホイールパラメータ同様、次節で説明する記憶操作を行わないと消えてしまいます。

3. ホイール番号

調整したいホイールの番号を選択します。

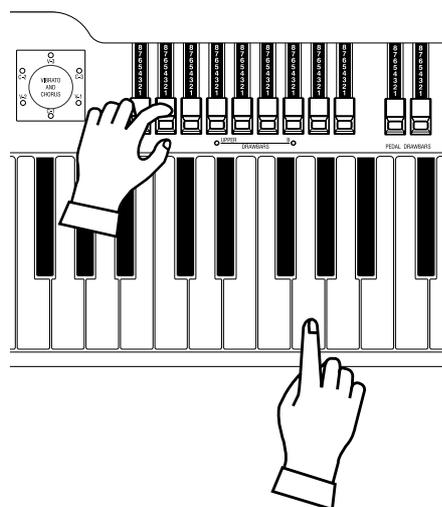
ホイール番号の選択をするにはここで [VALUE] ボタン / [VALUE] つまみで選択するほか、調整したい鍵盤を押しながらドロバーのフィートを少し動かすことでも行えます（右図）。

ホイール番号を選択すると、そのホイールの各パラメータ（3、4、5、6）が表示されます。

tips カスタム番号の初期値

初期値として、各番号の 1～3 には典型的な設定が記憶されています。

例えば B-Type には状態の良い B-3/C-3 を模した “Real B-3”、ノイズを出来るだけ減らした “80's Clean”、荒れたサウンドの “Noisy” が入っています。



ホイール番号の選択方法

4. レベル

このホイールの音量を設定します。

設定範囲は-20～+2dBで、バリューを大きくすると音量が上がります。

5. カットオフ周波数 - LPF

このホイールの高音をカットする周波数を設定します。

バリューを上げると、トーンホイール本来の音程以外にリーケージノイズ（漏れ雑音）が聞こえてきます。

バリューを下げると、高音が削られ甘い音色になります。

設定範囲は0～127です。

MEMO: バリューを下げすぎてトーンホイール本来の音程を割ると、そのホイールの音量が減衰してしまいます。

6. レゾナンス - LPF

カットオフ周波数 - LPF（4）で指定した周波数付近のフォルマント（癖）を設定します。

設定範囲は-100～+100で、バリューを増やすと癖の強い音色になり、減らすとなだらかに高音がカットされま

7. カットオフ周波数 - HPF

このホイールの低音をカットする周波数を設定します。

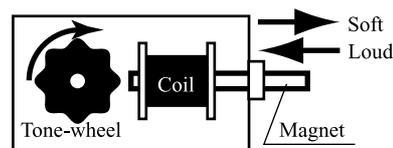
バリューを下げると、トーンホイール本来の音程以外にモーターハム（モーター雑音）が聞こえてきます。

設定範囲は0～127です。

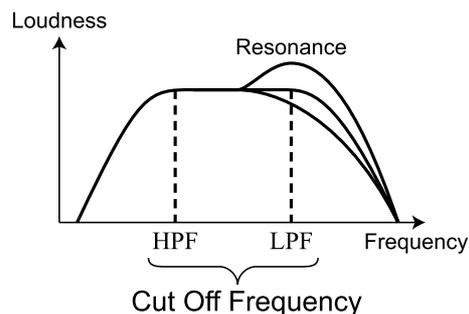
MEMO: バリューを上げすぎてトーンホイール本来の音程を越えると、「痩せた」サウンドになってしまいます。

MEMO: 2～7のパラメータはトーンホイールパラメータです。次ページの記憶操作を行うと、各コンビネーションプリセットの同じトーンホイールセット（この頁の例では” B-Type”）に対して共通に働きます。

MEMO: 2～7のパラメータを操作した場合、設定値は次ページの記憶操作を行わないと電源を切ると消えてしまいます。



レベル調整の概念



tips リーケージノイズ

B-3/C-3では、トーンホイールに取り付けられたピックアップから出力端子に至るまでの経路で信号の「漏れ」が発生し、トーンホイールのサウンド以外にも多少他のホイールのサウンドが混ざって聞こえます。これをリーケージノイズと呼びます。

リーケージノイズは純粋な音色合成には邪魔な存在ですが、現在ではかえてこれがキャラクターだとして認知されています。

Mellow,Briteにはリーケージノイズは含まれていません。

tips 歪み

レベル及びレゾナンスの値を上げすぎると、本機の音源内部で歪みが発生し、不快な雑音に聞こえることがあります。

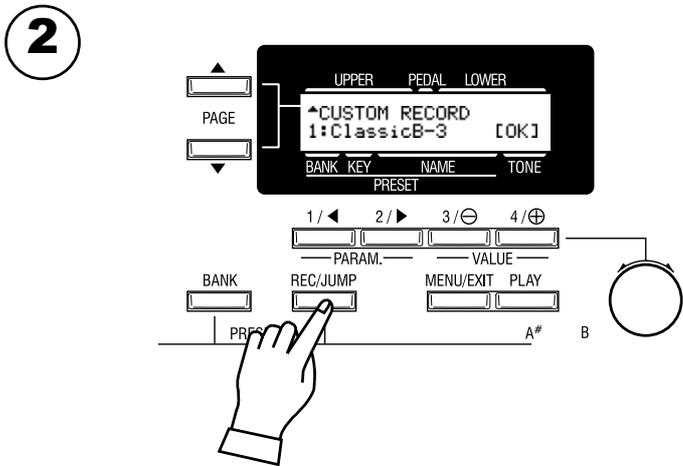
このような場合には、歪みが無くなるまでその値を下げてご使用ください。

トーンホイールを記憶させる

トーンホイールパラメータ（前項の2～6）は、カスタム番号を決めて記憶させ、演奏時にはこのカスタム番号を選択して使用します。

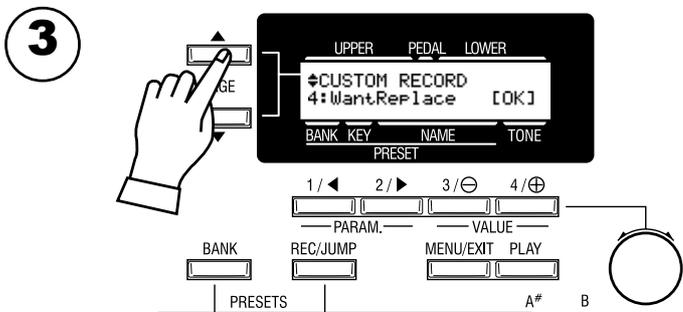


必要に応じカスタム名を付けます。

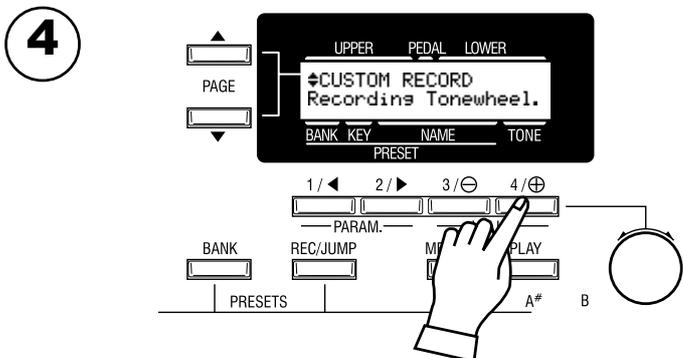


トーンホイールパラメータの設定画面で[REC/JUMP]ボタンを押します。

記憶させるカスタム番号の選択画面が表示されます。



[PAGE]ボタンで記憶させるカスタム番号を選びます。



[4]OK を押すと記憶されます。

記憶処理中は、図のように表示されます。

MEMO: 記憶させない場合は[MENU/EXIT]を押します。

この画面ではパーカッション音色のパラメータを設定します。

この画面に来るには：

[MENU/EXIT]ボタンを押してメニューを表示させ、[PAGE]ボタンでページBを選び、[4]PERCUSSボタンを押します。

または、[SECOND],[THIRD],[FAST],[SOFT]ボタンのいずれかを一定時間押し続けます。

▼PERC DRAWB	1' CANCEL ON	LEVEL -3dB
◆PERC KBD	TOUCH ON	VEL KTRK OFF ON
◆PERC DECAY	SLOW 15	FAST 10
▲PERC LEVEL	SOFT 10	NORM 15

1. レベル - ソフト

2. レベル - ノーマル

パーカッションの音量を設定します。

ソフトは[SOFT]ボタンがオン、ノーマルは[SOFT]ボタンがオフの時の音量です。

3. ディケイ - スロー

4. ディケイ - ファースト

パーカッションが減衰する速さを設定します。

スローは[FAST]ボタンがオフ、ファーストは[FAST]ボタンがオンの時の速さです。

設定範囲は1～9、Cで、値が増えるほど減衰時間が長くなり、Cでは減衰しません。

5. キーボード - タッチ

パーカッションの発音方法を設定します。

ON: レガートに演奏すると、2つ目以降のノートは発音しません(エンベロープがリセットされません)。

OF: レガートに演奏しても、ピアノのように全てのノートで発音します。

6. キーボード - ベロシティ

パーカッションの音量をベロシティに対応させます。

ON: 強く弾くと、大きい音量で発音します。

OF: 強く強さに関わらず一定音量で発音します。

ベロシティがONの場合は、OFよりも鍵盤を若干深く押した点で発音します。

7. キーボード - キートラック

パーカッションの音量をノートによって変えます。

ON: 高音のノートほど、音量を下げます。

OF: どのノートでも一定音量で発音します。

8. ドローバー - 1' キャンセル

パーカッションの使用中にUPPERパートの1'を消音します。

ON: 消音します。

OF: 消音しません。

9. ドローバー - レベル

パーカッションの使用中にUPPERドローバーの音量を下げます。

-3dB: 音量を下げます。

0dB: 音量を下げません。

MEMO: これらの画面のパラメータは、全てプリセットパラメータです。各コンビネーションプリセットに記憶されます。

tips タッチ

B-3/C-3に内蔵されているエンベロープジェネレータは1つだけで、上鍵盤を全て離鍵しないと再充電されませんでした。これは欠点のようですが、和音をラフに弾いた場合に、聞こえる音がバラつきづらいメリットもあります。

tips 1' キャンセル

B-3/C-3にはパーカッション専用の鍵盤接点がなく、代わりに1'の接点をパーカッション用に転用していました。これをシミュレートしています。

tips ドローバーレベル

B-3/C-3ではパーカッションを動作させると、ドローバーの音量はわずかに小さくなります。これをシミュレートしています。

この画面では、内蔵レスリーエフェクトと外部レスリースピーカーに関する設定を行います。

内蔵レスリーエフェクトは多くのパラメータがあり、様々な設定が可能ですが、各コンビネーションプリセットでバラバラな設定ができるわけではありません。

一連のパラメータをまとめて「キャビネット」と

いう単位で扱い、コンビネーションプリセット内ではそのキャビネット番号を選択して使用します。

この画面に来るには：

[MENU/EXIT]ボタンを押してメニューを表示させ、
[PAGE]ボタンでページCを選び、[3]LESLIEを押します。
または[LESLIE BREAK]、[LESLIE ON]、[LESLIE FAST]
ボタンのいずれかを押し続けます。

EXT. LESLIE CH 18 2or3		
MIC ANGLE DISTANCE 16 120° 17 0.6m		
BASS SLOW FAST LEV SPD 10 36 11 393 12 0 ▶		BASS RISE FALL BRAK TIME 13 7 14 8 15 9 ▶
HORN SLOW FAST LEV SPD 3 36 4 393 5 0 ▶		HORN RISE FALL BRAK TIME 6 1.2 7 1 8 1.2 ▶
HORN CHARACTER TYPE 9 FLAT		
CAB. NAME 147-Type 2		
LESLIE CABINET 1 1:147-Type		

●キャビネット番号

1. レスリーキャビネット

コンビネーションプリセットで使用するキャビネット番号を選びます。
設定範囲は1～8です。
レスリーパラメータが変更されると、左に「*」が表示されます。

●レスリーパラメータ

2. キャビネット名

キャビネット名を設定します。
[PARAM]ボタンでカーソルを移動し、[VALUE]ボタンで文字を選びます。
この画面ではテンポラリ（現在の値）が変わるだけで、確定操作はありません。
次節の「キャビネットを記憶させる」操作を行わないと、ここで付けた名前は記憶されません。

3. スロースピード - ホーン

10. スロースピード - バス

スロースピード時のローターの回転数を設定します。
設定範囲は0、24～48rpmで、0にすると回転しません。

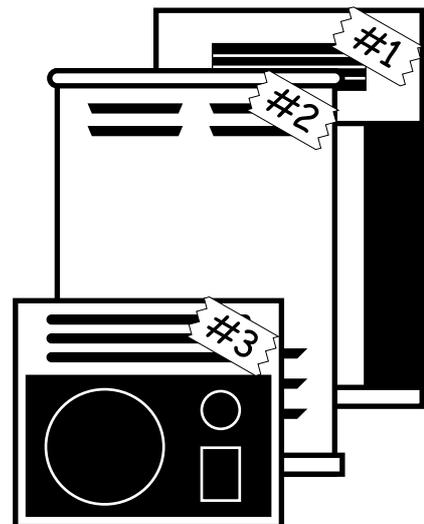
4. ファーストスピード - ホーン

11. ファーストスピード - バス

ファーストスピード時のローターの回転数を設定します。
設定範囲は0、375～435rpmで、0にすると回転しません。

tips キャビネット番号の概念

ひとつのキャビネットはレスリーパラメータによって作られた、(仮想の)レスリースピーカー1台に相当します。
このパラメータのみプリセットパラメータです。



5. ホーンレベル

12. バスレベル

各ローターの音量を設定します。
設定範囲は0~-12dBです。

6. ライズタイム - ホーン

13. ライズタイム - バス

スローまたはブレイクからファーストスピードにした場合に、ローターがファーストスピードに達するまでの時間を設定します。

設定範囲はホーンローターが0.2~5.0s、バスローターが0.5~12.5sです。

7. フォールタイム - ホーン

14. フォールタイム - バス

ファーストスピードからスロースピードにした場合に、ローターがスロースピードに達するまでの時間を設定します。

設定範囲はホーンローターが0.2~5.0s、バスローターが0.5~12.5sです。

8. ブレイクタイム - ホーン

15. ブレイクタイム - バス

ファーストスピードからブレイクにした場合、ローターが停止するまでの時間を設定します。

設定範囲はホーンローターが0.2~5.0s、バスローターが0.5~12.5sです。

9. ホーンキャラクター

ホーンローターの音質を設定します。

“FLAT”は平坦な音質、それ以外はそれぞれホーン特有の「癖」のある音質です。

16. マイク - アングル

仮想のレスリースピーカーに対し、どの位置に2本のマイクロフォンを設置したかを設定するパラメータです。

アングルは2本のマイクの開き具合を設定します。

設定範囲は0~180度です。値を増やすとステレオ感が増します。

17. マイク - ディスタンス

仮想のレスリースピーカーとマイクロフォンとの距離を設定します。

設定範囲は0.3~2.7mです。値を増やすと効果が薄くなります。

MEMO: 2~17のパラメータを操作した場合、設定値は次ページの記憶操作を行わないと電源を切ると消えてしまいます。

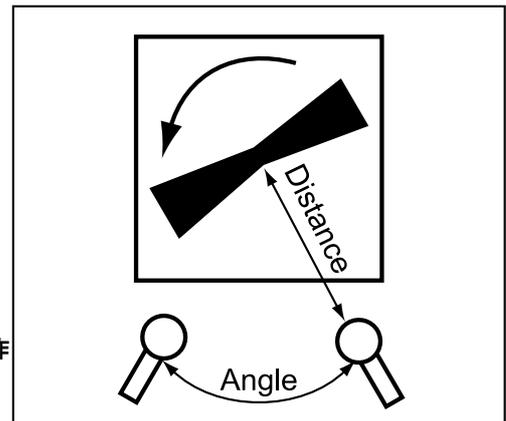
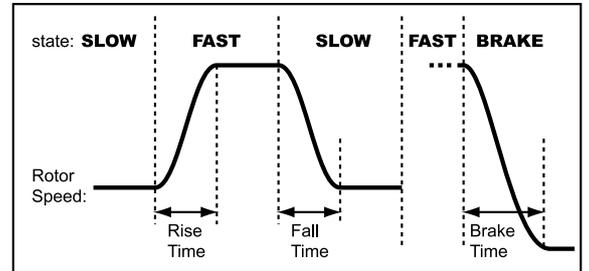
●外部レスリースピーカー

18. レスリーチャンネル

11ピン端子に接続したレスリースピーカーのチャンネルを設定します。

“1”は、いつでもローターチャンネルから音声が出力されます。

“2or3”は、[LESLIE]ボタンがオフ、[BRAKE]ボタンがオフの状態になるとステーションリーチャンネルに音声が出力され、それ以外ではローターチャンネルから音声が出力されます。



tips

代表的なレスリースピーカーのチャンネル

122XB: 1ch

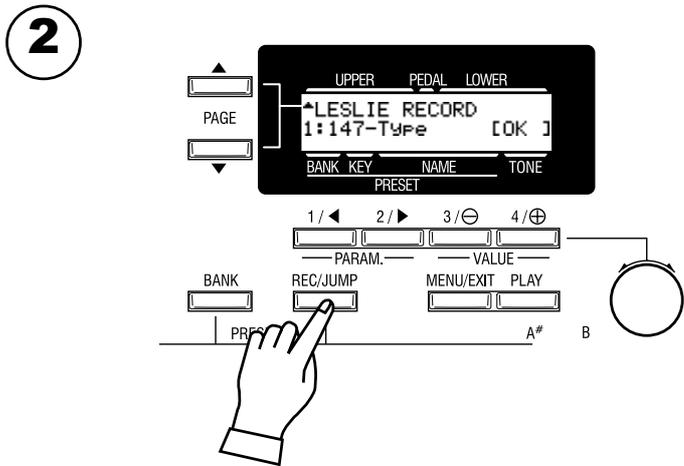
2101/2102:3ch

キャビネットを記憶させる

レスリーパラメータ（前項の2～17）は、キャビネット番号を決めて記憶させ、各コンビネーションプリセットで選択して使用します。

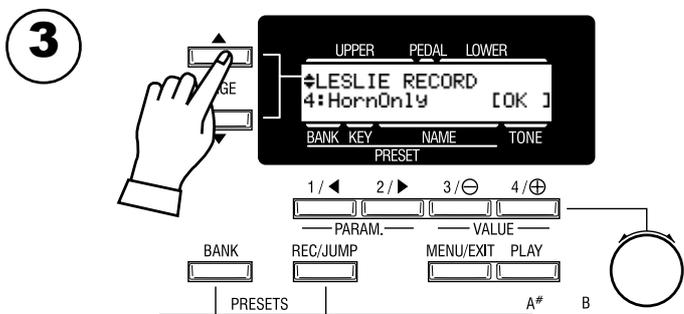


必要に応じキャビネット名を付けます。

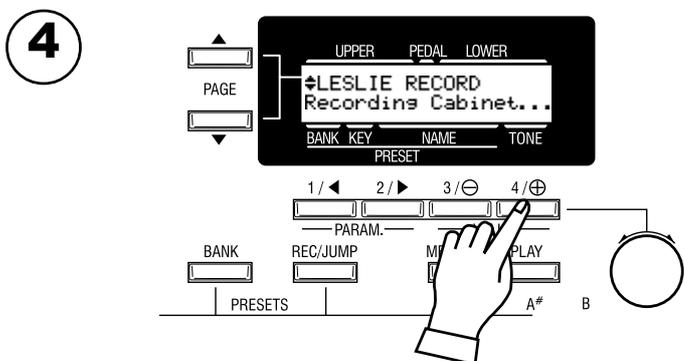


レスリーパラメータの設定画面で[REC/JUMP]ボタンを押します。

キャビネット選択画面が表示されます。



[PAGE]ボタンで記憶させるキャビネット番号を選びます。



[4]OK を押すと記憶されます。

記憶処理中は、図のように表示されます。

MEMO: 記憶させない場合は[MENU/EXIT]を押します。

この画面では、オーバードライブとビブラート/コーラスの各エフェクトに関する設定を行います。

この画面に来るには：

- [MENU/EXIT]ボタンを押してメニューを表示させ、[PAGE]ボタンでページCを選び、
- [1]OD/VIBボタンを押します。
- または、[TUBE AMP]ボタンをしばらく押し続けます。



●オーバードライブ

1. ドライブ

歪みを調節します。
値を増やすと、歪みが多くなります。
フロントパネルの[TUBE OVERDRIVE]つまみと連動しています。

2. ブレンド

歪み音域を設定します。
設定範囲は0～63で、バリューを増やすと高音が歪みやすくなります。逆にバリューを減らすと低音が歪みやすくなります。32で、高音と低音が同じ割合で歪みます。
MEMO: このパラメータはプリアンプ - タイプ(4)が”Dual1”又は”Dual2”の時に機能します。

3. エクスプレッション

エクスプレッションペダル操作で歪み量を変化させます。
EX→OD:
エクスプレッションペダルを操作すると、それに依じて音量だけでなく歪み量も変化します。
OD→EX:
エクスプレッションペダルの効果は音量変化だけで、歪み量は変化しません。

4. プリアンプ - タイプ

チューブアンプの回路を選びます。
Dual1:
帯域別に2つの回路を持つアンプで、低音域から高音域への分離が緩やかです。
Dual2:
帯域別に2つの回路を持つアンプで、低音域と高音域がはっきり分離しています。
Singl:
一般的なオーバードライブエフェクトと同じ、1回路のみのアンプです。全ての音域を1つの回路で処理します。

5. フェイズ

2つのチューブアンプ回路の位相を反転します。
ONで逆相、OFで正相になります。通常はONにしておきます。
MEMO: このパラメータはプリアンプ - タイプ(4)が”Dual1”又は”Dual2”の時に機能します。

6. クロスオーバー

2つのチューブアンプ回路の受け持つ帯域の分岐点を設定します。
設定範囲は、125～800Hzです。
MEMO: このパラメータはプリアンプ - タイプ(4)が”Dual1”又は”Dual2”の時に機能します。

●ビブラート/コーラス

7. ビブラート - レイト

ビブラート/コーラス効果の速さを設定します。
設定範囲は、6.10～7.25Hzです。
MEMO: これらの画面のパラメータはプリセットパラメータで、各コンビネーションプリセットに記憶されます。

EQUALIZ (イコライザー)

この画面では、イコライザーに関する設定を行います。

イコライザーは音質調整を行うエフェクトです。本機に搭載されているイコライザーは3バンド構成で、低音から高音までを3つの帯域に分けて、それぞれを加減することができます。

この画面に来るには：

- [MENU/EXIT]ボタンを押してメニューを表示させ、[PAGE]ボタンでページCを選び、
- [2]EQUALIZEボタンを押します。
- または、[TONE TYPE]ボタンをしばらく押し続けます。



1. ゲイン - バス
2. ゲイン - ミドル
4. ゲイン - トレブル

それぞれ低音域、中音域、高音域をブースト/カットします。
設定範囲は-9~+9で、0にするとニュートラルになります。

MEMO: [TONE TYPE]ボタンを押し続けることによっても、この画面へ来られます。

3. フレクシー - ミドル

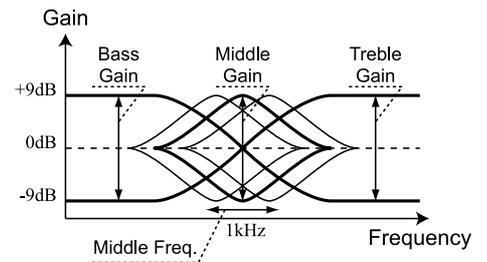
ゲイン - ミドル(2)で変化させる中心周波数を設定します。
設定範囲は480Hz~2.9kHzです。

5. トーン - アサイン

[TONE]つまみに割り当てる機能を設定します。

各ゲインのパラメータであるバス、ミドル、トレブルのうちどれか1つを割り当てて、演奏しながら変更することができます。

MEMO: これらの画面のパラメータはプリセットパラメータで、各コンビネーションプリセットに記憶されます。



tips ミドルの効果的な使用法

レスリースピーカーのホーンローターの特性は平坦ではなく、耳につきやすい1~3kHz付近にピークがあります。この特性により、バンドアンサンブルの中においても「通りの良い」サウンドになります。

本機をレスリースピーカーを使わずにラインアウトを使用する場合は、イコライザーのミドルフレクシーを2kHz付近に設定し、ゲインを+方向に設定することで同様の効果が得られます。

tips プリセットパラメータ

イコライザーは音づくりのパラメータの一部として積極的に利用できるよう、プリセットパラメータになっています。しかしイコライザーを演奏する会場に合わせた音質補正として利用したい場合には不都合です。このような場合は、PRESET (プリセット) 機能画面のP.LOAD RV/EQをオフにすることで、プリセットを呼び出してもイコライザーの値が変わらなくなります (P. 56)。

この画面では、リバーブエフェクトに関する設定を行います。

この画面に来るには：

- [MENU/EXIT]ボタンを押してメニューを表示させ、[PAGE]ボタンでページCを選び、
- [4]REVERB ボタンを押します。
- または、[REVERB]ボタンをしばらく押し続けます。



1. デプス

リバーブの深さ(=音量)を設定します。

設定範囲は0～15で、バリューを増やすと、演奏者が遠くなったような印象になります。

2. タイプ

リバーブの種類を設定します。

Room 1: 室内(短)

Room 2: 室内(長)

Live: ライブハウス

Hall 1: コンサートホール(長)

Hall 2: コンサートホール(短)

Church: 教会

Plate: 鉄板リバーブ

Delay: ディレイ

PanDly: パンニングディレイ

RevDly: リバーブ+ディレイ

3. リバーブ・タイム

タイプ(2)がRoom 1～Plateの場合に、リバーブ音が消えるまでの時間を設定します。

設定範囲は0～31で、バリューを増やすと、空間が広がったような印象になります。

4. ディレイ・タイム

タイプ(2)がDelay、PanDly、RevDlyの場合に、ディレイ音の時間を設定します。

設定範囲は4.7～1000msで、バリューを増やすと、ディレイ音がより遅れるようになります。

5. ディレイ・フィードバック

タイプ(2)がDelay、PanDly、RevDlyの場合に、フィードバック(ディレイ音が何回か繰り返される)量を設定します。

設定範囲は0～96%で、バリューを増やすとフィードバック量が増えます。

MEMO: これらの画面のパラメータはプリセットパラメータで、各コンビネーションプリセットに記憶されます。

tips プリセットパラメータ

リバーブは音づくりのパラメータの一部として積極的に利用できるよう、プリセットパラメータになっています。しかしリバーブを演奏する会場に合わせた音場補正として利用したい場合には不都合です。このような場合は、PRESET(プリセット)機能画面のP.LOAD RV/EQをオフにすることで、プリセットを呼び出してもリバーブのオン/オフ及び値が変わらなくなります(P.56)。

DEFAULT (デフォルト)

この画面では、本機の一部または全てを工場出荷時の状態に戻します。

この画面に来るには：

[MENU/EXIT]ボタンを押してメニューを表示させ、[PAGE]ボタンでページEを選び、
[1]DEFAULT ボタンを押します。

DEFAULT ADJ. PRESET ▶ ① [OK]	DEFAULT PRESETS ② ▶ [OK]	DEFAULT GLOBAL ③ ▶ [OK]
DEFAULT LESLIE ④ ▶ [OK]	DEFAULT TONE-WHEEL ⑤ [OK]	DEFAULT ALL ⑥ [OK]

各パラメータの初期化を行うには、[PARAM]ボタンでパラメータを選び、[4]OK ボタンを押します。

1. アジャストプリセット

プリセットキー[B]の内容を初期化します。ドローバーコントロールモードが“UPPER A#/B”の場合は、[A#]の内容も初期化されます。

新しくセッティングを作り始める前に使用することで、白紙の状態から作業を始められます。

2. プリセット

全コンビネーションプリセットの内容を初期化します。

3. グローバル

マスターチューンやフットスイッチの割り当てといった、グローバルパラメータを初期化します。

4. レスリー

全キャビネットの内容を初期化します。

5. トーンホイール

トーンホイールの調整を初期化します。

6. オール

本機の全パラメータを初期化します。

何らかの原因で本機のシステムが不安定になった場合、デフォルトオールを行うことで症状が解消されることがあります。

MEMO: 全パラメータの初期化は[REC/JUMP]ボタンを押しながら電源を入れることでも行えます。

この画面では本機のシステムパラメータの設定と、情報の表示をします。

この画面に来るには：

[MENU/EXIT]ボタンを押してメニューを表示させ、[PAGE]ボタンでページEを選び、
[2]SYSTEMボタンを押します。

VERSION MAIN 0.000	VERSION INFORMATION 0.000	VERSION KEY SCAN 0.000
NOISE RETURN GATE OPEN		

1. ノイズゲート - リターン

本機のエフェクトループの、リターン端子に装備されているノイズゲートの動作を切り替えます。

- ・ THRESHOLD 1,
・ THRESHOLD 2:
RETURN 端子に入力される音量にしたがって音声出力がオン/オフされます。
THRESHOLD2は、より小音量で音声出力がオン/オフされます。
- ・ OPEN:
常に音声出力は「オン」です。

2. バージョン - メインプログラム

3. バージョン - 音色インフォメーション

4. バージョン - キースキャンプログラム

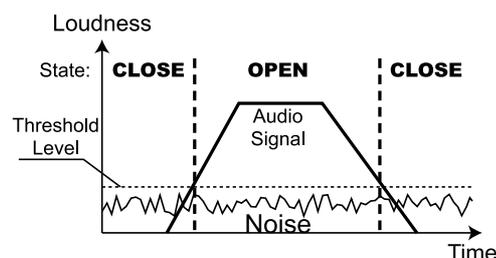
これらは本機に内蔵されている各ソフトウェアのバージョンです。
表示のみで、設定する項目ではありません。

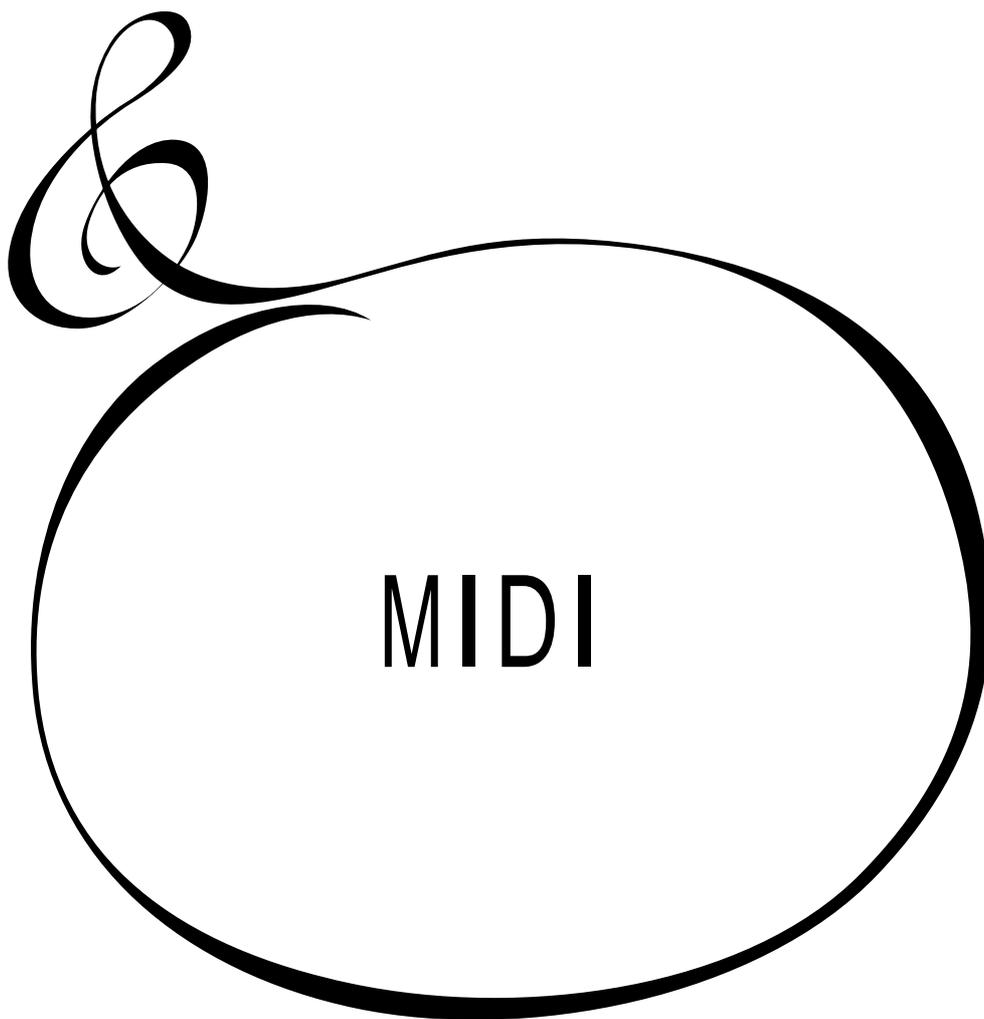
tips ノイズゲート

ノイズゲートは非演奏時の雑音を消すための仕組みです。入力された音声信号がある一定以下の音量（これをスレッシュホルドレベルと呼びます）になると自動的に「門を閉じ」て消音し、雑音を防ぎます。

しかし時にはこれが問題になる場合があります。それはゆっくりとしたアタックやリリースを持つ音声信号が入力された場合です。具体的にはスローギアやディレイといったエフェクターが本機のエフェクトループに接続された場合で、突然音が出たり、いきなり消えたりしてしまうかもしれません。

このような場合には、やむを得ず常に「門を開い」て、全ての信号が通ることができるようにします。





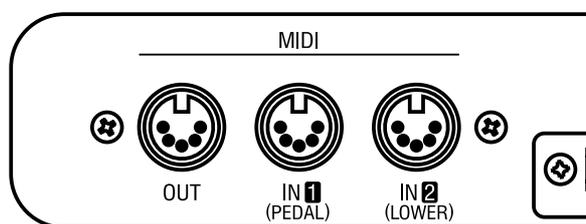
MIDI (ミディ) とは？

MIDIは、Musical Instruments Digital Interface の略で、電子楽器やシーケンサーといった機器どうして情報をやりとりするための規格です。世界統一規格のため、メーカーが異なってもそれぞれを接続することができます。

MIDIでは主に「鍵盤を押した(離した)」といった演奏情報や、「音色を切り替えた」、「ダンパー・ペダルを踏んだ(離した)」といったコントロール情報が交換されます。

- 「MIDI」は社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。

本機の MIDI 端子



MIDI OUT

本機の演奏情報を送信します。

MIDI IN 1(PEDAL)

MIDI IN 2(LOWER)

MIDI 信号の入力端子です。工場出荷時には各 MIDI IN 端子は同じ働きをします。

MEMO: それぞれの MIDI IN 端子を LOWER 及び PEDAL パート専用の入力に設定できます (P. 86)。

本機の MIDI 端子でできること

本機では、主に MIDI 端子の用途として次のようなことを想定しています。

- ・ 鍵盤を拡張し、フル・マニュアル (3 段) オルガンとして使用する
- ・ 演奏を外部のシーケンサー/コンピュータに記録・再生する。
- ・ 外部の音源 (シンセサイザーやサンプラーなど) をコントロールする。

また、これらの設定が簡単にできるよう、本機には「MIDI テンプレート」という機能が用意されています。

MIDI チャンネル

MIDIには1～16までの「MIDIチャンネル」があります。これにより1本のMIDIケーブルで演奏情報を16のチャンネルに分けて送ることができます。

大切なのは送信側と受信側のチャンネルを合わせることで、これが異なっているとたとえMIDIケーブルが繋がっていても相手の「言っている」ことが「聞こえ」ません。

主な MIDI メッセージ

MIDI情報は16のチャンネルごとに扱うチャンネル・メッセージと全てのチャンネル共通に扱うシステム・メッセージとに大きく分かれます。本機が送受信する主なMIDIメッセージは以下の通りです。詳しくはMIDIインプリメンテーション・チャートをご覧ください。

チャンネル・メッセージ

●ノートオン

どの鍵盤（ノートナンバー）を、どの速さ（ベロシティ）で、弾いた（ノートオン）かの3つのデータをまとめたものです。

本機の音源はパーカッションのみベロシティを受信します。ドローバーはベロシティの強弱に関わらず一定の音量で発音します。

●プログラムチェンジ

キーボードチャンネル：

本機のコンビネーションプリセットの切り替えを行います。

エクスターナルゾーン：

外部の音源の音色を切り替えます。

●コントロールチェンジ

エクスプレッション、フットスイッチ、モジュレーションなどの動作に応じて送受信されます。

システム・メッセージ

●システムエクスクルーシブ・メッセージ

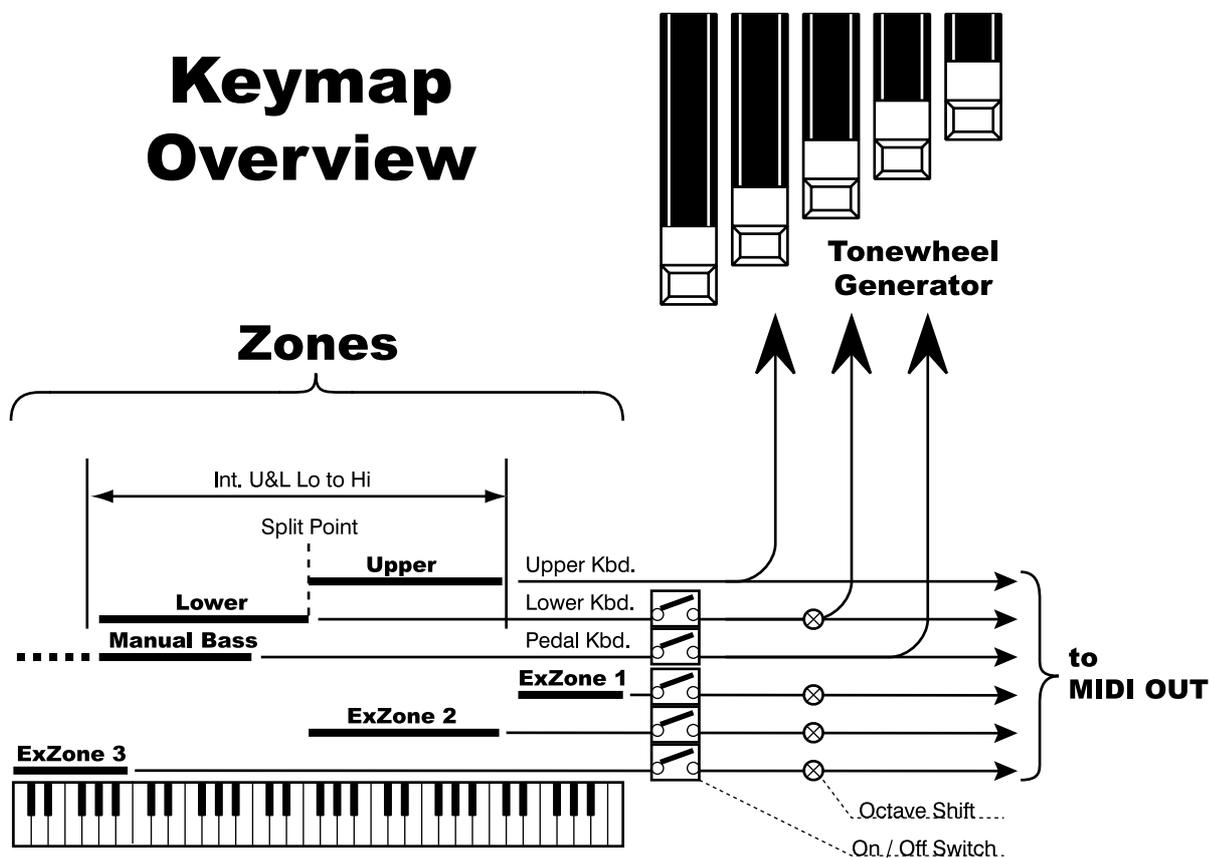
このメッセージは同一機種または同一メーカーの互換性を持つ機器どうして、固有のデータを送受信するためのものです。

本機ではカレント・ダンプ（現在の設定をまとめて送信する）を行い、外部のシーケンサーに記録することができます。

本機の MIDI 構成

本機の鍵盤は 1 段だけですが、音源は UPPER/LOWER/PEDAL の 3 パートがあり、また外部機器をコントロールするための「エクスターナルゾーン」を 3 つ備えています。

そのため本機には 6 つの MIDI チャンネルがあります。



●キーボードチャンネル

UPPER

UPPER パートの演奏情報とコントロール、コンビネーションプリセットの切り替え、エクスプレッションを送受信します。

LOWER

LOWER パートの演奏情報とコントロールの他、LOWER パートのみの独立したプリセットの切り替えの送受信を行います。

PEDAL

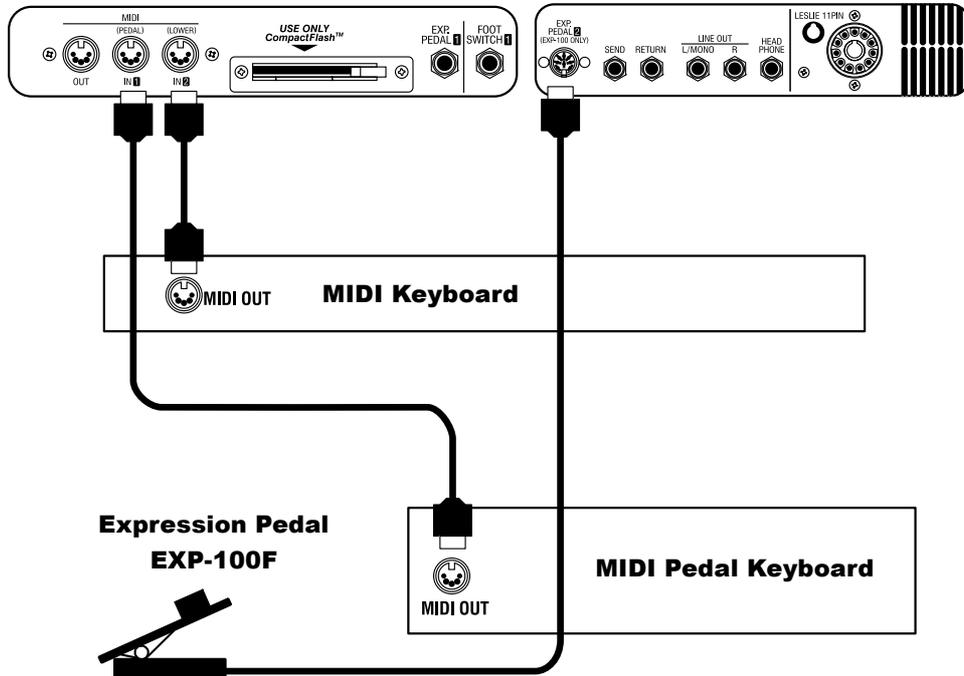
PEDAL パートの演奏情報とコントロールを送受信します。

●エクスターナルゾーンチャンネル

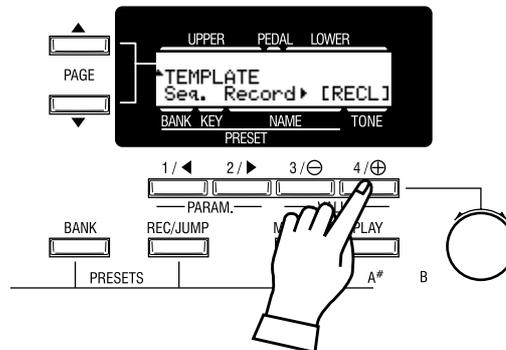
EX. ZONE1, EX. ZONE2, EX. ZONE3

本機を簡易なマスター・キーボードとして使い、それぞれ外部の MIDI 機器をコントロールするためのチャンネルで、演奏には本体鍵盤のある音域を割り当てて使います。各コンビネーションプリセット毎に異なる設定が可能です。

本機にMIDI キーボードを接続し、フル・マニュアル（3段鍵盤）で演奏を行う方法です。



1. 上図に従って接続を行ってください。
2. MIDI テンプレートで "Seq. Record" を呼び出します。



3. エクスプレッションペダルを使用する場合は、接続したエクスプレッションペダルに合わせて、"EXPRESSION SOURCE" を設定します (P. 60)。

本機のMIDI IN(LOWER)端子に接続したMIDI キーボード（以下LOWER キーボード）を弾くと LOWER パートが発音し、MIDI IN(PEDAL) 端子に接続したMIDI キーボードを弾くと PEDAL パートが発音します。

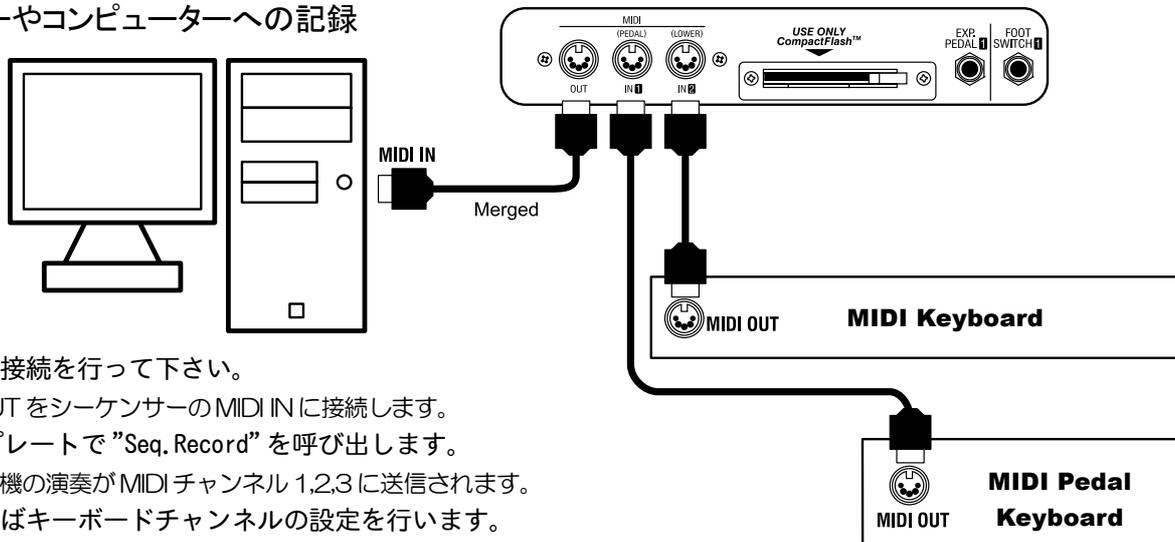
また LOWER キーボードでプログラムチェンジを送信すると、LOWER パートのプリセットが切り替えられます。

マニュアルベース機能は本機の鍵盤ではなく、LOWER キーボードで動作します。

演奏を記録／再生する

本機にシーケンサー - やコンピュータ - を接続し、演奏を記録／再生する方法です。

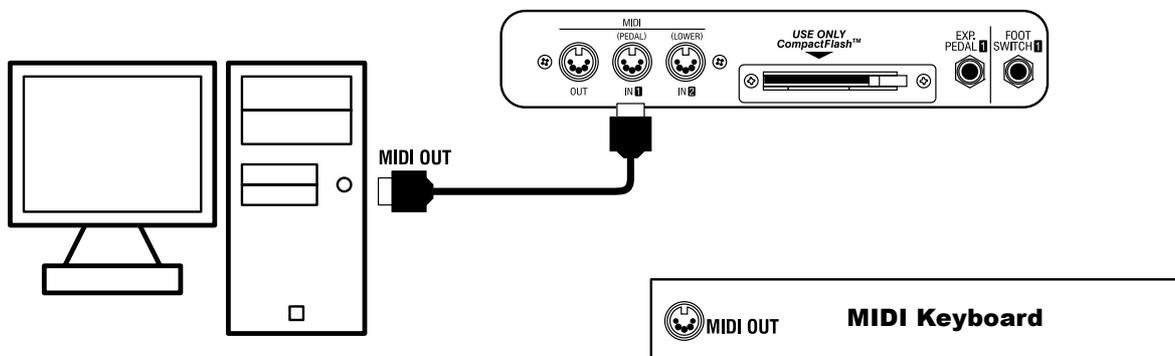
●シーケンサーやコンピュータへの記録



1. 図のように接続を行って下さい。
本機のMIDI OUT をシーケンサーのMIDI INに接続します。
2. MIDI テンプレートで "Seq. Record" を呼び出します。
これにより、本機の演奏がMIDIチャンネル 1,2,3 に送信されます。
3. 必要であればキーボードチャンネルの設定を行います。
4. シーケンサーの記録を開始します。
5. 必要であればメモリーダンプを送信します。
6. 演奏を始めます。

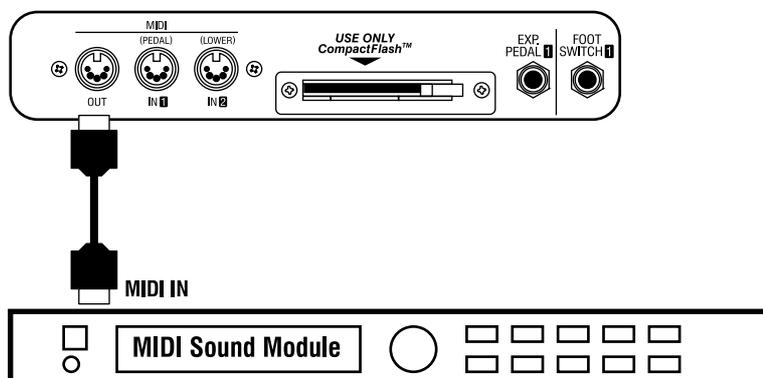
MEMO: 本機のMIDI IN端子にMIDI キーボードが接続されている場合、それらを演奏した情報もそれぞれのMIDI チャンネルに変換されてMIDI OUT端子から送信されます。

●シーケンサーやコンピュータからの再生



1. 図のように接続を行って下さい。
MIDI キーボードが接続されていればそれを外し、シーケンサーのMIDI OUT を本機のMIDI INに接続します。
2. MIDI テンプレートで "Seq. Play" を呼び出します。
これにより、MIDIチャンネル 1,2,3 で受信したメッセージがそれぞれのパートへ割り振られます。
3. 必要であればキーボードチャンネルの設定を行います。
4. シーケンサーの再生を開始します。
記録可能なのは内蔵音源の演奏のみで、エクスターナルゾーンのコントロールは再現されません。

本機の鍵盤演奏で、外部音源を3ゾーンまでコントロールすることができます。



1. 図のように接続を行って下さい。
本機のMIDI OUTをコントロールしたい機器のMIDI INに接続します。
2. MIDI テンプレート”Use EX Zone”を呼び出します。
これにより、キーボードチャンネルの送信は停止し、エクスターナルゾーンの情報のみMIDI OUTから送信されます。
3. ゾーンの設定を行い、必要であればコンビネーションプリセットに記憶させます。
ゾーンの設定方法は次ページ、ZONE（ゾーン）をご覧ください。

発音点のご注意

エクスターナルゾーンはドローバー音色よりも鍵盤を若干深く押した点で発音します。

これは、エクスターナルゾーンにペロシティ情報を出力するためです。

ZONES (ゾーン)

外部音源のコントロールを行う場合、本体の鍵盤のある音域をそのために使用します。

それぞれを「エクスターナルゾーン」と呼びます。また、同時に本体内蔵の音源の発音音域（これを「インターナルゾーン」と呼びます）も設定し、それぞれを1段の鍵盤上で使い分けることができます。

この画面に来るには：

[MENU/EXIT]ボタンを押してメニューを表示させ、
[PAGE]ボタンでページDを選び、[1]ZONESを押します。

EX3 CH LO-MAP-HI ZONE 3 1C 2B	EX3 M-BNK-L PROG PROG 0 0 1	EX3 OCT VOL PAN VEL NOTE +0 100 -C- OF
EX2 CH LO-MAP-HI ZONE 2 1C 2B	EX2 M-BNK-L PROG PROG 0 0 1	EX2 OCT VOL PAN VEL NOTE +0 100 -C- 2
EX1 CH LO-MAP-HI ZONE 6 1 7 3C 8 6C	EX1 M-BNK-L PROG PROG 9 0 10 0 11 1	EX1 OCT VOL PAN VEL NOTE +0 100 14 -C- 15 2
INT PED LO-L&U-HI ZONE 1 3C 2 1C 3 6C	INT POINT L OCT SPLIT 4 3C 5 +1	

●インターナルゾーン

1. ペダル

2. ロワー&アパー - ロー

3. ロワー&アパー - ハイ

本体鍵盤で内蔵音源の各パートを演奏する音域を設定します。

下限のノートをLO、上限のノートをHIで設定します。また、マニュアルベース機能の上限はPEDで設定します。

4. スプリットポイント

スプリット機能を使用した場合に、LOWERとUPPERのパートを本体鍵盤のどこで分断するかを設定します。

設定値はLOWERパートで使用する最も高いノートです。

MEMO: この画面には、[SPLIT]ボタンを押し続けても来られません。

MEMO: 1～4の設定は[VALUE]の他、本体鍵盤の希望するノートを押しながら[REC/JUMP]ボタンを押すことでも行えます。

5. ロワーオクターブ

スプリットされたLOWERパートの音程をオクターブ単位で設定します。

スプリット機能を使用した場合、LOWERパートの音程が低すぎて和音演奏に向かない場合があります。この場合、ローワーオクターブを上げることで和音演奏に適した音程まで上昇させることができます。

●エクスターナルゾーン

6. MIDI チャンネル

それぞれのエクスターナルゾーンへの送信MIDIチャンネルを選びます。

範囲は1～16、OFが選べ、OFではこのゾーンへの送信が行われません。

7. マップ - ロー

8. マップ - ハイ

本体鍵盤でこのゾーンを演奏する音域を設定します。

下限のノートをLO、上限のノートをHIで設定します。

MEMO: 7～8の設定は[VALUE]の他、本体鍵盤の希望するノートを押しながら[REC/JUMP]ボタンを押すことでも行えます。

9. プログラム - バンク MSB

10. プログラム - バンク LSB

11. プログラム - バンクプログラムチェンジ

このゾーンへ送信するバンクセレクトとプログラムチェンジを設定します。

一般的にシンセサイザーやサンプラーの音色切替はバンクセレクトとプログラムチェンジを使って行います。バンクセレクトを受信しないモデルも存在しますし、プログラムチェンジの受信範囲もさまざまです。

バンクMSBとバンクLSBは0～127、プログラムチェンジは1～128が選べます。

▼EX3 MIN-MAX CC# EXP. ◀ 40 127 11:EXP ▶	▼EX3 BND DMP MOD MSGs ◀ON 1T ON
◆EX2 MIN-MAX CC# EXP. ◀ 40 127 11:EXP ▶	◆EX2 BND DMP MOD MSGs ◀ON 1T ON
◆EX1 MIN-MAX CC# EXP. 1640 1727 18:EXP ▶	◆EX1 BND DMP MOD MSGs 19ON 201T 21ON

12. ノート - オクターブ

このゾーンへ送信するオクターブを移動します。

マップロー/ハイで音域をやりくりした結果、出音が望みの音域とは異なる場合、送信される音程を演奏したキーに対してオクターブ単位で設定することができます。

13. ノート - ボリューム

このゾーンのボリューム（コントロールチェンジ#7）を設定します。

但し 18. CC#が“7:VOL”になっている場合、この設定値は無効です。

14. ノート - パン

このゾーンのパン（コントロールチェンジ#10）を設定します。

15. ノート - ベロシティ

このゾーンへ送信するベロシティカーブを設定します。

設定範囲はOF, 1~4で、OFではベロシティが100に固定され、1~4は値が増えていくに従って、軽く鍵盤を押しても強いベロシティが送信されるようになります。

16. エクスプレッション - ミニマム

17. エクスプレッション - マキシマム

このゾーンへ送信されるエクスプレッションを「圧縮」する範囲を設定します。

本機にエクスプレッションペダルを接続した場合、電子オルガンではエクスプレッションペダルをいっばいに戻す、つまり「ゼロ」にしても多少音が出るのが一般的です。ところがGM音源などでは同じ設定では音が出なくなります。このバランスをとるためのパラメータです。

MINは0~63、MAXは64~127の範囲が選べます。

18. エクスプレッション - コントロールナンバー

エクスプレッションペダルのコントロールナンバーを設定します。

接続する機器によって、音量調節の方法は様々です。このパラメータで接続される機器の音量がうまくコントロールできるナンバーに設定します。

7:VOL, 11:EXPが選べます。

19. メッセージ - ピッチベンド

20. メッセージ - ダンパー

21. メッセージ - モジュレーション

それぞれ、このゾーンに対してコントロール情報を送信するかどうかを設定します。

例えばゾーンを2つ使い、1つのキーを押ただけでそれぞれピアノとサク스가鳴るような設定をします。ピアノにはダンパーが効果的ですが、サクスには不自然です。またピッチベンドはサクスにはふさわしいですがピアノでは不要です。そこで、それぞれのゾーンへ送信するメッセージを制限します。

ONでメッセージを送信し、OFでは送信しません。

また、ダンパーの送信にはどのフットスイッチを使用するかを選択します。

OF:

ダンパー情報を送信しません。

1T, 1R, 2:

それぞれ、フットスイッチ1のチップ、リング、EXP-100F 付属のフットスイッチを使用してダンパー情報を送信します。

MEMO: この画面のパラメータは全てプリセットパラメータです。コンビネーションプリセットに記憶させることが出来ます。プリセットパラメータの詳細は巻末 Appendix をご覧下さい。

MIDI に関する基本的な設定を行う画面です。

この画面に来るには：

[MENU] ボタンを押してメニューを表示させ、[PAGE] ボタンでページ D を選び、[2] MIDI ボタンを押します。

↙CH UPPER LOWER PEDL ⑩1 ⑪2 ⑫3	↙MAST LOCAL NRPN ③ON ④ON	↙MAST PROG REGI WHEL Tx&Rx⑤ON ⑥ON ⑦ON
↙MAST MIDI IN ②LOWER/PEDAL	↙MAST LOCAL NRPN ③ON ④ON	↙MAST PROG REGI WHEL Tx&Rx⑤ON ⑥ON ⑦ON
①▲TEMPLATE Seq. Record [RECL]	▲TEMPLATE Seq. Play [RECL]	▲TEMPLATE Use EX Zone [RECL]

● MIDI テンプレート

1. MIDI テンプレート

用途別の設定を簡単に行うための画面です。

[PARAM] ボタンで用途を選び、[4] RECL ボタンを押すことで典型的な設定が呼び出されます。

tips MIDI テンプレートの詳細

それぞれの MIDI テンプレートを呼び出した際の詳細内容については、巻末 Appendix をご参照ください。

● マスター

2. MIDI IN

2つの MIDI IN 端子のふるまいを設定します。

LOWER/PEDAL：

- それぞれの MIDI IN 端子はチャンネルに関わらず LOWER パートと PEDAL パート専用の受信端子として動作します（10、11、12 のチャンネル設定は無視されます）。
- マニュアルベース機能を MIDI IN (LOWER) 端子に割り当てます。
- スプリット機能は無効になります（[SPLIT] ボタンの状態を無視します）。
- それぞれの MIDI IN 端子からの入力は 11、12 の各キーボードチャンネルで再送信されます。

IN1/IN2：

- それぞれ指定されたチャンネルに従った動作を行います。
- マニュアルベース機能を本機の鍵盤に割り当てます。
- 受信した PEDAL パートのノートは、設定に関わらず常にポリフォニックで発音します。

3. ローカル

ローカル（機器内の）コントロールをオンオフします。

ON にすると本体の鍵盤と音源とは接続された状態になります。

OF にすると本体の鍵盤と音源とが切り離され、鍵盤を弾いても発音しません。本機をあたかも MIDI キーボードと音源モジュールの 2 台の別の機器のように扱うことができます。

4. NRPN

NRPN (Non-Registered Parameter Number) の送受信をオンオフします。

本機ではドローバーフォールドバックやレスリーオンといったメッセージの送受信をすることがどうかをオンオフします。

ON にすると送受信を行い、OF では行いません。

5. プログラムチェンジ

キーボードチャンネルでのプログラムチェンジ/バンクセレクト送受信をオンオフします。

本機ではコンビネーションプリセットの切替をプログラムチェンジとバンクセレクトを使用して行っています。

ON にすると送受信を行い、OF では行いません。



6. レジストレーション

キーボードチャンネルでのドローバーレジストレーション送受信をオンオフします。ドローバーの各フィートを動かした情報を送受信するかどうかを選びます。ONにすると送受信を行い、OFでは行いません。

7. ホイール

キーボードチャンネルでのピッチバンド情報とモジュレーション情報の送受信をオンオフします。ONにすると送受信を行い、OFでは行いません。

8. レシーブダンプ

メモリーダンプを受信するかどうかをオンオフします。本機では現在の設定をまとめてメモリーダンプとしてシステムエクスクルーシブメッセージで送受信できますが、例えばシーケンサーの再生によって本機の設定を変えられなくない場合はオフにしておきます。ONにすると受信を行い、OFでは行いません。

9. センドダンプ

メモリーダンプを送信します。この画面で[4]SEND ボタンを押すと、テンポラリ（現在の設定情報）をまとめてMIDI OUT 端子から送信されます。シーケンサーへ演奏を記録する前にこれを行ってテンポラリを記録しておけば、後日再生したときの設定の「食い違い」を防ぐことができます。

●キーボードチャンネル

10. UPPER

11. LOWER

12. PEDAL

それぞれのパートをどのMIDIチャンネルで送受信するかを設定します。1～16,OFが選べ、OFでは送受信を行いません。

MIDI信号の混乱を防ぐため、エクスターナルゾーンを含めそれぞれのMIDIチャンネルが重複しないように設定してください。

MEMO: この画面の設定はコンビネーションプリセットには保存されません。全てのプリセットで共通です。

tips メモリーダンプの内容

テンポラリ（現在の状態）の、プリセットパラメータ、グローバルパラメータ及びシステムパラメータが送受信されます。

各コンビネーションプリセットの内容や、各レスリーキャビネットの内容は送受信されません。これらの保存にはCFカードを使用します。

tips パニック機能

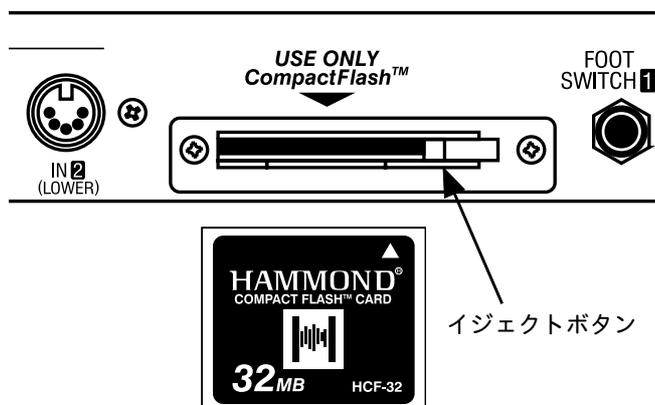
MIDIシステムに問題が発生した場合、音の鳴りっ放しが起こることがあります。このような場合には、[BANK]ボタンと[REC/JUMP]ボタンを同時に押すことによって「オールノートオフ」と「リセットオールコントローラー」を送信することが出来ます。これを「パニック機能」と呼びます。



設定を保存する

設定を保存する

本機は各パラメータの設定をまとめて、コンパクトフラッシュカード（以下CFカード）に保存することができます。



使用できるCFカード

CFカードは当社推奨品HCF-32をお使いください。その他使用できる市販品についてはお問い合わせください。URL: <http://www.suzuki-music.co.jp>

CFカードスロット

1. CFカードの挿入はカードのラベル表示を参考に、正しい方向に入れてください。
2. CFカードを取り出すには、スロット右側のイジェクトボタンを起こし、押してください。
3. 初期化中やセットアップ操作中は、CFカードを取り出したり、電源を切ったりしないでください。

保存される内容と容量

CFカードに保存される内容は、

- ・ コンビネーションプリセット
- ・ グローバルパラメータ
- ・ カスタムトーンホイール
- ・ レスリーキャビネット
- ・ アジャスト・プリセット[A#]及び[B]キー
- ・ テンポラリ

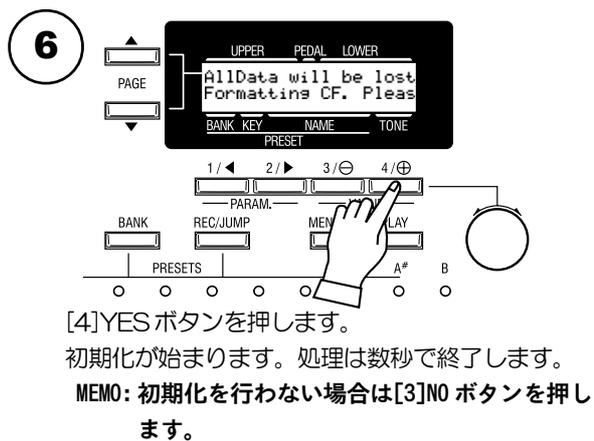
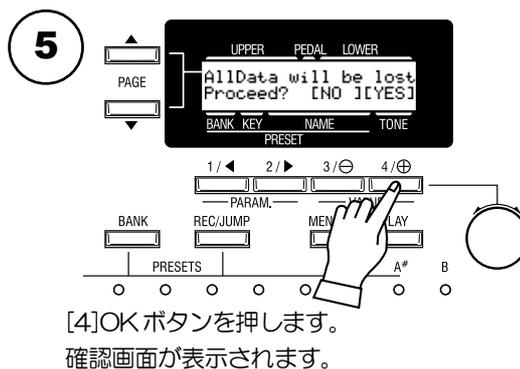
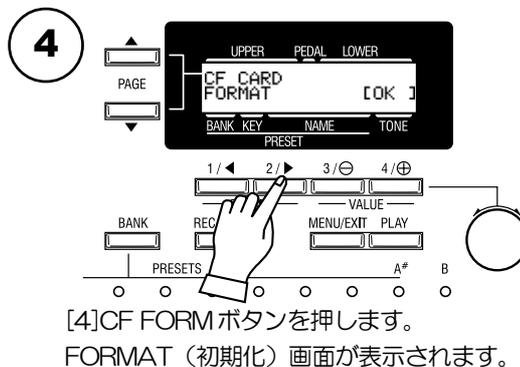
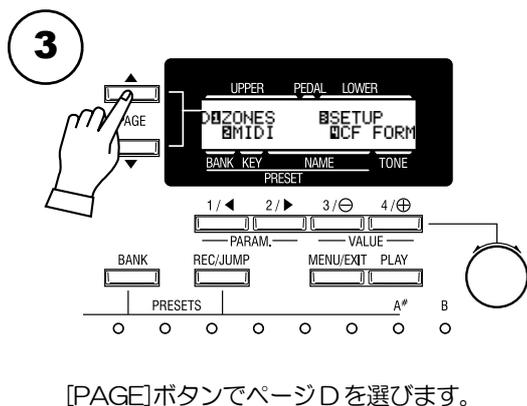
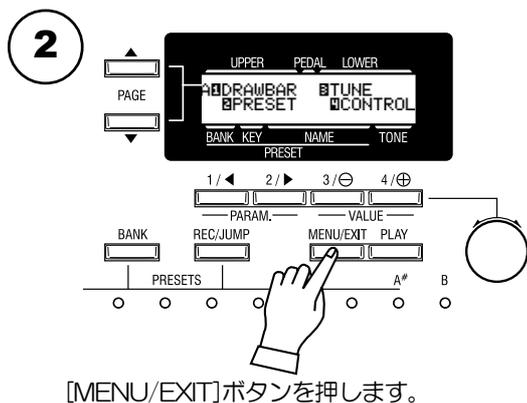
です。

また、これらをまとめて「セットアップ」という単位で保存／読み出しを行います。セットアップ1つの容量は約28キロバイトです。

CF カードを初期化する

買ってきたばかりのCFカードは「初期化」という操作を行う必要があります。以下の手順に従って初期化を行ってください。

初期化を行うとCFカード内の全ての情報が消去されます。



SETUP (セッアップ) を操作する

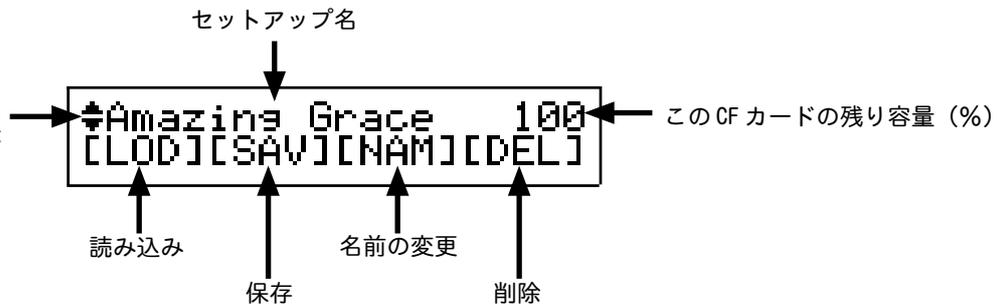
CF カードへのセッアップの保存や読み出しは SETUP (セッアップ) 画面で行います。この画面では CF カードの初期化を除く全ての操作が行えます。

この画面へ来るには :

[MENU/EXIT] ボタンを押してメニューを表示させ、[PAGE] ボタンでページ D を選び、
[3] SETUP ボタンを押します。

画面の見かた

これよりも上(または下)にもセッアップがあることを表示します。



セッアップを保存する

1

CF カードが正しく挿入されていることを確認します。

2

```

Amazing Grace 100
[LOD][SAV][NAM][DEL]
  
```

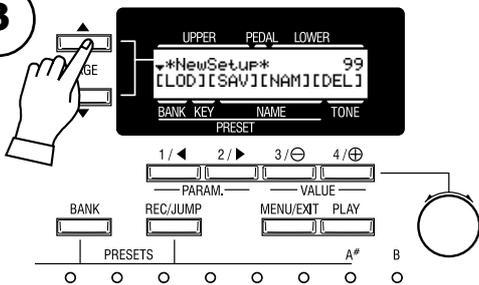
セッアップ画面へ来ます。

この表示は？

CF is not ready

CF カードが正しく挿入されていません。

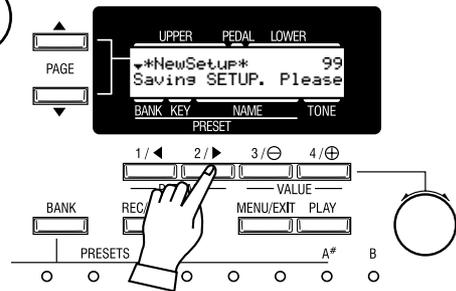
3



[PAGE] ボタンでセッアップ名 "NewSetup" を選びます。

MEMO: "NewSetup" は新規保存を意味します。既存のセッアップ名を選ぶと、それが消去され上書き保存されます。

4



[2] SAV ボタンを押します。
保存が行われます。

5

```

Setup01 98
[LOD][SAV][NAM][DEL]
  
```

保存されたセッアップには仮の名前 "SetupXX" が自動的に付きます。

セットアップ名を変更する

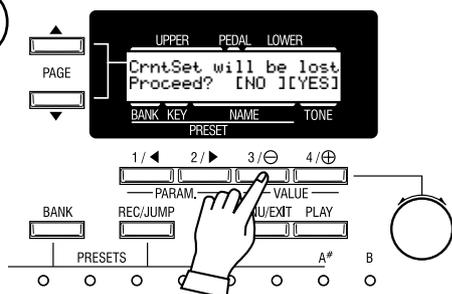
1

```

WantToRename 98
[LOD][SAV][NAM][DEL]
  
```

名前を変更したいセットアップを選びます。

2



[3]NAMボタンを押します。

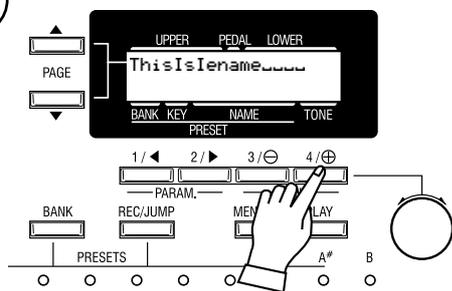
この表示は？

```
CrntSet will be lost. Proceed?
```

セットアップ名を変更すると、それまで本体に記憶されていたセットアップは変更しようとしているものに書き換えられてしまいます。もしも現在のセットアップを失いたくない場合は、[3]NOボタンを押し、“NewSetup”としてセットアップを保存してください。

[4]YESボタンを押すと、セットアップが読み込まれたうえで、セットアップ名入力画面が表示されます。

3



セットアップ名入力画面へ来ました。

4

新しいセットアップ名を入力します。

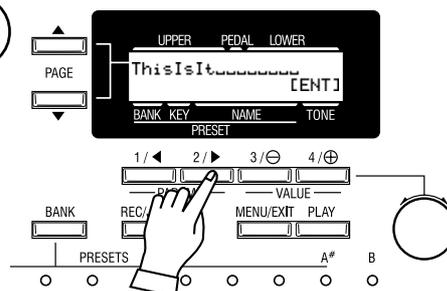
[PARAM]ボタン

カーソルを移動します。
長さは16文字までです。

[VALUE]ボタン

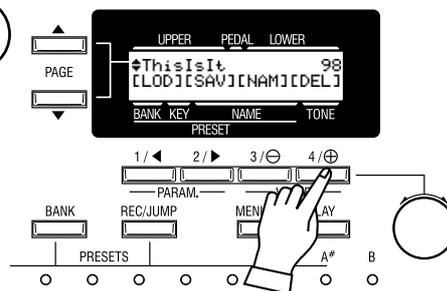
文字を選びます。
選べる文字は数字、記号、アルファベット大文字、アルファベット小文字です。
[REC/JUMP]を押しながらかすと、それぞれの文字種の先頭（スペース、O, A, a）に飛びます。
文字の選択は[VALUE]つまみでも行えます。

5



[PARAM]ボタンでカーソルを一番右に移動します。
[ENT]が表示されます。

6



[4]ENTボタンを押します。
セットアップ名が変更されます。

セットアップを読み込む

この操作を行うと、本体内の設定は読み込んだセットアップに置き換わります。大切なデータは、前もって保存しておくことをお勧めします。

1

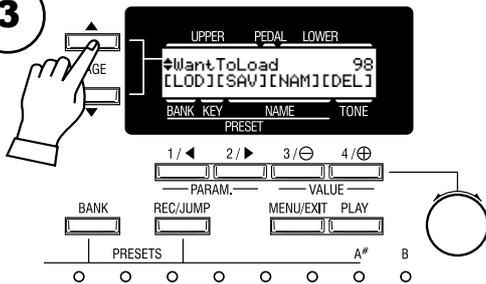
CFカードが正しく挿入されていることを確認します。

2

```
#Amazing Grace 100
[LOD][SAV][NAM][DEL]
```

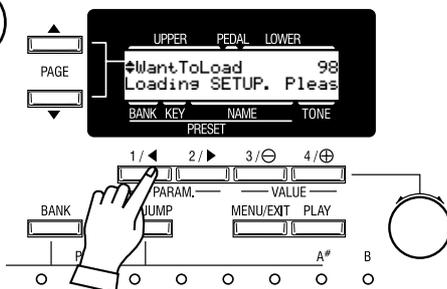
セットアップ画面へ来ます。

3



[PAGE]ボタンで読み込むセットアップを選びます。

4



[1]LODボタンを押します。
数秒でセットアップが読み込まれます。

セットアップを削除する

1

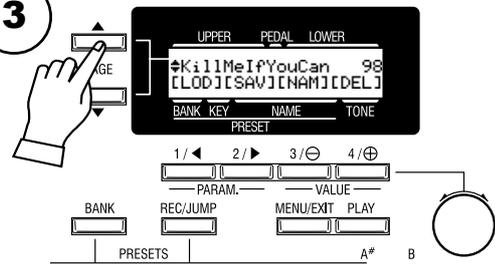
CFカードが正しく挿入されていることを確認します。

2

```
#Amazing Grace 100
[LOD][SAV][NAM][DEL]
```

セットアップ画面へ来ます。

3



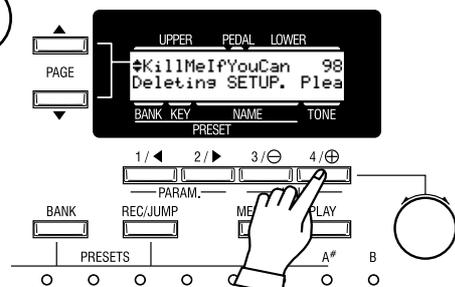
[PAGE]ボタンで削除するセットアップを選びます。

4



[4]DELボタンを押します。
確認画面が表示されます。

5



[4]YESボタンを押します。
削除が行われます。

MEMO: 削除を行わない場合は[3]NOボタンを押します。



トラブルシューティング

操作を受け付けない。

- ・ 一旦 POWER スイッチを OFF にし、再び ON にしてください。もしも復帰しないようであれば、POWER スイッチを OFF にし、[REC/JUMP] ボタンを押したまま POWER スイッチを ON にして下さい。この操作を行うと、本機の全パラメータは工場出荷時に初期化されます。

音が出ない。

- ・ [MASTER VOLUME] (マスターボリューム) が最小になっている → [MASTER VOLUME] を上げてください。(P. 10)
- ・ LOCAL CONTROL (ローカルコントロール) OFF になっている → LOCAL CONTROL を ON にしてください。(P. 86)
- ・ SEND 端子にプラグが差し込まれている → RETURN 端子に音声信号が返ってくるよう接続してください。(P. 16)

エクスプレッションが変化しない。

- ・ エクスプレッションソースが正しく設定されていない → CONTROL 画面のエクスプレッションソースを正しく設定する。(P. 60)

音が歪む。

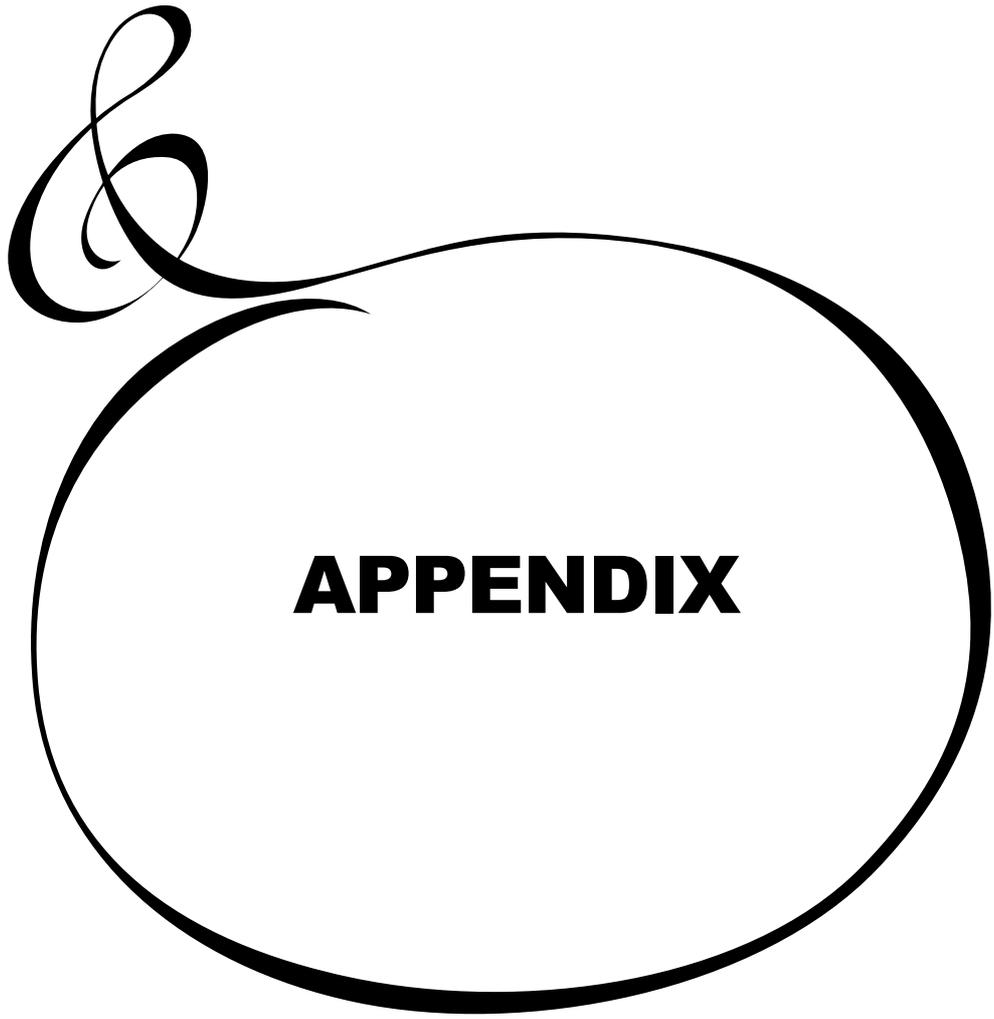
- ・ [TUBE OVERDRIVE] つまみの表示と食い違っている → コンビネーションプリセットを使用して演奏している場合は、つまみの位置と実際のドライブ量は異なっています。[TUBE AMP] ボタンをオフにするか、[TUBE OVERDRIVE] つまみを歪まない位置まで左に回してください。実際のドライブ量は [TUBE AMP] ランプで簡易的に確認することができます。(P. 39)
- ・ ご使用のヘッドホンによっては、[MASTER VOLUME] を最大にすると音が歪むことがあります。このような場合には [MASTER VOLUME] つまみを中央程度でご使用ください。

電源を入れてもすぐに音が出ない。

- ・ [TUBE AMP] ボタンがオンになっている → 本機には真空管回路が使用されています。[TUBE AMP] ボタンがオンの場合、電源を入れてから音が出るまでに 10～20 秒かかります。

[TUBE OVERDRIVE] つまみを回しても音が歪まない。

- ・ オーバードライブ - エクスプレッションが "EX-OD" の場合、エクスプレッション値が低いと歪みません。エクスプレッション値を上げるか、エクスプレッションに関わらず歪ませたい場合はオーバードライブ - エクスプレッションを "OD-EX" にしてご使用ください。(P. 71)



Custom Tone-wheel Templates

B-Type

Real B-3

This template simulates B-3 the classic model in good condition. It contains low motor hum and some leakage noise.

80's Clean

This template simulates B-3 tuned like in 80's sound. It contains reduced leakage noise.

Noisy

This template for passing all sounds of pickaped signal. It contains fully motor hum and leakage noise.

Mellow

Full Flats

This template simulates ideal tone-wheel set. They are in same values at every wheel.

Husky

This template has the character that dropped middle range.

Flute Lead

This template has the character that dropped bass and treble in contrast to "Husky".

Brite

Classic X-5

This template simulates X-5 the classic model in good condition. It contains dull triangle waveform and flat output levels on every wheel.

Voxy Full

This template has the most bright sounds. It is suitable for surfin' music.

Cheap Tr.s

This template simulates junk transistor organ. It contains insufficient bass and treble.

MIDI Templates

Template		Seq. Record	Seq. Play	Use Ex.Zone	Data Range
MIDI In		Lower / Pedal	In1 / In2	Lower / Pedal	Lower / Pedal , In1 / In2
Messages	Local Control	On	Off	On	Off/On
	NRPN	On	On	Off	Off/On
	Program Chg.	On	On	Off	Off/On
	Registration	On	On	Off	Off/On
	Wheel	On	On	Off	Off/On
Transmit Channel	Upper Kbd.	1	1	Off	Off, 1 - 16
	Lower Kbd.	2	2	Off	Off, 1 - 16
	Pedal Kbd.	3	3	Off	Off, 1 - 16
Receive Channel	Upper Kbd.	1	1	Off	Off, 1 - 16
	Lower Kbd.	2	2	Off	Off, 1 - 16
	Pedal Kbd.	3	3	Off	Off, 1 - 16
		Use this template for connecting the organ to an external MIDI sequencer <u>without</u> the "Echo Back" function, and recording songs.	Use this template for connecting the organ to an external MIDI sequencer for playing back songs.	Use this template for connecting the organ to an external MIDI sound generator, such as a synthesizer or sound module, and playing it from the organ.	

[Hammond Combo Organ]
Model: XK-3

MIDI Implementation Chart

Date: 1-Apr-2004
Version: 1.0

Function		Transmitted	Recognized	Remarks
Basic Channel	Default Changed	1 1 - 16	1 1 - 16	Upper Channel *1
Mode	Default Messages Altered	3 X *****	3 X X	
Note Number	: True Voice	12 - 120 *****	36 - 96 36 - 96	
Velocity	Note ON Note OFF	O X	O X	
After Touch	Key's Ch's	X X	X X	
Pitch Bender		O	O	
Control Change	0,32	O	O	Bank Select MSB, LSB
	1	O	O	Modulation
	6,38	O	O	Data Entry MSB, LSB
	7	O	X	Volume
	10	O	X	Pan
	11	O	O	Expression
	16	O	O	Spring Shock
	64	O	O	Hold 1
	80,81,82	O	O	Drawbar Reg. U, L, P
	98,99	O	O	NRPN LSB, MSB
	100, 101	O	X	RPN LSB, MSB
120	X	O	All Sound Off	
121	O	O	Reset All Controllers	
Program Change	: True #	O *****	0 - 127 0 - 11 0 - 11	
System Exclusive		O	O	
System Common	: Song Position	X	X	
	: Song Select	X	X	
	: Tune	X	X	
System Real Time	: Clock	X	X	
	: Commands	X	X	
Aux Messages	: Local On/Off	X	X	
	: All Notes Off	O	O	
	: Active Sense	O	O	
	: Reset	X	X	

Mode 1: OMNI ON, POLY

Mode 2: OMNI ON, MONO

O: Yes

Mode 3: OMNI OFF, POLY

Mode 4: OMNI OFF, MONO

X: No

*1: Lower Channel = 2, Pedal Channel = 3

Part and MIDI Messages

	External Zone (Tx. Only)	Upper Keyboard	Lower Keyboard	Pedal Keyboard
Note	O	O	O	O
Pitch Bend	O	O *1	X	O
Modulation (1)	O	O	X	X
Volume, Pan (7, 10)	O	X	X	X
Expression (11)	O *2	O *3	X	X
Hold 1 (64)	O	O	O	O
Drawbar Reg.	X	CC#80	CC#81	CC#82
Spring Shock (16)	X	O	X	X
RPN (100, 101)	O *4	X	X	X
NRPN (98, 99)	X	O	X	X
All Notes Off (123)	O	O	O	O
All Sounds Off (120)	X	O *5	O *5	O *5
Reset All Ctrl. (121)	O	O	O	O
After Touch	X	X	X	X
Bank Select (0, 32)			X	
Program Change	Change voice each zone.	Combination Presets	Lower Presets	Combination Presets

*1: It works for both Upper and Lower.

*2: It works for each zone.

*3: It work for all parts (audio controlled).

*4: Coarse Tune (for transpose)

*5: For Rx. only.

MIDI Information

[Channel Voice Message]

Note Off

Status	2nd Byte	3rd Byte
8n	kk	vv
9n	kk	00

n=MIDI Channel Number: 0 - F(Ch.1 - 16)
 kk=Note Number: 00 - 7F(0 - 127)
 vv=Velocity(disregard): 00 - 7F(0 - 127)

Note On

Status	2nd Byte	3rd Byte
9n	kk	vv

n=MIDI Channel Number: 0 - F(Ch.1 - 16)
 kk=Note Number: 00 - 7F(0 - 127)
 vv=Velocity: 00 - 7F(0 - 127)

Control Change

The value set by the Control Change is not reset even when Program Change messages etc. are received.

Bank Select

Status	2nd Byte	3rd Byte
Bn	00	mm
Bn	20	ll

n=MIDI Channel Number: 0 - F(Ch.1 - 16)
 mm,ll=Bank Number: 00 00 - 7F 7F
 Default Value = 00 00
 This device process the Lower Byte (ll) of the Bank Number as 00. However, when you send the Bank Select, be sure to send both Upper Byte(mm) and Lower Byte(ll). Until you send the Program Change, the Bank Select process is reserved.

Modulation

Status	2nd Byte	3rd Byte
Bn	01	vv

n=MIDI Channel Number: 0 - F(Ch.1 - 16)
 vv=Modulation Depth: 00 - 7F

Volume

Status	2nd Byte	3rd Byte
Bn	07	vv

n=MIDI Channel Number: 0 - F(Ch.1 - 16)
 vv=Volume: 00 - 7F(0 - 127)
 Default Value = 64(100)

It controls the volume of the Part corresponding to the MIDI Channel of the received message. The volume message is used to set the volume balance of each Ex. zone.

Pan

Status	2nd Byte	3rd Byte
Bn	0A	vv

n=MIDI Channel Number: 0 - F(Ch.1 - 16)
 vv=Pan: 00(Left) - 40(Center) - 7F(Right)
 Default Value = 40(64)

Expression

Status	2nd Byte	3rd Byte
Bn	0B	vv

n=MIDI Channel Number: 0 - F(Ch.1 - 16)
 vv=Expression: 00 - 7F(0 - 127)
 Default Value = 7F(127)

Spring Shock

Status	2nd Byte	3rd Byte
Bn	10	vv

n=MIDI Channel Number: 0 - F(Ch.1 - 16)
 vv=Any:

Hold 1

Status	2nd Byte	3rd Byte
Bn	40	vv

n=MIDI Channel Number: 0 - F(Ch.1 - 16)
 vv=Control Value: 00 - 7F(0 - 127) 0-63 = Off, 64-127 = On

Program Change

Status	2nd Byte
Cn	pp

n=MIDI Channel Number: 0 - F(Ch.1 - 16)
 pp=Program Number
 Upper Channel: Change Combination Preset.
 Lower Channel: Change Lower Preset only.

Pitch Bend Change

Status	2nd Byte	3rd Byte
En	ll	mm

n=MIDI Channel Number: 0 - F(Ch.1 - 16)
 mm=Upper Byte
 ll=Lower Byte 00 00(-8192) - 40 00(0) - 7F 7F(8191)

[Channel Mode messages]

All Sounds Off

Status	2nd Byte	3rd Byte
Bn	78	00

n=MIDI Channel Number: 0 - F(Ch.1 - 16)
 When this message is received, all currently-sounding notes on the corresponding channel will be turned off immediately.

Reset All Controllers

Status	2nd Byte	3rd Byte
Bn	79	00

n=MIDI Channel Number: 0 - F(Ch.1 - 16)
 When this message is received, the following controllers will be set to their reset values.

Controller	Reset Value
Pitch Bend Change	±0 (Center)
Modulation	0 (off)
Expression	127 (Maximum)
Hold 1	0 (off)
RPN	unset; previously set data will not change
NRPN	unset; previously set data will not change

All Notes Off

Status	2nd Byte	3rd Byte
Bn	7B	00

n=MIDI Channel Number: 0 - F(Ch.1 - 16)
 When All Notes Off is received, all notes on the corresponding channel will be turned off. However if Hold 1 is On, the sound will be continued until these are turned off.

NRPN MSB/LSB

Status	2nd Byte	3rd Byte	
Bn	63	mm	(MSB)
Bn	62	ll	(LSB)

n=MIDI Channel Number: 0 - F(Ch.1 - 16)

mm=Upper Byte of the Parameter Number designated by NRPN[MSB].

ll=Lower Byte of same[MSB].

The value set by NRPN is not reset even if "Program Change", "Reset All controllers", etc. are received.

NRPN- "Non Registered Parameter Number"

The expansive range named NRPN is provided in the Control Change, which function is specific on each equipment and not defined in the MIDI Standard.

When you use it, designate the parameter to control, by giving NRPN MSB and NRPN LSB (cc#98 and 99), and then set the value of the designated parameter by the Data Entry MSB(cc#6).

Once the NRPN parameter is designated, all the data entry received into the same channel after that is regarded as the change of the value of the parameter. To avoid any mis-operation, we suggest you to set RPN Null (RPN = 7F 7F), after setting the necessary parameter value.

On this sound module you can change the voice parameter by using NRPN.

Data Entry

Status	2nd Byte	3rd Byte	
Bn	06	mm	(MSB)
Bn	26	ll	(LSB)

n=MIDI Channel Number: 0 - F(Ch.1 - 16)

mm,ll=Value for the Parameter designated by RPN/NRPN.

RPN MSB/LSB

Status	2nd Byte	3rd Byte	
Bn	65	mm	(MSB)
Bn	64	ll	(LSB)

n=MIDI Channel Number: 0 - F(Ch.1 - 16)

mm=Upper Byte of the Parameter Number designated by RPN[MSB].

ll=Lower Byte of same[MSB].

The Value set by RPN is not reset by receiving the "Program Change", "Reset All Controllers", etc.

RPN- "Registered Parameter Number"

The expansive range named RPN is provided in the Control Change, which function is specific on each equipment and not defined in the MIDI Standard.

When you use it, designate the parameter to control, by giving RPN MSB and RPN LSB(cc#101 and 100), and then set the value of the designated parameter by the Data Entry MSB(cc#6).

Once the RPN parameter is designated, all the data entry received into the same channel after that is regarded as the change of the value of the parameter. To avoid any mis-operation, we suggest you to set RPN Null, after setting the necessary parameter value.

Master Coarse Tuning

RPN MSB	RPN LSB	DATA MSB
00	02	3A - 40 - 46 (-6 - 0 - +6 semitones)

This message will sent as Transpose for external zones.

Drawbar Data List

Control number: Upper 50h(80)
 Lower 51h(81)
 Pedal 52h(82)

Data Map:

Level	Upper/Lower									Pedal	
	16'	5 1/3'	8'	4'	2 2/3'	2'	1 3/5'	1 1/3'	1'	16'	8'
0	00h(0)	09h(9)	12h(18)	1Bh(27)	24h(36)	2Dh(45)	36h(54)	3Fh(63)	48h(72)	00h(0)	09h(9)
1	01h(1)	0Ah(10)	13h(19)	1Ch(28)	25h(37)	2Eh(46)	37h(55)	40h(64)	49h(73)	01h(1)	0Ah(10)
2	02h(2)	0Bh(11)	14h(20)	1Dh(29)	26h(38)	2Fh(47)	38h(56)	41h(65)	4Ah(74)	02h(2)	0Bh(11)
3	03h(3)	0Ch(12)	15h(21)	1Eh(30)	27h(39)	30h(48)	39h(57)	42h(66)	4Bh(75)	03h(3)	0Ch(12)
4	04h(4)	0Dh(13)	16h(22)	1Fh(31)	28h(40)	31h(49)	3Ah(58)	43h(67)	4Ch(76)	04h(4)	0Dh(13)
5	05h(5)	0Eh(14)	17h(23)	20h(32)	29h(41)	32h(50)	3Bh(59)	44h(68)	4Dh(77)	05h(5)	0Eh(14)
6	06h(6)	0Fh(15)	18h(24)	21h(33)	2Ah(42)	33h(51)	3Ch(60)	45h(69)	4Eh(78)	06h(6)	0Fh(15)
7	07h(7)	10h(16)	19h(25)	22h(34)	2Bh(43)	34h(52)	3Dh(61)	46h(70)	4Fh(79)	07h(7)	10h(16)
8	08h(8)	11h(17)	1Ah(26)	23h(35)	2Ch(44)	35h(53)	3Eh(62)	47h(71)	50h(80)	08h(8)	11h(17)

ex: Set Lower 8' to level 7 via MIDI...

Bx 51 19

(x=Lower Channel)

System Exclusive Message

Current Dump/Global Dump

1. Each Packet

F0	System Exclusive
55	SUZUKI ID
00	Device ID
10	Model ID MSB
14	Model ID LSB
11	Command: Data Packet
[TYPE]	Data Type 07h= Combi.Preset Dump 08h= Lower Preset Dump 09h= Global Dump
[PNH]	Packet Number MSB
[PNL]	Packet Number LSB
[DATA]	128 Bytes Data 256 Bytes nibblized ASCII ex: 7Eh = 37h, 45h
[CHD]	Check Digit Lower 7 bits of XOR [DATA]
F7	End of Exclusive

2. Acknowledge

F0	System Exclusive
55	SUZUKI ID
00	Device ID
10	Model ID MSB
14	Model ID LSB
14	Command: Acknowledge
[AK]	Result: 00h=OK 05h=Check Digit Error 06h=Receive Protected
[PNH]	Packet Number MSB
[PNL]	Packet Number LSB
F7	End of Exclusive

3. Hand shake communication

Master	Slave
Packet 0	->
	<- Acknowledge 0
Packet 1	->
	<- Acknowledge 1

This device will wait for 20ms if no acknowledges is received and transmit the next data of the packet number. (One Way Transfer)

NRPN Switch

F0	System Exclusive
55	SUZUKI ID
00	Device ID
10	Model ID MSB
14	Model ID LSB
02	Command: NRPN Sw.
[DATA]	00h=Off, 7Fh=On
F7	End Of Exclusive

When this device receives this message, switch Tx&Rx NRPN in Control channel.

Mode Setting Exclusive Message

Full Parameters Reset

F0	System Exclusive
55	SUZUKI ID
10	Device ID for DT1
42	Model ID for DT1
12	Command: DT1
40	Address MSB
00	Address
7F	Address LSB
7F	Reset
42	Check Sum
F7	End of Exclusive

When this device receives this message, it is reset to the initial status of Full Parameter, and gets ready for receiving the music data for the this device correctly. It takes about 50ms to process this message. Take an interval before the next message.

Global Parameters

Category	Global Parameters					
	Parameter	NRPN		DATA MSB (06)	Default	Description
		LSB (62)	MSB (63)			
Tune	Transpose	01	00	3A - 40 - 46 (-6 - 0 - 6)	40	0
	Master Tune	01	02	032E - 0338 - 0342 (430 - 440 - 450)	0338	440
Expression	Source	02	00	00 - 03 00: Exp. Pedal 1 (Normal) 01: Exp. Pedal 1 (Reverse) 02: EXP-100 03: MIDI IN	02	EXP-100
	Min. Level	02	08	00 - 0D	06	-35dB
	Min. Limit LF	02	09	(Off, -60dB - -0dB)	09	-20dB
	Min. Limit HF	02	0A		07	-30dB
Foot Switch	FS1 Device	02	01	00 - 01 (Foot Sw, CU-1)	00	Foot Sw
	Mode FS1 Tip	02	02	00 - 09 00: Off 01: Leslie Fast(alternate) 02: Leslie Fast(momentaly)	01	Leslie Fast (alternate)
	Mode FS1 Ring	02	03	03: Damper Upper 04: Damper Lower 05: Damper Pedal 06: Preset Fwd. 07: Preset Rev. 08: Spring Shock 09: Delay Time	01	Leslie Fast (alternate)
	Mode FS2	02	04		01	Leslie Fast (alternate)
Tone Knob	Mode	02	05	00 - 02 (Bass / Mid / Treble)	02	Treble
Drawbar Knob	Mode	02	06	00 - 01 00: Upper / Lower 01: A# / B	00	Upper / Lower
Demo Switch	Mode	02	07	00 - 07 00: Demo Play 01: Pedal Sustain 02: External Zone 03: Lower Octave 04: Leslie Brake 05: Leslie On 06: Leslie Fast 07: Vibrato On	00	Demo Play
Combi. Preset Load	Link Lower/Pedal(Link L/P)	50	00	00, 01 (Off/On)	01	On
	Upper Regist. (UK)	6b	00	00, 01 (Off/On)	01	On
	Split, ManBs (INT)	6b	01	00, 01 (Off/On)	01	On
	External Zone (EXT)	6b	02	00, 01 (Off/On)	01	On
	Reverb, Equalizer (RV/EQ)	6b	03	00, 01 (Off/On)	01	On
	Leslie, Vibrato (ANI/OD)	6b	04	00, 01 (Off/On)	01	On
	Drawbar (DRAWB)	6b	05	00, 01 (Off/On)	01	On
	Percussion (PERCUS)	6b	06	00, 01 (Off/On)	01	On
Tone-Wheel set	B-Type	03	00	00 - 04	00	Classic B-3
	Mellow	03	01	00 - 04	00	Full Flats
	Brite	03	02	00 - 04	00	Classic X-5

b: Bank Number
00 - 0B (C - B)

Tone-wheel Parameters

Category	Tone-wheel Parameters		
	Wheel #	Parameter	Value
B-Type, Mellow, Brite	01: 1C - 96: 8B	Level	-20 - +2 [dB]
		HPF Cut Off	0 - 127
		LPF Cut Off	0 - 127
		LPF Resonance	-100 - +100

Preset Parameters

Category	Combination Preset Parameters				
	Parameter	NRPN		DATA MSB (06)	P. load
		LSB (62)	MSB (63)		
Name	10 Characters				always
Drawbar Effect	Leslie On	09	00	00, 01 (Off/On)	ANI/OD
	Leslie Fast	09	01	00, 01 (Slow/Fast)	
	Leslie Brake	09	06	00, 01 (Through / Brake)	
	Leslie Cabinet	09	07	00 - 07 (1 - 8)	
	Leslie Mod. Ctrl	09	08	00, 01 (Off/On)	
	Vibrato On	09	02	00, 01 (Off/On)	
	Vibrato Mode	09	03	00 - 05 (V1 - C3)	
	Vibrato Rate	09	04	00 - 04 (6.1 - 7.25Hz)	
	OD On	09	09	00, 01 (Off/On)	ANI/OD
	OD Preamp Type	09	0A	00 - 02 (Dual1, Dual2, Single)	
	OD Drive Level Master	09	05	00 - 3F (0 - 63)	
	OD Blend Master	09	0B	00 - 3F (0 - 63)	
	OD Exp. Ctrl	09	0C	00, 01 (Off/On)	
	OD Crossover Freq	09	0D	00 - 05 (125 - 800Hz)	
	OD HF Phase Invert	09	0E	00, 01 (Off/On)	EQ/REV
	EQ Bass Gain	0A	00	00 - 09 - 12 (-9 - 0 - +9 dB)	
	EQ Mid Gain	0A	01	00 - 09 - 12 (-9 - 0 - +9 dB)	
	EQ Treble Gain	0A	02	00 - 09 - 12 (-9 - 0 - +9 dB)	
	EQ Mid Freq	0A	03	00 - 0A (480 - 2.9kHz)	
Reverb On	0A	04	00, 01 (Off/On)		
Reverb Type	0A	05	00 - 09 00: Room 1 01: Room 2 02: Live House 03: Hall 1 04: Hall 2 05: Church 06: Plate 07: Delay 08: Panning Delay 09: Reverb + Delay	EQ/REV	
Reverb Depth	0A	06	00 - 0F (0 - 15)		
Reverb Time	0A	07	00 - 1F (0 - 31)		
Reverb Delay Feedback	0A	08	00 - 1F (0 - 96%)		
Reverb Delay Time	0A	09	00 - 3F (4.7 - 1000ms)		

Category	Combination Preset Parameters				
	Parameter	NRPN		DATA MSB (06)	P. load
		LSB (62)	MSB (63)		
Internal Zone	Split On	07	00	00, 01 (Off/On)	INT
	Manual Bass On	07	01	00, 01 (Off/On)	
	L&U Key Range Low	07	02	24 - 5F	
	L&U Key Range High	07	03	25 - 60	
	Pedal Key Range High	07	04	24 - 60	
	Split Point	07	05	24 - 5F	
	Split Lower Octave	07	06	00, 01 (0, +1)	
External Zone	Channel	4p	00	00 - 10 (1 - 16, Off)	EXT
	Bank MSB	4p	01	00 - 7F	
	Bank LSB	4p	02	00 - 7F	
	Program Change	4p	03	00 - 7F	
	Octave Shift	4p	0A	3E - 40 - 42 (-2 - 0 - +2)	
	Volume	4p	04	00 - 7F	
	Pan	4p	05	00 - 40 - 7F (Left - Center - Right)	
	Vel. Curve	4p	06	00 - 04 (Off, Normal - Easy)	
	Exp. Min	4p	08	00 - 3F (0 - 63)	
	Exp. Max	4p	09	40 - 7F (64 - 127)	
	Exp. CC#	4p	07	00, 01 (7, 11)	
	Tx. Bend On	4p	0B	00, 01 (Off/On)	
	Tx. Modulation On	4p	0C	00, 01 (Off/On)	
	Tx. Damper Source	4p	0D	00 - 03 (Off, 1T, 1R, 2)	
Key Range Low	4p	0E	24 - 5F		
Key Range High	4p	0F	25 - 60		
			<i>p: Zone Number 00 - 02 (Zone 1 - 3)</i>		

Category	Combination Preset Parameters				
	Parameter	NRPN		DATA MSB (06)	P. load
		LSB (62)	MSB (63)		
Upper/ Lower Drawbar Voice	Voice Type	20	00	00 - 02 00: B-Type 01: Mellow 02: Brite	DRAWB
	Drawbar Click Attack	20	01	00 - 0F (0 - 15)	
	Drawbar Click Release	20	02	00 - 0F (0 - 15)	
	Drawbar Env. Attack	20	03	00 - 0F (0 - 15)	
	Drawbar Env. Release	20	04	00 - 0F (0 - 15)	
	Fold Back Low	20	05	00 - 0C (C1 - C2)	
	Fold Back High	20	06	2B - 30 (G4 - C5)	
	Bend Range Down	20	07	00 - 18 (0 - 24)	
	Bend Range Up	20	08	00 - 0C (0 - 12)	
	Bend Mode	20	0A	00 - 01 (Bend / Motor)	
	Bend Time	20	0B	00 - 31 (0.1 - 5.0s)	
	Bend Amplitude	20	0C	00 - 01 (Off/On)	
	Drawbar Click LPF	20	09	00 - 7F (0 - 127)	
	Percussion Voice	Second On	08	00	
Third On		08	01	00, 01 (Off/On)	
Decay Fast		08	02	00, 01 (Off/On)	
Soft		08	03	00, 01 (Off/On)	
Level Soft		08	04	00 - 0F (1 - 16)	
Level Normal		08	05	00 - 0F (1 - 16)	
Decay Fast		08	06	00 - 09 (1 - 9, C)	
Decay Slow		08	07	00 - 09 (1 - 9, C)	
Touch		08	08	00, 01 (Off/On)	
Velocity		08	09	00, 01 (Off/On)	
Key Track		08	0A	00, 01 (Off/On)	
Drawbar 1' Cancel		08	0B	00, 01 (Off/On)	
Drawbar Level		08	0C	00, 01 (0, -3dB)	
Upper Drawbars		16'	see Drawbar Data List for details		
	5 1/3'				
	8'				
	4'				
	2 2/3'				
	2'				
	1 3/5'				
	1 1/3'				
	1'				

Category	Lower Preset Parameters				
	Parameter	NRPN		DATA MSB (06)	P. load
		LSB (62)	MSB (63)		
Lower Drawbars	16'	see Drawbar Data List for details			Link L/P
	5 1/3'				
	8'				
	4'				
	2 2/3'				
	2'				
	1 3/5'				
	1 1/3'				
Pedal Drawbar Voice	Voice Type	22	00	00 - 02 00: Normal 01: Muted 02: Synth	Link L/P
	Drawbar Attack	22	01	00 - 04 00: Slow Attack 01: No Click 02: Soft Click 03: Normal Click 04: Max Click	
	Bend Range Down	22	02	00 - 18 (0 - 24)	
	Bend Range Up	22	03	00 - 0C (0 - 12)	
	Sustain On	22	04	00, 01 (Off/On)	
	Sustain Length	22	05	00 - 04 (1 - 5)	
	Pedal Key Mode	22	06	00, 01 (Mono/Poly)	
	Decay Length	22	07	00 - 05 (1 - 5, Cont.)	
	Velocity	22	08	00 - 04 (Off, 1 - 4)	
	Pedal Drawbars	16'	see Drawbar Data List for details		
8'					

Leslie Parameters

Category	Leslie Parameters						
	Parameter	NRPN on XK		NRPN on 21		DATA MSB (06)	Default
		LSB (62)	MSB (63)	LSB (62)	MSB (63)		
Cabinet #1 - 8	Name					(10 Characters)	
	Slow Speed Horn	06	00	7F	00	00 - 09(0, 24 - 48rpm)	05 (36rpm)
	Slow Speed Bass	06	01	7F	01	00 - 09(0, 24 - 48rpm)	05 (36rpm)
	Fast Speed Horn	06	02	7F	02	00 - 15(0, 375 - 435rpm)	07 (393rpm)
	Fast Speed Bass	06	03	7F	03	00 - 15(0, 375 - 435rpm)	07 (393rpm)
	Rise Time Horn	06	04	7F	04	00 - 18(0.2 - 5.0s)	0A (2.2s)
	Rise Time Bass	06	05	7F	05	00 - 18(0.5 - 12.5s)	0D (7.0s)
	Fall Time Horn	06	06	7F	06	00 - 18(0.2 - 5.0s)	04 (1.0s)
	Fall Time Bass	06	07	7F	07	00 - 18(0.5 - 12.5s)	0F (8.0s)
	Brake Time Horn	06	08	7F	08	00 - 18(0.2 - 5.0s)	05 (1.2s)
	Brake Time Bass	06	09	7F	09	00 - 18(0.5 - 12.5s)	13 (10s)
	Volume Horn	06	0A	--	--	00 - 0C(-12 - 0dB)	0C (0dB)
	Volume Bass	06	0B	--	--	00 - 0C(-12 - 0dB)	0C (0dB)
	Mic. Angle	06	0C	7F	0A	00 - 06(0 - 180deg)	04 (120deg)
	Mic. Distance	06	0D	7F	0B	00 - 08(0.3 - 2.7m)	01 (0.6m)
Horn Character	06	0E	7F	0D	00 - 02(Flat, Mid, Deep)	00 (Flat)	

System Parameters

Category	System Parameters		
	Parameter	Data Range	Default
MIDI	MIDI In Port	Lower/Pedal , In1/In2	In1/In2
	Local	Off / On	On
	TRx. NRPN	Off / On	On
	TRx. Prog. Change	Off / On	On
	TRx. Drawbar Regi.	Off / On	On
	TRx. Wheel Control	Off / On	On
	Rx. Dump	Off / On	On
	TRx. Channel Upper	1 - 16, Off	1
	TRx. Channel Lower	1 - 16, Off	2
TRx. Channel Pedal	1 - 16, Off	3	
Display	To Shortcut	0, 1, 2s, No	1s
	Time Out	4, 8, 16, No	No
Ext. Leslie	Channel	1, 2or3	1
Noise Gate	Return	Threshold1, Threshold2, Open	Threshold1

Combi. and Bank/Program Messages

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
Program Change												
Bank Select MSB	Preset Key											
	C	C#	D	D#	E	F	F#	G	G#	A	A#	B
0												
1												
2												
3												
4												
5												
6												
7												
8												
9												
10												
11												

Adjust B

ex: Change to Bank E - Key C# via MIDI... Bx 00 04 Cx 01 (x=Upper Channel)

Sound Generator

2 x VASE III as
Digital Tone-wheels

Keyboard

73 (61 + 12 Preset keys)
Water Fall with Velocity

Harmonic Drawbars

Upper

9 Pitches, B-type/Mellow/Brite

Lower

9 Pitches

Pedal

2 Pitches, Muted/Normal/Synth

Percussion

Tabs

Second On, Third On,
Fast Decay, Soft

Adjustable

Touch, Velocity,
Decay (Fast, Slow)
Level (Soft, Normal)

Tuning

Master

430 - 450 1Hz Steps

Transpose

-6 - 0 - +6 semitones

Effects

Internal Leslie

On, Fast, Brake
Digital, 2 Rotors

Vibrato and Chorus

V1, V2, V3, C1, C2, C3
Upper&Lower On/Off
Speed: 5(6.10 - 7.25Hz)

Pre-amp

Preamp On, Overdrive
Vacuum tube amplifier

Equalizer

3 Bands

Reverb

10 Programs

Sustain

5 Lengths (Pedal)

Internal Zone

Tabs

Split
Manual Bass

Adjustable

Map Low, High
Split Point
Lower Octave
Pedal Top key

Combination Presets

12 banks x 11 Presets
+ Adjust B
Switchable: Link/Independent

Controllers

Switches

Power On / Off

Rotary Controllers

Master Volume
Tube Overdrive
Tone

Wheels

Pitch Bend
Modulation

Display

20-characters, 2 lines
with 9 control switches
and Rotary encoder

Storage

CompactFlash card slot

MIDI

Templates: 3 modes
Zoned 3 parts
and Keyboard Ch.

Connections

AC Inlet
MIDI In1, In2, Out
Exp. Pedal 1, 2,
Foot Switch 1,
Effect Send, Return,
Line Out L/Mono, R,
Headphone,
11-pin Leslie

Dimension

119(W) x 40 (D) x 12(H)cm

Weight

19.5kg

この商品には保証書を別途添付しております。保証書は販売店でお渡しいたしますので、所定の事項の記入後、記載内容をご確認の上大切に保管して下さい。

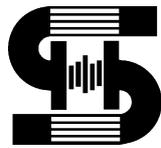
保証期間はご購入日より1年間です。保証書の記載内容によりご購入販売店が修理いたします。その他、詳細は保証書をご覧ください。

保証期間が切れましても、修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理いたします。

アフターサービスについてご不明の場合は、ご購入の販売店またはもよりの営業所にお問い合わせ下さい。

株式会社 鈴木楽器製作所

〒430-0852 浜松市領家2-25-12 (053)461-2325



デモ・ソング一覧 & 作曲者プロフィール

デモ曲の操作方法

1. [DEMO]ボタンを押します。
2. [PAGE]ボタンで選曲します。
3. [4]再生ボタンを押すと、デモ演奏が始まります。

Songs / Composers

1. **XK-3 Happy**
Joey DeFrancesco
2. **Acid Wash**
Tony Monaco
3. **Shooting Star**
Daisuke Kawai
4. **B-3 Cookin'**
Deryl Winston
5. **Liberation**
Takanobu Masuda
6. **Something Slow**
Joey DeFrancesco
7. **Shakin'**
Joey DeFrancesco

ジョーイ デフランチェスコ

4歳、ハモンドオルガンの演奏を始める。「どういうわけか演奏出来た。家中にあるジミー・スミスやそのような音楽を既に聴いていた。それからある時、父の“パパジョン”デフランチェスコがギグから家にハモンドオルガンを持ってきた。その音を聞いた時、僕は本当にそれにのめりこんでしまった。父が僕を正しい方向に導いてくれた、すべき事とすべきことでない事、しかし彼はそれについて強制したことは一度もなかった」

10歳、既に週末のギグでお金を稼ぐ。高校の時、フィラデルフィア周辺で着々と演奏活動し、ジミー・スミス、ジャック・マグダフやそれ以外の多くの最高レベルオルガニストが近くの都市に来た時には彼らから手ほどきを受ける。彼の高く評価されているキャリアはマイルス・デービスに彼の1980年代後半のバンドに参加するように誘われたことから始まる。それからコロンビアと契約し1989～1994年まで5枚のレコードを録音。1989年のアルバム“All of Me”リリースと共に、ジャズシーンに現れる。ジョーイと彼の1980年代後半～1990年初めのレコーディングを、ハモンドB-3オルガンへの愛着を再び燃え上らせる1つのセンセーションとして、全世界のジャズ界は賞賛。2003年、ジョーイと彼のバンドは最新ヒットCD、“Falling in Love Again”をリリース。このCDは、“New B-3”オルガンで録音される。

2002/2003年、ダウンビート誌により「年間最優秀オルガニスト」に選出される。現在、ハモンドスズキと共に積極的に活動。ディーラープロモーション、国内コンベンション、コンサート、クリニックなど以外にハモンド製品の開発にも貢献。

トニー モナコ

8歳からアコーディオンの演奏を始める。12歳の時、ジミー・スミスのアルバムをもらい、すぐにジャズオルガンが自分の天職ということを知る。まだハモンドB3オルガンの技術を学んでいる時にオハイオ州コロンバス周辺のジャズナイトクラブで演奏を始める。地元オルガニストのハンク・マーやドン・パターソンの影響を受ける。その後、伝説的なジャズオルガニストのジミー・マガリフ、リチャード“グループ”ホームズ、チャールズ・イアーランド、ジャック・マグダフ、ドクター・ロニースミスに魅せられる。ここで彼はインスピレーションの限らない源を見つけたが、十分ではなかった！16歳の誕生日に、ジミー・スミスから電話を受け取る。これはとても光栄なことでもオルガニストとしての彼の熱意にさらに拍車をかける出来事となる。20歳、ジミー・スミスはカリフォルニア州ロサンゼルス、ウッドランドヒルにある彼のクラブで一緒に演奏する為にトニーを招待。トニーにとってそれは忘れられない経験の1つ。2000年4月、ジャズオルガニストのジョーイ・デフランチェスコがオハイオ州コロンバスで演奏している時、二人は出会い、即友達になる。ジョーイはトニーの才能をすぐに認め、CDを録音するようにオファー。トニーの“Burnin' Grooves”は国際的な注目を引き起こす。ハモンドスズキとの関係が深まるにつれ、各地を回ってハモンド“New B-3”の演奏をしている。

河合代介 (かわい だいすけ)

1989年スタジオ・ミュージシャンとしてデビュー。今までサポートとしてコーネリアス、武田真治、最近ではモーニング娘。や浜崎あゆみ、cobaなど幅広く参加。自身のバンド、Tone Wheels、新しいユニット、Opusでも活躍している。

ダリル ウィンストン

米国サンディエゴに長く在住。故郷ワシントン州シアトルに住んでいた14歳の時、ハモンドオルガンの演奏を始める。母アリス・ウィンストン(コンサート・ピアニスト)と叔母ジーン・マックグロー(ハモンドオルガン奏者)という2人の最も素晴らしいゴスペルミュージシャンに教わる。直ぐにハモンドオルガンの演奏でその驚くべき才能と技術がシアトルエリアの多くの人々に知れ渡る。2000年初めには、ハモンドスズキUSAの重役に紹介される。彼らはダリルにとっても感動し、彼らのアーティストの一人になる為に彼をアナハイムウィンターナムショーに招待。それからというもののハモンドコンサートアーティストとして各地を回り続けている。彼は献納コンサートやハモンドオルガンとゴスペル音楽の中でのハモンドオルガンの重要性についてセミナーを開いている。ハモンドスズキUSAの代表者であることにとっても感謝し、誇りに思っている。ダリルのモットーは「ハモンドがない限り、ジャムしているとは言えない！」

増田隆宣 (ますだ たかのぶ)

幼少よりオルガンを学び、15歳の頃からハモンドオルガンに興味を持つ。18歳でハモンドNew X-5 & Leslie #760を購入し、主にロック的奏法、アプローチを研究。その後、セッション・キーボーディストとして、数々のアーティストのレコーディングやライブに参加する。XB/XMシリーズに於いては、プロ・ミュージシャンの観点から、さまざまなアドバイスをを行っている。

これらのデモ・ソングの著作権は、すべて株式会社鈴木楽器製作所が所有しています。

これらのデモ・ソングを個人で楽しむ以外に権利者の許諾なしで使用することは、法律で禁じられています。

デモ・ソング演奏中は、各コントローラは以下のものを除き動作しません。[MASTER VOLUME], [LESLIE BRAKE], [LESLIE ON], [LESLIE FAST], [VIBRATO AND CHORUS], [REVERB]

ファクトリー・プリセット一覧

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
Program Change												
Bank Select MSB	Preset Key											
	C	C#	D	D#	E	F	F#	G	G#	A	A#	B
0	Cancel	Jimmy	Lo & Hi 1	Warmth	Groove	Funky	Purple	Funky 2	Full Tibias	Full Organ	Full Church	
1	Cancel	Jimmy 1	Jimmy 2	Jimmy 3	Burner	Groove	Smooth Bass	Shirley	Jimmy MC	Fat Bass	All Nine	
2	Cancel	Gospel 1	Gospel 2	Gospel 3	Gospel 4	Praise 1	Praise 2	Praise 3	Praise 4	Meditation	Full Gospel	
3	Cancel	Purple	Perc Holow	Some Lovin	Booker	Rock 1	Rock 2	Rock 3	Full 1	Full 2	Full Overd	
4	Cancel	Theatre C#	Theatre D	Theatre D#	Theatre E	Theatre F	Theatre F#	Theatre G	Theatre G#	Theatre A	Full Theatre	
5	Cancel	Tibia 8 & 4	Tibia 8 & 2	Tibia & Vox	Tibia 8,4 & 2	Tibia 16 & 8	Tibia 16 & 4	Tibia 16, 8 & 4	Tibia 16,8,4&2	Tibia 16,8,4,2,1	Full Tibia	
6	Cancel	Gedeckt 8	Flute 8 & 4	Principi 8	Princ Chrs	Rohr Flute	Gamba Cist	Comet	Sesquialtr	Chrs & Mxt	Sforzando	
7	Cancel	Lo & Hi 1	Lo & Hi 2	Lo & Hi 3	Odd Harm	M3 Low Man	Perc 16 & 4	Solo 16 & 2	Cute Solo	Eddies-wind	Full Hamm	
8	Cancel	White Shade	Percuss Bass	Four Beat	Funk Bass	Surf Coast	Blue Tigers	10th Avenue	Popcorn	Doubling	N. E. S.	
9	Cancel	Soloist	Choke Nose	S.F. 4ever	Tea Lounge	Le Femme	Triplet 90	Triplet 100	Triplet 110	Triplet 120	Triplet 130	
10	Cancel	SomeSlow 1	SomeSlow 2	SomeSlow 3	AcidWash 1	AcidWash 2	B-3 Cookin'	Shooting 1	Shooting 2	Liberatio 1	Liberatio 2	
11	Cancel	Stopped Fl	Dulciana	Fr. Horn	Salicional	Flutes 8 & 4	Oboe Horn	Diapason	Trumpet	Full Swell	Full Church	

ex: Change to Bank E - Key C# via MIDI... Bx 00 04 Cx 01 (x=Upper Channel)